

令和2年度入学生用
1年次(令和2年度)開講

履 修 要 項

(*syllabus*)

生活科学科

生活福祉専攻
食物栄養学専攻

鹿児島女子短期大学
Kagoshima Women's College

令和2年度入学生 教育課程

別表 第2 生活科学科 生活福祉専攻教育課程表

授業科目名の前の数字はページ番号

区分	授業科目	授業形態	履修方法		開講学期				備考	
			卒業履修 単位数	必修 選択	単位数					
					1前	1後	2前	2後		
一般 教 養 科 目	わたしを知る・わたしを創る									
	心と思想の探求(人間の心に迫り人間を知る)									
	13	日本語表現の基礎	講義	2	2	2				介護福祉士選択必修(人間と社会領域)
	15	倫理学★	講義	2	2	2				
	17	文学	講義	2	2	2				
	21	心理学	講義	2	2	2				
	健康の探求(健康な心と体をつくる)									
		体育講義	講義	1					1	
		体育実技	実技	1					1	
	社会を知る・社会につながる									
	社会の探求(社会に目を向ける)									
	23	社会学	講義	2	2	2				介護福祉士選択必修(人間と社会領域)
	25	国際化と経済	講義	2	2	2				
	27	日本国憲法★	講義	2	2	2				
	29	歴史学	講義	2	2	2				
		WE LOVE 鹿児島!	演習	1					1	
	キャリアの探求(職業を考え人生を設計する)									
	31	インターンシップ	演習	2	2					
	33	キャリアガイダンスⅠ	演習	1		1				
		キャリアガイダンスⅡ	演習	1				1		
	世界を知る・世界を広げる									
	異文化の探求(海外に目を向ける)									
	37	海外事情	演習	2		2				海外研修 英語・フランス語・中国語・韓国語・日本語 演習のいずれかのⅠ・Ⅱを連続選択履修 *日本語演習は留学生対象科目 参照:別表5 留学生特別科目教育課程表
	39	英語演習Ⅰ	演習			2				
	43	フランス語演習Ⅰ	演習			2				
	45	中国語演習Ⅰ	演習	2		2				
	47	韓国語演習Ⅰ	演習			2				
	51	日本語演習Ⅰ	演習			2				
	53	英語演習Ⅱ	演習			2				
	57	フランス語演習Ⅱ	演習			2				
	59	中国語演習Ⅱ	演習	2		2				
	61	韓国語演習Ⅱ	演習			2				
	65	日本語演習Ⅱ	演習			2				
自然界の探求(いろいろな世界に目を向ける)										
67	数学基礎★	講義	2	2	2				介護福祉士選択必修(人間と社会領域)	
69	理科基礎	講義	2	2	2					
71	分子からみた生物	講義	2	2	2				介護福祉士選択必修(人間と社会領域)	
73	人間と環境★	講義	2	2	2					
最低修得単位数			7	7						
卒業最低修得単位数			14							

注: ★の科目から6単位以上選択必修「人間と社会領域」

区分	ページ番号	授業科目	授業形態	履修方法				開講学期単位数				備考
				卒業履修単位数		介護福祉士履修単位数		1前	1後	2前	2後	
				必修	選択	必修	選択					
専 門 科 目	【人間と社会】											
	77	人間の尊厳と自立◆	講義	2		2			2			医療実務士選択必修
		人間関係とコミュニケーション▲	講義		2	2					2	
	79	社会学概論	講義		2	2		2				
	81	社会と制度の理解◆	講義	2		2		2				
	83	社会保障論	講義	2		2			2			介護福祉士選択必修(人間と社会領域)
		住環境と福祉★	講義		2		2			2		
	85	レクリエーション概論★	講義		1		1	1				
	【介護】											
	87	介護の基本Ⅰ◆	講義	2		2		2				医療秘書/介護保険実務士選択科目
	89	介護の基本Ⅱ◆	演習	1		1		1				
	91	介護の基本Ⅲ◆	講義	2		2			2			
		介護の基本Ⅳ	講義	2		2					2	
		社会福祉援助技術▲	講義		2	2					2	
		リハビリテーション論	講義		2	2					2	
	93	コミュニケーションの基礎▲◆	講義	2		2			2			
		コミュニケーション演習	演習		1	1					1	
	95	生活支援技術A◆	演習	2		2		2				
	97	生活支援技術B	演習		2	2			2			
		生活支援技術C	演習		2	2					2	
		生活支援技術D	演習		1	1					1	
	99	生活支援技術(住)	講義		2	2		2				
		生活支援技術(食・衣)	演習		2	2					2	
	101	介護過程Ⅰ	講義		2	2		2				
	103	介護過程Ⅱ	講義		2	2			2			
		介護過程Ⅲ	演習		1	1					1	
		介護過程Ⅳ	演習		1	1					1	
		ケアマネジメント	演習		1	1					1	
	105	介護総合演習Ⅰ・Ⅱ	演習		1	1			1			介護保険実務士2科目選択必修
		介護総合演習Ⅲ	演習		1	1				1		
		介護総合演習Ⅳ	演習		1	1					1	
		事例研究(ゼミナール)	演習		1	1					1	
107	介護実習Ⅰ	実習		3	3			3				
109	介護実習Ⅱ	実習		2	2			2				
	介護実習Ⅲ	実習		2	2					2		
	介護実習Ⅳ	実習		3	3					3		

注: ★の科目から6単位以上選択必修「人間と社会領域」
▲印=ピアヘルパー認定試験受験資格2科目4単位選択必修
◆印は介護職員初任者研修読み替え可能科目

区分	ページ番号	授業科目	授業形態	履修方法				開講学期単位数				備考	
				卒業履修単位数		介護福祉士履修単位数		1前	1後	2前	2後		
				必修	選択	必修	選択						
専門科目		【こころとからだのしくみ】											
	111	発達と老化の理解 ▲◆	講義	2		2		2					
	113	高齢者の介護 ◆	演習	1		1			1				
	115	認知症の理解	講義	2		2			2				
		認知症者の介護	演習		1	1					1		
	117	障害の理解 I ◆	講義	2		2			2				
		障害の理解 II	講義		2	2					2		
	119	こころとからだのしくみ I (医学一般) ◆	講義	2		2			2				医療秘書実務士選択科目
		こころとからだのしくみ II (精神) ▲	講義		2	2						2	介護保険実務士1科目選択必修
	121	介護技術の基礎 ◆	講義	2		2			2				
		ターミナルケア	講義		2	2							2
		【医療的ケア】											
	123	医療的ケア	講義		2	2			2				
	125	経管栄養	講義		2	2				2			
		喀痰吸引	講義		2	2					2		
		経管栄養演習	演習		2	2					2		
		喀痰吸引演習	演習		2	2							2
		医療秘書実務士											
		基礎医学関連科目											
	127	解剖生理学	講義		2		2		2				
	129	薬理の基礎	講義		2		2		2				医療秘書実務士必修
		人類学	講義		2		2					2	
		医療秘書・実務関係科目											
	131	秘書実務	演習		2		2	2					
		医療秘書実務実習	実習		1		1				1		医療秘書実務士必修
	133	医療事務総論(医療秘書実務含む)	講義		2		2		2				
	135	医療事務演習	演習		2		2		2				
		介護保険実務士											
	介護事務総論	講義		2		2				2		介護保険実務士必修	
	介護事務演習	演習		1		1					1		
	関連科目												
137	情報処理	演習		1		1		1				医療秘書/介護保険実務士必修	
139	レクリエーション活動援助法 I	演習		1		1	1					レクリエーションインストラクター資格必修	
141	レクリエーション活動援助法 II	演習		1		1		1					
	レクリエーションワーク	演習		1		1				1			
	聴覚障害者の生活支援	演習		1		1					1		
	最低修得単位数			28	20	84							
卒業最低修得単位数			必修 28	選択 20	合計 48								
最低修得単位数総計			卒業 62	[介護福祉士 98]									

注: ▲印=ピアヘルパー認定試験受験資格2科目4単位選択必修

◆印は介護職員初任者研修読み替え可能科目

別表 第2の2 [介護保険実務士]養成科目

(○印は専門科目と重なる)

ページ 番号	授業科目	授業 形態	履修方法		開講学期 単位数				備考
			履修 単位数		1前	1後	2前	2後	
			必修	選択					
(81)	○社会と制度の理解	講義	2		2				2科目 選択必修
(87)	○介護の基本 I	講義			2				
(89)	○介護の基本 II	演習			1				
(91)	○介護の基本 III	講義	2			2			
	○介護の基本 IV	講義						2	
(119)	○こころとからだのしくみ I (医学一般)	講義	2			2			
	○こころとからだのしくみ II (精神)	講義						2	
(111)	○発達と老化の理解	講義	2		2				
(95)	○生活支援技術 A	演習			2				
(97)	○生活支援技術 B	演習	1			2			
	○生活支援技術 C	演習					2		
	○生活支援技術 D	演習						1	
(137)	○情報処理	演習	1			1			
(107)	○介護実習 I	実習				3			
	○ケアマネジメント	演習		2				1	
(105)	○介護総合演習 I・II	演習			1				
	○介護事務総論	講義	2				2		
	○介護事務演習	演習	1					1	
最低単位修得数総計 [15]			13	2					

別表 第2の3 [医療秘書実務士]養成科目

(○印は専門科目と重なる)

ページ 番号	授業科目	授業 形態	履修方法		開講学期 単位数				備考	
			履修 単位数		1前	1後	2前	2後		
			必修	選択						
基礎医学関係科目										
(127)	○解剖生理学	講義	2			2			学外実習	
(129)	○薬理の基礎	講義	2			2				
	○人類学	講義	2					2		
医療秘書・実務関係科目										
(131)	○秘書実務	演習	2		2					
	○医療秘書実務実習	実習	1				1			
(133)	○医療事務総論(医療秘書実務含む)	講義	2			2				
(135)	○医療事務演習	演習	2			2				
(137)	○情報処理	演習	1			1				
福祉関係科目										
	○社会と制度の理解	講義	2					2		
その他関連選択科目										
(119)	○人間関係とコミュニケーション	講義						2		
	○こころとからだのしくみ I (医学一般)	講義				2				
(87)	○介護の基本 I	講義	4		2					
(89)	○介護の基本 II	講義			1					
(91)	○介護の基本 III	講義				2				
	○介護の基本 IV	講義						2		
最低修得単位数 [20]			20							

別表 第2の4 レクリエーション・インストラクター養成科目

(○印は専門科目と重なる)

ページ番号	授業科目	授業形態	履修方法		開講学期単位数				備考
			履修単位数		1前	1後	2前	2後	
			必修	選択					
(85)	○レクリエーション概論	講義	1		1				
(139)	○レクリエーション活動援助法Ⅰ	演習	1		1				
(141)	○レクリエーション活動援助法Ⅱ	演習	1			1			
	現場実習(学外)	実習	(1)			(1)			2日間(9時間以上)
最低単位修得数総計 [3 + (1)]									

別表 第2の5 [福祉メイクセラピスト]養成科目

(○印は専門科目と重なる)

ページ番号	授業科目	授業形態	履修方法		開講学期単位数				備考
			履修単位数		1前	1後	2前	2後	
			必修	選択					
143	福祉メイクセラピー	演習	1		1				※集中講義
	最低修得単位数総計 [1]		1		/	/	/	/	

※介護職員初任者研修の修得方法については、学生便覧にて別に定める。
(春季・夏季集中講義計画中:130時間以上)

令和2年度入学生 教育課程

別表 第3 生活科学科 食物栄養学専攻教育課程表

授業科目名の前の数字はページ番号

区分	授業科目	授業形態	履修方法		開講学期 単位数				備考	
			卒業履修 単位数		1前	1後	2前	2後		
			必修	選択						
一般 教 養 科 目	わたしを知る・わたしを創る									
	心と思想の探求(人間の心に迫り人間を知る)									
	13	日本語表現の基礎	講義		2	2	2			
	15	倫理学	講義		2	2	2			
	17	文学	講義		2	2	2			
	21	心理学	講義		2	2	2			
	健康の探求(健康な心と体をつくる)									
		体育講義	講義		1			1		栄教免必修
		体育実技	実技		1			1		
	社会を知る・社会につながる									
	社会の探求(社会に目を向ける)									
	23	社会学	講義		2	2	2			栄教免必修
	25	国際化と経済	講義		2	2	2			
	27	日本国憲法	講義		2	2	2			
	29	歴史学	講義		2	2	2			
		WE LOVE 鹿児島!	演習	1					1	
	キャリアの探求(職業を考え人生を設計する)									
	31	インターンシップ	演習		2	2				
	35	キャリアガイダンス I	演習	1		1				
		キャリアガイダンス II	演習	1					1	
	世界を知る・世界を広げる									
	異文化の探求(海外に目を向ける)									
	37	海外事情	演習		2		2			海外研修 英語・フランス語・中国語・韓国語・日本語 演習のいずれかの I・II を連続選択履修 * 日本語演習は留学生対象科目 参照:別表5 留学生特別科目教育課程表
	39	英語演習 I	演習			2				
	43	フランス語演習 I	演習			2				
	45	中国語演習 I	演習	2		2				
	47	韓国語演習 I	演習			2				
	51	日本語演習 I	演習			2				
53	英語演習 II	演習				2				
57	フランス語演習 II	演習				2				
59	中国語演習 II	演習	2			2				
61	韓国語演習 II	演習				2				
65	日本語演習 II	演習				2				
自然界の探求(いろいろな世界に目を向ける)										
67	数学基礎	講義		2	2	2				
69	理科基礎	講義		2	2	2				
71	分子からみた生物	講義		2	2	2				
73	人間と環境	講義		2	2	2				
最低修得単位数				7	7					
卒業最低修得単位数				14						

区分	ページ番号	授業科目	授業形態	履修方法				開講学期単位数				備考		
				卒業履修単位数		栄養士履修単位数		栄養免修得単位数		1前	1後		2前	2後
				必修	選択	必修	選択	必修	選択					
専門科目	社会生活と健康											児童福祉を含む		
	147	公衆衛生学Ⅰ	講義	1	1	1	1	1						
		公衆衛生学Ⅱ	講義	1	1	1	1		1					
		社会福祉概論	講義	2		2	2				2			
	人体の構造と機能												栄養士・栄養免選択必修(☆)	
	149	解剖生理学Ⅰ	講義	1	1	1	1	1						
	151	解剖生理学Ⅱ	講義	2	2	2	2	2						
		解剖生理学実験	実験	1	1	1	1			1				
		運動生理学	講義	1	1	1	1				1			
	153	栄養生化学Ⅰ	講義	2		2	2	2						
	155	栄養生化学Ⅱ	講義	2	2	2	2	2						
		病態生化学 ☆	講義	1		1	1				1			
		生化学実験A	実験	1		1	1			1				
		生化学実験B	実験	1		1	1			1				
	食品と衛生												食品加工学を含む	
	157	食品学総論	講義	2		2	2	2						
	159	食品学各論	講義	2		2	2	2		2				
	161	食品学実験	実験	1	1	1	1	1						
	163	食品衛生学	講義	2	2	2	2	2						
	165	食品衛生学実験	実験	1	1	1	1		1					
	栄養と健康												栄養カウンセリング論含む	
	167	栄養学総論	講義	2		2	2	2	2					
	169	応用栄養学	講義	2		2	2	2	2					
	171	応用栄養学実習	実習	1	1	1	1	1						
	173	臨床栄養学総論	講義	2	2	2	2	2						
		臨床栄養学各論	講義	2	2	2	2			2				
		臨床栄養学実習	実習	1	1	1	1			1				
	栄養の指導													
	175	栄養指導論Ⅰ	講義	2		2	2	2	2					
	177	栄養指導論Ⅱ	講義	2	2	2	2		2					
		栄養指導実習Ⅰ	実習	1	1	1	1			1				
		栄養指導実習Ⅱ	実習	1	1	1	1				1			
179	公衆栄養学	講義	2		2	2	2	2						

区分	ページ番号	授業科目	授業形態	履修方法						開講学期単位数				備考
				卒業履修単位数		栄養士履修単位数		栄教免修得単位数		1前	1後	2前	2後	
				必修	選択	必修	選択	必修	選択					
専門科目	給食の運営													*学外実習(保育所、施設、給食センター) 栄養士・栄教免選択必修 *学外実習(保育所、施設、病院)
	181	給食管理	講義	2		2		2			2			
		給食実務演習Ⅰ	演習		1	1		1				1		
		給食実務演習Ⅱ	演習		1	1		1					1	
		給食管理実習Ⅰ	実習		1	1		1				1		
		給食管理実習Ⅱ・Ⅲ指導	演習		1	1		1				1		
		給食管理実習Ⅱ	実習		2		2					2		
		給食管理実習Ⅲ	実習		2							2		
		給食管理実習Ⅳ	実習		1	1		1					1	
	183	調理学	講義	2		2		2		2				
	185	調理学実習基礎	実験・実習		1	1		1		1				
	187	調理学実習Ⅰ	実習		1	1		1			1			
		調理学実習Ⅱ	実習		1	1		1				1		
		調理学実習Ⅲ	実習		1	1		1					1	
	関連科目													
	189	化学	講義		2		2		2	2				
	191	学校栄養教育論	講義		2		2	2		2				
		食品評価・鑑別実験	実験		1		1						1	
		食品加工学実習☆	実習		1		1					1		
		食料経済☆	講義		1		1		1				1	
		消費経済論	講義		1		1						1	
		フードスペシャリスト論	講義		2		2						2	
		フードコーディネータ論	講義		2		2						2	
	フードコーディネータ演習	演習		1		1						1		
193	くらしとお茶A	講義		2		2			2					
	くらしとお茶B	講義		2		2					2			
195	教育心理学▲	講義		2		2	2			2				
197	教職概論	講義		2		2	2		2					
	教育相談▲	講義		2		2	2					2		
199	情報機器演習	演習		2		2	2		2					
最低修得単位数				20	28	55	1	65	1					
卒業最低修得単位数		必修	20	選択		28	合計		48					
最低修得単位数総計		卒業	62		[栄養士		70]							

注: ▲印=ピアヘルパー認定試験受験資格2科目4単位必修

☆の科目から1単位以上選択必修(栄養士・栄教免)

別表 第3の2 栄養教諭関連科目（栄養に係る教育に関する科目及び教職に関する科目）
（○印は専門科目と重なる）

ページ 番号	授業科目	授業 形態	履修方法		開講学期 単位数				備考
			履修 単位数		1前	1後	2前	2後	
			必修	選択					
(191)	○学校栄養教育論	講義	2		2				学外実習
201	教育原理	講義	2		2				
(197)	○教職概論	講義	2		2				
203	教育制度論	講義	2		2				
(195)	○教育心理学▲	講義	2			2			
205	特別支援教育	講義	2			2			
	教育課程	講義	1				1		
	道徳教育の指導法	講義	1					1	
	総合的な学習の時間の指導法	講義	2					2	
	特別活動の指導法	講義	1					1	
207	教育の方法・技術	講義	1			1			
209	生徒指導	講義	1			1			
(199)	○情報機器演習	演習	2		2				
	○教育相談▲	講義	2					2	
	栄養教育実習指導	講義	1				1		
	栄養教育実習	実習	1				1		
	教職実践演習(栄養教諭)	演習	2					2	
	最低修得単位数		27						
	最低修得単位数総計 [栄教免 97]								

注：▲印＝ピアヘルパー認定試験受験資格2科目4単位必修

別表 第3の3 フードスペシャリスト養成科目（○印は専門科目と重なる）

ページ 番号	授業科目	授業 形態	履修方法		開講学期 単位数				備考
			履修 単位数		1前	1後	2前	2後	
			必修	選択					
(157)	○食品学総論	講義	2		2				食品加工学を含む — 講義15時間を含む — 講義15時間を含む
(159)	○食品学各論	講義	2			2			
(161)	○食品学実験	実験	1		1				
(163)	○食品衛生学	講義	2		2				
(167)	○栄養学総論	講義	2			2			
(183)	○調理学	講義	2		2				
(187)	○調理学実習Ⅰ	実習	1			1			
	○調理学実習Ⅱ	実習	1				1		
	○食品評価・鑑別実験	実験	1					1	
	○食品加工学実習	実習	1				1		
	○食料経済	講義	1					1	
	○消費経済論	講義	1					1	
	○フードスペシャリスト論	講義	2					2	
	○フードコーディネータ論	講義	2					2	
	○フードコーディネータ演習	演習	1					1	
	最低修得単位数		22						
	最低修得単位数総計 [フードスペシャリスト 22単位 (+専26+一般14=卒業)]								

一般教養科目

生活福祉専攻
食物栄養学専攻

科目名	日本語表現の基礎	科目ナンバー	
担当者	藤川 和也		
授業形式	講義	関連するDPの番号	②
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期・後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報			

授業の概要	漢字や語彙、丁寧な字の書き方、敬語、手紙文のきまりなどの社会生活を送る上で必須の書く力の育成と、縮約、情報の正確な読み取り、レポートのきまりなどの学生生活を送る上で必要となる書く力の育成を目指す。
授業の到達目標	1. 基礎的な語彙力・漢字力を身につける 2. 失礼のない形式の整った手紙文を作成できる 3. 根拠を明確にした説得力のあるレポートを作成できる

授業計画		担当者
第1回	ガイダンス 自己紹介文の作成と交流	藤川
第2回	字の丁寧な書き方	藤川
第3回	語彙と文法	藤川
第4回	手紙文(御礼状・案内文)の書き方	藤川
第5回	敬語の基礎(尊敬語・謙譲語・丁寧語)	藤川
第6回	小レポート①(語彙、敬語、手紙文の復習)	藤川
第7回	縮約の作り方	藤川
第8回	履歴書の書き方	藤川
第9回	グラフの種類と特徴	藤川
第10回	図や表を用いた文章理解	藤川
第11回	小レポート②(縮約と資料の分析)	藤川
第12回	プレゼンテーションの基本的知識	藤川
第13回	意見文の吟味と分かりやすい文の書き方	藤川
第14回	意見文の吟味と完成	藤川
第15回	総括(最終レポートの作成)	藤川

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○			○

担当教員の実務経験と授業の関連			
-----------------	--	--	--

事前学習	新聞、雑誌、ネット記事などで、自分の興味関心に沿う情報を集めておく。	学習合計時間(h)	30時間
------	------------------------------------	-----------	------

事後学習	授業内容の振り返りと作成した文章の推敲をする。	学習合計時間(h)	30時間
------	-------------------------	-----------	------

課題に対するフィードバックの方法	課した課題について、求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	講義終了後及びオフィスアワー等に対応する
オフィスアワー	月曜日 15:00～16:00 研究室(西館405号室)
テキスト	プリントを適宜配布します。
参考文献等	『大学生のためのレポート・論文術』 小笠原善康 講談社 2009 ￥740 (ISBN-10: 4062880210)
成績評価基準	最終レポートにおいて、根拠を明確にした説得力のあるレポート、失礼のない形式の整った手紙文を作成できること。
成績評価の方法	課題ミニレポート(20%)、小レポート①、②(30%)、最終レポート(50%)
GPA基準	
備考	学内他学科・他専攻開設科目 60名までの受講制限を設けます。

科目名	倫理学	科目ナンバー	
担当者	村若 修		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期・後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	選択必修:介護福祉士(★6単位)		

授業の概要	「倫理学」とは、人の生き方や人と人との関係のあり方、社会のあり方について、善/悪、正/不正という視点で考えていく学問です。「道德」ないし「倫理」はすでに皆さんに身につけているものですが、それについて倫理学は反省を加え、吟味する学問だと考えてください。本講義では「生命倫理」と呼ばれる領域の諸問題、主として医療に関する倫理問題について考えていきます。
授業の到達目標	1. 倫理的な思考を身につける 2. 「生命倫理」の基礎を理解する 3. 身近な生命倫理の問題を知り、それについて自分の考えを表現できる

授業計画		担当者
第1回	倫理学と「生命倫理」	村若
第2回	生命倫理の成立(1)患者の権利	村若
第3回	生命倫理の成立(2)インフォームド・コンセントの歴史	村若
第4回	生命倫理の成立(3)生命倫理の基本原則	村若
第5回	尊厳死(1)日本及び世界の状況	村若
第6回	尊厳死(2)倫理的考察	村若
第7回	安楽死(1)日本及び世界の状況	村若
第8回	安楽死(2)倫理的考察	村若
第9回	人工妊娠中絶	村若
第10回	生殖補助医療技術の利用(1)日本及び世界の状況	村若
第11回	生殖補助医療技術の利用(2)倫理的考察	村若
第12回	出生前診断(1)日本及び世界の状況	村若
第13回	出生前診断(2)倫理的考察	村若
第14回	脳死と臓器移植(1)日本及び世界の状況	村若
第15回	脳死と臓器移植(2)倫理的考察	村若

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○				

担当教員の実務経験と授業の関連			
-----------------	--	--	--

事前学習	配付資料を事前によく読んでくる	学習合計時間(h)	30時間
------	-----------------	-----------	------

事後学習	映像教材について感想文を課す	学習合計時間(h)	30時間
------	----------------	-----------	------

課題に対するフィードバックの方法	ミニツツペーパーや課題については、提出した次の授業で要点に触れ、フィードバックする。個別にコメントすることもある。
質問・相談方法	次のいずれかの方法による。(1)授業時のミニツツペーパーに質問事項を記入する。(2)授業後に質問をする。(3)オフィスアワーを利用する。
オフィスアワー	火曜日 15:00～17:00 研究室(西館410号室)

テキスト	適宜資料を配付する。
参考文献等	『現代世界の思想的課題』 中山愈編 弘文堂 1998年 (ISBN:4-335-15041-5) 『はじめて出会う生命倫理』 玉井真理子・大谷いづみ編 有斐閣アルマ 2011年 (ISBN:978-4-641-12420-2)
成績評価基準	到達目標が十分に達成されること
成績評価の方法	期末試験(80%)、授業内容に関する小レポート・感想文(20%)
GPA基準	
備考	

科目名	文学	科目ナンバー	
担当者	吉村 圭		
授業形式	講義	関連するDPの番号	④
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報			

授業の概要	文学作品の深い理解のためには、作家自身と歴史的背景の理解が不可欠である。そこで代表的なイギリス文学の作家・作品を、イギリスの歴史をたどる形で講義を行う。そして英文学史を概観した上で、各時代の文学作品に関する講義を行う。作品鑑賞を行う際には、学生同士の意見交換を実施する。
授業の到達目標	1. 英文学に関する講義を聞き自分の意見を述べることができる 2. 英文学作品について自ら調査し考えを述べるができる 3. 鑑賞した作品について学生同士で意見交換ができる

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション	吉村
第2回	シェイクスピア 作家と時代	吉村
第3回	『ロミオとジュリエット』に見る女性: 虐げられる女性	吉村
第4回	『ロミオとジュリエット』に見る女性: 恋愛の主導権を握るのは誰か	吉村
第5回	『ロミオとジュリエット』に見る女性: 物語の主役は誰か	吉村
第6回	A. A. ミルン 作家と時代	吉村
第7回	『くまのプーさん』に見る作家の平和思想	吉村
第8回	『くまのプーさん』: 原作小説とディズニー映画の比較	吉村
第9回	『くまのプーさん』に見るフェミニズムの問題	吉村
第10回	『くまのプーさん』の物語を語るのは誰か	吉村
第11回	C. S. ルイス 作家と時代	吉村
第12回	『ナルニア国物語』に見るキリスト教性: 終末世界としてのナルニア	吉村
第13回	『ナルニア国物語』に見るキリスト教性: 救済の預言	吉村
第14回	『ナルニア国物語』に見るキリスト教性: 救世主としてのアスラン	吉村
第15回	『ナルニア国物語』に見るキリスト教性: 死と復活の意味	吉村

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○				

担当教員の実務経験と授業の関連				
-----------------	--	--	--	--

事前学習	授業で扱う作品を事前に通読する	学習合計時間(h)	30時間
------	-----------------	-----------	------

事後学習	授業内で学んだ鑑賞の観点から、作品を再読する	学習合計時間(h)	30時間
------	------------------------	-----------	------

課題に対するフィードバックの方法	授業内で感想カードへのコメントを行う
質問・相談方法	オフィスアワー、授業前後の時間、及び感想カードへのコメント
オフィスアワー	金曜日 12:05～12:50 研究室(西館309号室)

テキスト	特になし
参考文献等	『はじめて学ぶイギリス文学史』神山妙子編著(ミネルヴァ書房) 『たのしく読めるイギリス文学』中村邦夫編著(ミネルヴァ書房)
成績評価基準	毎回の講義を聞き、自身の考えが述べられること。講義で学んだ知識を活かして、イギリス文学作品を読んで自身の考えを述べられること。
成績評価の方法	各回の感想カード 50% 期末レポート 50%
GPA基準	
備考	

科目名	文学	科目ナンバー	
担当者	藤川 和也		
授業形式	講義	関連するDPの番号	②
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報			

授業の概要	絵本には読み手を引き込む様々なしかけがあります。そうした絵本のしかけについて、『絵本のひみつ』や鹿兒島メルヘン館の見学などの講義や体験活動を通して理解することを目指します。また、同じ作品で媒体による違い、訳し方による違いなどから絵本作品の楽しさを味わうことを目指します。
授業の到達目標	1. 絵本の歴史、種類とその特性を理解することができる 2. 作品のもつ絵本の特性を分析することができる 3. 絵本の特性を生かした作品の紹介文を作成できる

授業計画		担当者
第1回	ガイダンスお気に入りの絵本を振り返る	藤川
第2回	子どもの絵本の読み方	藤川
第3回	絵本の歴史と種類	藤川
第4回	絵本のひみつ①ーまるい大きな正面顔・主人公の立ち位置	藤川
第5回	絵本のひみつ②ー色彩	藤川
第6回	絵本のひみつ③ー『それ行け！アンパンマン』	藤川
第7回	絵本のひみつ④ーモンタージュ	藤川
第8回	絵本のひみつ⑤ーバムケロ作品の紹介	藤川
第9回	絵本のひみつ⑤ー加古里子作品の紹介	藤川
第10回	『泣いた赤おに』濱田廣介の作品を読む	藤川
第11回	『あらしのよるに』木村裕一の作品鑑賞	藤川
第12回	『あらしのよるに』木村裕一の関連作品との比較	藤川
第13回	体験学習(かごしまメルヘン館の見学)	藤川
第14回	体験学習(読み聞かせの方法と実践の紹介)	藤川
第15回	絵本の読み聞かせ	藤川

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
					○
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	図書館やEテレ「テレビ絵本」(月～金:午前8時50分～午前8時55分)などで日頃から絵本に触れる機会をもつ			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	講義を参考に関連する絵本を図香館などで探して読むこと 講義を振り返り、感想をまとめる			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課した課題について、求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	講義終了後及びオフィスアワー等に対応する
オフィスアワー	月曜日 15:00～16:00 研究室(西館405号室)
テキスト	プリントを適宜配布します。 『絵本のひみつⅡ』 余郷裕次 南日本新聞社 2020 ¥1,000 (ISBN:978-4-86074-279-9)
参考文献等	『絵本のひみつ』 余郷裕次 徳島新聞社 2010 ¥1,000 (ISBN-10:4861324319)
成績評価基準	作品のもつ絵本の特性を分析した上で、作品の特性を生かした紹介文を作成できること。
成績評価の方法	授業レポート(50%)、体験学習レポート(20%)、最終レポート(30%)
GPA基準	
備考	授業計画13、14の体験学習と振り返りは、日程調整をして土曜日の2～3時間を使い実施します。 (300円程度の費用がかかります。) 80名の受講制限を設けます。 学内他学科・他専攻開設科目

科目名	心理学	科目ナンバー	
担当者	園田 美保		
授業形式	講義	関連するDPの番号	②
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期・後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報			

授業の概要	心理学の主な領域を網羅する。より深い人間理解のために心理学のキーワードと考え方を紹介する。ここでの人間とは、受講者自身を含み、その点では受講者にとって自己を探る手がかりを提供する。また同時に、身近な他者を理解する手がかりやきっかけとなるよう、受講者が心理学の各領域や方法に触れ、学びながら、考える力も身に付けられるよう、授業を構成する。講義形式だが、受講者には、積極的に自らの日常生活や身近な他者を想定し、内容の理解を行い、自らの考えを表現してもらうため、各回の内容に即したレポートを毎回求める。
授業の到達目標	1. 人間の心理と行動との関係を理解する 2. 自己理解のために心理学の考え方を当てはめ、説明できる 3. 他者理解のために心理学の考え方を当てはめ、理解できる

授業計画		担当者
第1回	「心理学」オリエンテーション 授業の形式、内容と計画、心理学イントロ「心理学とは？」	園田
第2回	心理学の歴史と多様な考え方 心理学の始まり、当初からあって今でも影響力の強い考え方3種	園田
第3回	心理学の研究手法と領域 心理学の方法論と人が人を見るまなざし、心理学の領域いろいろ	園田
第4回	動機づけ 動機づけ説の各種紹介、動機の高揚、動機づけを高める方法	園田
第5回	情動 情動の発達、情動の種類、情動と表出、表情コントロール、気分障害	園田
第6回	認知 私たちは環境をどのように知るか？ 感覚、知覚、認知の特性	園田
第7回	学習 人間の行動が作られるしくみとは？ 試行錯誤と洞察、条件づけによる学習	園田
第8回	知能 知能の構造、知能の発達曲線、遺伝か環境か？、創造性を発揮する思考法	園田
第9回	パーソナリティ 特徴の捉え方：類型論と特性論、人格の形成要因、性格の測定法	園田
第10回	適応 人間を環境との関わりで考えてみると？ 不適応反応、ストレス、防衛機制	園田
第11回	社会と人間1 集団とは、集団から個人への影響	園田
第12回	社会と人間2 個人や少数者が集団に与える影響：少数意見が通る時／リーダーシップ論	園田
第13回	臨床の心理学1 心理的問題、心の傷と心の病、5つのレベルの異常反応の症状理解	園田
第14回	臨床の心理学2 心理療法のアプローチ四者四様：精神分析/行動療法/クライアント中心療法/家族療法	園田
第15回	総括・補足、振り返り 「心理学」全体の振り返り	園田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
					○
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	指定された方法(moodleなど)で授業内容と関連する質問に回答する			学習合計時間(h)	15時間
事後学習	<ul style="list-style-type: none"> 各回の授業からキーワードになる言葉や概念を5語程ピックアップし、説明できる程度に理解を深める 身近な例を取り上げ、それらを上記のキーワードを使用して説明する 今後の日常生活にどのように授業内容を活かせるか、考える 			学習合計時間(h)	45時間

課題に対するフィードバックの方法	毎回の授業の最初に、前回の小レポートから複数例紹介し、解説を加える。また、Moodleを使ったフィードバック機能も用いる予定。
質問・相談方法	各回の授業後、もしくは小レポートで受け付ける。授業後やメールで時間調整できた場合も対応可能。
オフィスアワー	水曜日 16:30～17:30 研究室(西館310号室) 金曜以外で事前調整できた日時にも対応可能。
テキスト	特になし。毎回、資料を配布する。
参考文献等	『心理学 新版 (New Liberal Arts Selection)』 無藤隆ら(編著) 有斐閣 2018年 4200円(税抜き) (ISBN-10: 9784641053861) 『誠信 心理学辞典[新版]』 下山晴彦ら(編著) 誠信書房 2014年 5800円(税抜き) (ISBN-10: 4414305071) 他、各回ごとに配布資料で提示
成績評価基準	心理学の領域ごとに、各回のキーワードと内容を理解し、自分や他者、日常生活と関連させ考えられるものを合格とする。
成績評価の方法	毎回の小レポートと受講態度(70%)と最終レポート(30%)で評価する。
GPA基準	
備考	前期のみ、全学科合わせて80名の受講制限を設ける。(受講登録者が80名を超えた場合は、抽選を行う。)後期は受講希望者全員を受け入れる。15回目の授業にはそれまでの配布資料・自筆ノートを全て持参すること。2回目以降は少なくとも前回の資料は持参すること。

科目名	社会学	科目ナンバー	
担当者	倉重 加代		
授業形式	講義	関連するDPの番号	④
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期・後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報			

授業の概要	自分の視点から離れて世の中を見ることや想像力を働かせることを意識しながら、日常生活の何気ない行為や社会で起こっている出来事を題材に、日常生活や社会の仕組みを説明する。まず、自分自身のことや自分と直接接する他者との関係を題材に身近な人間関係の間で繰り広げられる行為を、その後、扱う題材の範囲を広げ社会の大きな変化と個々人の行為の関係について学ぶ。
授業の到達目標	1. 人々の行為や社会で起こっている出来事を、自分から離れて見る視点を身につける 2. 自分の関心事と社会で起こっている出来事を結びつける能力を身につける 3. 人びとの間に(社会的に)共有される意味や形式の相対性について理解を深める

授業計画		担当者
第1回	「社会学すること」の視点を理解する	倉重
第2回	人々をつなぐ言葉の特徴を学ぶ	倉重
第3回	行為の意味を学ぶ	倉重
第4回	自分探しについて考える	倉重
第5回	アイデンティティの確立を社会的に捉える	倉重
第6回	主体的に生きることと自由について考える	倉重
第7回	社会と個人の関係について議論し、発表する	倉重
第8回	健康と病気の境界は？——物事の相対性について学ぶ	倉重
第9回	正常と異常を判断する背景について学ぶ	倉重
第10回	社会構築主義の視点を学ぶ	倉重
第11回	水俣病をめぐる社会関係について学ぶ	倉重
第12回	共同体(1)家族とは何かを考える	倉重
第13回	共同体(2)地域社会の性質とその変容について学ぶ	倉重
第14回	共同体(3)今日の人々の関係性について学ぶ	倉重
第15回	授業のまとめ	倉重

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○		○		

担当教員の実務経験と授業の関連			
-----------------	--	--	--

事前学習	新聞を読んだりニュースを見たりして、世の中の出来事に関心を持つ。また、自分が生活してきた地域社会の状況を把握しておく	学習合計時間(h)	30時間
------	--	-----------	------

事後学習	定期試験のために授業内容の復習をしておくこと。	学習合計時間(h)	30時間
------	-------------------------	-----------	------

課題に対するフィードバックの方法	求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業前後やオフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	火曜日 16:30～18:30 研究室(西館312号室)

テキスト	『社会学のエッセンス——世の中のしくみを見ぬく』 友枝敏雄・竹沢尚一郎・正村俊之・坂本佳鶴恵著 2017年 2,000円 (ISBN 978-4-641-22098-0)
参考文献等	『自由からの逃走』フロム, E.著 日高六郎訳 東京創元社 1951年 1,870円 (ISBN:978-4-488-00651-8) 『〈子供〉の誕生』 アリエス,P.著 杉山光信・杉山恵美子訳 みすず書房 1980年 5,500円 (ISBN:4-622-01832-2 C1030) 総務省統計局ホームページ ほか授業中に紹介
成績評価基準	到達目標の1.~3.は相互に関連し、1.や2.を身につけることにより、3.に掲げている事項の理解を深めることができることから、到達目標の3.「人々の間に共有される意味や形式の相対性」を理解することを成績評価基準とする。
成績評価の方法	期末試験(90%)と毎時間のコメントシート(10%)で評価する。
GPA基準	
備考	

科目名	国際化と経済	科目ナンバー	
担当者	担当者未定		
授業形式	講義	関連するDPの番号	④
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期・後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報			

授業の概要	経済環境の複雑化とグローバル化が進み、社会人・企業人として要求される経済・金融に関する知識も高度なものが要求されるようになってきた。本科目では産業と経済・金融の基本的なしくみを学び、且つグローバル社会を理解するため国際経済の現状に触れ、日本・地域経済の課題について考える。また講義を通じて地域経済の国際化について実際に地場企業や金融機関の活動を紹介しながら、グローバル人材育成に関する課題や展望を考える。
授業の到達目標	1. 基本的な日本経済・国際経済の仕組みが理解できる 2. グローバル化の進む地域経済で何が今問題でどう自分は行動すべきかを主体的に判断できる

授業計画		担当者
第1回	「経済」とは何か・・・経済学的考え方について	
第2回	GDP で考える物価と経済成長	
第3回	金融のしくみと経済	
第4回	貿易取引と決済のしくみ	
第5回	国際通貨制度の現状と	
第6回	企業のグローバル化(多国籍化の現状)	
第7回	地域経済統合(FTA/EPA)の歩み	
第8回	グローバル・イシュー I (開発と貧困)	
第9回	グローバル・イシュー II (環境・エネルギー・食料)	
第10回	各国・地域事情ーグローバル化と日本	
第11回	各国・地域事情ーアジア・ASEAN	
第12回	各国・地域事情ーアメリカ	
第13回	各国・地域事情ーヨーロッパ・ロシア	
第14回	鹿児島県経済とグローバル化	
第15回	講義の総括	

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○				
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	各授業のテーマの中から自分の最も関心のある経済分野での事柄についてサマリーを作成。そのサマリーに基づきグループで討論し、問題点をまとめ次回授業で質問する			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	授業で出て来た専門用語や関係する経済指標などの動向を、ウェブ検索等を行い実態経済での関連性を確認する。また授業で理解できなかった部分については次の講義等で質問する準備を行う			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	講義内容に沿って、授業中での口頭質問や小レポートを課す。その結果理解が不十分な場合、個別または全体に対し更に指導をおこなう。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	火曜日～金曜日 16:30～17:30 研究室(西館404号室) ※要事前連絡

テキスト	講師作成プリント
参考文献等	『グローバル・エコノミー(新版)』,岩本武和他 有斐閣アルマ 2007年 2,400円 (ISBN:978-4-641-12461-5)
成績評価基準	授業中の口頭質問・小レポート・定期試験結果の内容でシラバスに示す到達目標が理解されたものは合格とする
成績評価の方法	授業取組姿勢(10%) 定期試験90分(90%)
GPA基準	
備考	

科目名	日本国憲法	科目ナンバー	
担当者	池田 哲之		
授業形式	講義	関連するDPの番号	④
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期・後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	選択必修:介護福祉士(★6単位) 必修:栄養教諭		

授業の概要	<p>・「統治機構」、「人権」という憲法学の2大領域における須要事項を、日本国憲法を基底に解説してゆく。</p> <p>・日本国憲法の各条項が、わたしたちの日々の暮らしにどのように関わり合っているのかを重要判例をとおし考察する。</p>
授業の到達目標	<p>1. 日本国憲法に関する基本知識を身につけている。</p> <p>2. 立憲主義理念に依拠する現代憲法の意義・役割を日々の生活との関連において説明できる。</p> <p>3. 社会における諸課題解決のための方策を、憲法を軸に構想することができる。</p>

授業計画		担当者
第1回	鷗州憲政史にみる自由権の確立	池田
第2回	人権の諸相－自由権・社会権・参政権・請求権－	池田
第3回	日本国憲法の構造	池田
第4回	立法府(国会)の権能	池田
第5回	行政府(内閣)の権能と内閣総理大臣の権限	池田
第6回	司法府(裁判所)の権能と違憲立法審査制	池田
第7回	中間まとめ	池田
第8回	人権の享有主体	池田
第9回	私人間における憲法効－3つの判例より－	池田
第10回	精神的自由権－表現の自由・信教の自由－	池田
第11回	幸福追求権－憲法13条の可能性－	池田
第12回	経済的自由権とその規制法理	池田
第13回	生存権と生活保護法	池田
第14回	子どもの発達と教育権	池田
第15回	憲法改正の論点	池田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○				
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	テキストの授業予定箇所を読み込み、不明部分は資料等を検索し調べておく。			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	授業中・後に提示された課題研究に取り組む			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題にたいする参考答案例の配布または解説をとおし、知識・理解の整理を図る。
質問・相談方法	原則として授業時間の前後またはオフィスアワーに受付ける。
オフィスアワー	原則として 水曜日曜 16:30～17:30 研究室(研究室414号室)
テキスト	『図録 日本国憲法』 斎藤一久ほか 弘文堂 2018年 (ISBN:978-4-335-35761-9)
参考文献等	『公務員試験 スピード解説 憲法』 実務教育出版 2015年
成績評価基準	立憲主義と憲法の関係性を踏まえ、日本国憲法の重要条文の内容・意義を理解している。
成績評価の方法	定期試験(90%)、受講意欲・態度等(10%)。なお再試は1回にかぎり実施する。
GPA基準	
備考	上記記載の各内容は、受講生数・受講生の理解度により変更となる場合があります。学生証不携帯の出席確認未了者は欠席扱いとします。

科目名	歴史学	科目ナンバー	
担当者	松崎 康弘		
授業形式	講義	関連するDPの番号	④
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期・後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報			

授業の概要	いわゆる「自分たちからは遠い存在の出来事の暗記」ではない、本来の歴史学の在り方を具体的な事例に基づいて学ぶ。民俗学や地理学などとの連携を視野に、柔軟で多角的な歴史の見方を学ぶ。 また、現在そして未来の人の生き方や社会の在り方を考えるために歴史研究がどのように生かせるかについても学ぶ。「自分たちの身近に展開した歴史」という視点から、具体的には「地名」「妖怪」「人生儀礼」などのテーマを取り上げる。
授業の到達目標	1. 民俗学等との連携も視野に、歴史学の方法を理解する 2. 過去の人々の生き方から自分の生き方を見つめなおす 3. 歴史学の成果を参照しながら、社会の在り方を考える

授業計画		担当者
第1回	地名研究と歴史①(地名研究の動向)	松崎
第2回	地名研究と歴史②(鹿児島における地名と歴史)	松崎
第3回	地名研究と歴史③(沖縄等における地名と歴史)	松崎
第4回	歌から読み取る地域の歴史	松崎
第5回	テレビ番組から読み取る地域の歴史	松崎
第6回	妖怪研究と歴史①(研究の視点)	松崎
第7回	妖怪研究と歴史②(映画から読み取る歴史)	松崎
第8回	妖怪研究と歴史③(妖怪から読み取る社会史)	松崎
第9回	妖怪研究と歴史④(妖怪研究とこれからの社会)	松崎
第10回	生活研究と歴史①(死をめぐる文化①:葬儀の文化)	松崎
第11回	生活研究と歴史②(死をめぐる文化②:「メント・モリ」)	松崎
第12回	生活研究と歴史③(恋愛・結婚をめぐる文化)	松崎
第13回	生活研究と歴史④(伝統芸能)	松崎
第14回	生活研究と歴史⑤(食の歴史)	松崎
第15回	まとめ(自らの生活と結びつく歴史)	松崎

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技・フィールドワーク)	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○				

担当教員の実務経験と授業の関連			
-----------------	--	--	--

事前学習	(持っていれば中学校・高校の歴史・日本史教科書を使って)基礎的な日本史の知識を確認しておく	学習合計時間(h)	30時間
------	---	-----------	------

事後学習	定期試験のために復習するとともに、授業で紹介した以外の(自分の居住地域に即した)素材を探す	学習合計時間(h)	30時間
------	---	-----------	------

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	月曜日 14:30～16:20 研究室(西館411号室)
テキスト	特になし
参考文献等	『地名の魅力』 谷川彰英 白水社 2002年 『妖怪文化入門』 小松和彦 せりか書房 2006年 ほか
成績評価基準	・授業内容に即して歴史学の方法を理解していること。 ・授業をもとに自己や社会の在り方を自分なりに考えていること。
成績評価の方法	定期試験100%(レポートで代替する場合があります)
GPA基準	
備考	

科目名	インターンシップ	科目ナンバー	
担当者	石田 もとな		
授業形式	演習	関連するDPの番号	③
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報			

授業の概要	<p>本科目の目的は、今後参画して行く「地域社会」を実践的に体験することで、これまで得てきた知識やスキルがどの様に関連しているかを、地元企業での職業体験を通して考える機会を与えることである。事前研修として、研修先企業研究、地域貢献、職業意識・ビジネスマナー研修等の指導を、本学教員と2～3名の学外講師で実施する。講義後、夏季休業中に1～2週間インターンシップを体験。事後研修として報告書の作成に基づき体験発表会を行い職業体験の共有を図る。</p>
授業の到達目標	<p>1. 地元企業体験を短大での学習にフィードバックさせ、以後の学生生活に役立て、社会人としての 自覚を持つ 2. 職業に関する興味、関心、適性がどこにあるかを自ら考えられる</p>

授業計画		担当者
第1回	ガイダンスーインターンシップとは何か	石田
第2回	研修先地元企業概要・エントリーシート登録方法説明	石田
第3回	エントリーシート・自己PRの書き方	石田
第4回	一次マッチング説明・仕事の基本的心得	石田
第5回	県内雇用環境の説明・働く意義	石田
第6回	研修企業の研修内容説明	石田
第7回	来客対応の基本・二次マッチング参加登録	石田
第8回	職場の人間関係・二次マッチング調整	石田
第9回	職場のマナー研修	石田
第10回	企業のしくみとコンプライアンス	石田
第11回	インターンシップ地元企業の業界研究・地域貢献活動	石田
第12回	外部講師講演(県内企業の現状と課題等)	石田・A
第13回	お礼状の書き方	石田
第14回	インターンシップによる職業体験(1～2週間程度)	石田
第15回	研修日誌・研修報告書等作成・提出	石田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
				○	○
担当教員の実務経験と授業の関連	企業における実務経験をマッチングのアドバイス、エントリーシートの書き方、マナー指導等に生かす				
事前学習	関心ある企業について企業研究・調査を行う			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	インターンシップ後、得られた成果を自分の進路決定に活かせるように努める			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	個別業界研究・企業研究など課題を課す場合、口頭もしくは文書でその報告を求めるなど個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	火曜日～金曜日 16:30～17:30 研究室(西館404号室) ※要事前連絡
テキスト	特になし
参考文献等	1. 講師作成プリント 2. 『インターンシップ—キャリア教育としての就業体験』 古閑博美 学文社 2011年 1,800円 (ISBN:978-4-7620-2139-8)
成績評価基準	インターンシップ参加の報告書・プレゼンテーションの内容でシラバスに示す到達目標が理解されたものは合格とする。
成績評価の方法	研修報告書等提出物(70%) 参加報告プレゼンテーション(30%)で総合的に判断する。
GPA基準	
備考	外部講師:A 理事長 COC関連科目 「一般教養科目『インターンシップ』実施要領」(学生便覧参照)によりインターンシップ参加要件あり

科目名	キャリアガイダンス I (生活福祉専攻)	科目ナンバー	
担当者	浜崎 眞美		
授業形式	講義	関連するDPの番号	④
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	必修
単位数	1	担当形態	複数
免許・資格情報			

授業の概要	有意義な短大生活を過ごすために、卒業後の進路に関して多方面から学び、自己理解を深め、自分がどのような生き方をしたいのかを考える。
授業の到達目標	1. 自己理解を深める 2. 自分の生き方を考える

授業計画		担当者
第1回	キャリアデザインに必要な基礎的知識を学び、理解する	B
第2回	短大生活の送り方を考える	A
第3回	社会人として働く意味と職業観を学ぶ	B
第4回	多彩な職種や業種を系統的に学ぶ	C
第5回	社会人として必要なマナーを学ぶ	A
第6回	コミュニケーション能力を身に付ける	A
第7回	会社組織や関係法などから自分の立場を理解する	C
第8回	キャリアデザインの構築(進路を考える)	B
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○			
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	キャリアセンター等で求人情報等の見方を調べておく			学習合計時間(h)	15時間
事後学習	自分に適した就職先について調べる			学習合計時間(h)	15時間

課題に対するフィードバックの方法	自分の長所と短所について、理解しながらアピールシート等にかかせる。
質問・相談方法	アピールシートなどを参考に、最適な書き方についてのやり取りを行う。
オフィスアワー	第1・第3水曜日 14:40～17:55 谷川研究室(西館316号室)
テキスト	特になし
参考文献等	『ビジネスマナーの基本講座』 ANA ラーニング 成美堂出版 2011年 1,000円(税抜き) (ISBN-13: 978-4415035734)
成績評価基準	到達目標に掲げた項目をおおよそ理解すること。
成績評価の方法	授業への参加態度(60%)とレポート等(40%)で総合的に評価する。
GPA基準	
備考	COC科目 A:生活福祉専攻教員(谷川・竹中・浜崎・福永) B:就職ガイダンス(学生支援課職員) C:外部講師等(福祉施設関係者や生活福祉の卒業生等)

科目名	キャリアガイダンス I (食物栄養学専攻)	科目ナンバー	
担当者	山崎 歌織		
授業形式	演習	関連するDPの番号	④
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期	卒業の選択・必修	必修
単位数	1	担当形態	複数
免許・資格情報			

授業の概要	有意義な短大生活を過ごすための指導や講話を行う。また、卒業後の進路に関して多方面から学び、自己理解を深め、自分がどのような生き方をしたいのかを考える機会とする。そのために、学外研修による生産者との交流や各種課外活動への参加により学習を深めさせる。
授業の到達目標	1. 自己理解を深める 2. 自分の生き方を考える

授業計画		担当者
第1回	短大生活の送り方①資料検索方法・レポートのまとめ方等	A・C
第2回	情報の取り扱い方について	渡邊
第3回	コミュニケーションの方法を学ぶ	松元
第4回	多彩な職種や業種を系統的に学ぶ	外部講師
第5回	社会人として必要なマナーを学ぶ	石田
第6回	短大生活の送り方②安全に生活するために	外部講師・B
第7回	心身の発達と仕組みを理解する	外部講師
第8回	地産地消と地域の活性化について考える	外部講師
第9回	地域との関わりについて考える	外部講師・A
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○		○	
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	日常的に求人情報を把握し企業研究を行う 進学希望者は進学先の研究を行う			学習合計時間(h)	10時間
事後学習	課外活動やボランティア活動を通して地域との関わりを持つ			学習合計時間(h)	20時間

課題に対するフィードバックの方法	レポート等の課題に対する質問があった場合、オフィスアワーを活用し個別に対応する
質問・相談方法	オフィスアワーを活用し、個別に対応する
オフィスアワー	木曜日 14:40～16:20（各講義室）

テキスト	特になし
参考文献等	『ビジネスマナーの基本講座』 ANA ラーニング 成美堂出版 2011年 1,000円(税抜き) (ISBN-13: 978-4415035734)
成績評価基準	各講義に出席し、自己理解を深め、自分の生き方について考えることができた場合に合格とする。
成績評価の方法	受講態度(60%)、レポート等の提出状況(40%)により、総合的に評価する。
GPA基準	
備考	A: 専攻教員(山崎、住澤、山元、寺師、改元、児玉、高本、木戸) B: 学生支援課 C: 図書館

科目名	海外事情	科目ナンバー	
担当者	黒川 太郎、藤川 和也		
授業形式	演習	関連するDPの番号	④
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	複数
免許・資格情報			

授業の概要	本授業は、異文化体験を通し、国際理解を深め、国際感覚を養おうというものである事前指導で研修国の文化や歴史、民族性を学習したのち、研修実施国及び時期は追って連絡する。、履修学生が所属する学科の特性に見合った研修を行う。
授業の到達目標	1. 異文化に接し、異文化への理解を深める 2. 体験的に国際感覚を養う 3. 自らの専門分野について国際比較の観点から理解を深める

授業計画		担当者
第1回	事前説明 海外研修の流れと実施国の国情(5月・6月)	黒川・藤川
第2回	実施国の文化	黒川・藤川
第3回	実施国の歴史	引率教員
第4回	実施国の言葉	引率教員
第5回	実施国の食生活	引率教員
第6回	実施国の伝統文化	引率教員
第7回	実施国の教育事情	引率教員
第8回	実施国の観光施設訪問	引率教員
第9回	実施国の文化施設訪問	引率教員
第10回	実施国の教育機関訪問	引率教員
第11回	実施国の現地料理実習	引率教員
第12回	実施国の言語学習	引率教員
第13回	実施国の交流	引率教員
第14回	日本軍化の紹介	引率教員
第15回	研修成果の発表	黒川・藤川

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○	○		

担当教員の実務経験と授業の関連	在外公館での勤務経験を活かし、外国でのトラブルを事前指導に盛り込む		
-----------------	-----------------------------------	--	--

事前学習	インターネットやニュース、書籍を通し、実施国に関する情報を収集し、文化や人に対する関心を深める	学習合計時間(h)	30時間
------	---	-----------	------

事後学習	学習した内容をまとめ、発表する	学習合計時間(h)	30時間
------	-----------------	-----------	------

課題に対するフィードバックの方法	適宜、個人個人に直接コメントしてフィードバックする
質問・相談方法	オフィスアワーに研究室にて対応
オフィスアワー	木曜日 10:35~12:05 研究室(西館307号室)
テキスト	特になし
参考文献等	「地球の歩き方 ガイドブック D10 台湾 2019年~2020年版」ダイヤモンド社 2019年 1700円(税抜)(ISBN:978-4-478-82314-9)
成績評価基準	国際交流に関する視野の広がり 国際理解に関する知見
成績評価の方法	研修中の活動(60%) 研修の発表(20%) レポート(20%)
GPA基準	
備考	<p>最小催行人数:6名</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 参加学生数や台湾の情勢により、本授業が開講されない可能性もある 2. 本科目に興味を持つ学生は、初回の履修登録時に履修登録をする(後日取消可能) 3. 初回の履修登録期間中に登録しない者は、原則として追加登録を認めない 4. 説明会2回(5・6月)および中国語講座(7月)、事前説明会(8月)を実施予定 5. 参加学生は後日研修成果を発表することが求められる <p>5. 参加にはパスポートが必要であるため、未取得者はパスポートの取得が求められる</p>

科目名	英語演習 I	科目ナンバー	
担当者	吉村 圭		
授業形式	演習	関連するDPの番号	②
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択必修
単位数	2	担当形態	クラス分け
免許・資格情報			

授業の概要	<p>会話や作文に最低限必要な英文法について授業を行う。テキストを通し、文法事項の解説を行った上で、リーディング、ライティング、リスニングを行う。その際、補助教材として海外の映画や英語版のマンガを用いる。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 英文の基礎的なルールを理解し、簡単な英作文、聞き取り、読解ができる。 2. グループのメンバーで協力し、英訳等のクイズに取り組むことができる。 3. 自分がしたことやこれからの目標を英語で表現できる。

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション:語学を学ぶに当たって	吉村
第2回	英語の語順の確認	吉村
第3回	英語の語順の確認(動詞の使いわけ)	吉村
第4回	一般動詞、過去形 規則変化	吉村
第5回	一般動詞、過去形 不規則変化 基本事項	吉村
第6回	進行形 基本事項	吉村
第7回	進行形 否定形、尋ね方	吉村
第8回	未来形 基本事項	吉村
第9回	未来形 否定形、尋ね方	吉村
第10回	助動詞 基本事項	吉村
第11回	助動詞 否定形、尋ね方	吉村
第12回	特殊な形の文 命令文	吉村
第13回	特殊な形の文 There is/are構文	吉村
第14回	Itの特殊な使われ方	吉村
第15回	Itの特殊な使われ方(It~to構文)	吉村

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○			
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	授業時に配布したプリントを用い、日本語訳や英訳の作業を行う			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	授業時に紹介した映画を視聴し、会話表現の聞きとりを行う(英語字幕に切り替えると便利)			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	回収した課題は添削して返却する。
質問・相談方法	授業の前後、またはオフィスアワーに対応する。
オフィスアワー	金曜日 12:05～12:50 研究室(西館309号室)

テキスト	『Everyday English Grammar<Theird Edition>』 水島孝司著 南雲堂 2018年 2000円(税抜き)(ISBN: 9784523178620)
参考文献等	『英単語ターゲット1400』等単語帳
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・英文の基礎的なルールを理解し、簡単な英作文、聞き取り、読解ができること。 ・自分がしたことやこれからの目標を英語で表現できること。
成績評価の方法	定期試験(60%)、小テスト・提出物(10%)、グループ活動参加(30%)
GPA基準	
備考	

科目名	英語演習 I	科目ナンバー	
担当者	生田 和也		
授業形式	演習	関連するDPの番号	②
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択必修
単位数	2	担当形態	クラス分け
免許・資格情報			

授業の概要	英語で聞く・話す・読む・書くという基礎的なコミュニケーション能力や、発音・アクセント・音の変化などの基礎的知識を習得する。また英語学習を通して、異文化への理解を深める。授業内容への理解を深めるために、授業外での予習・復習といった課題も課される。
授業の到達目標	1. 英語での基礎的なコミュニケーション能力を習得する。 2. 発音・アクセント・音の変化など英語の基礎的知識を習得する。 3. 英語学習を通して異文化に触れる。

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション: 語学を学ぶに当たって	生田
第2回	"Hello!" and "How are you?"	生田
第3回	"How many?" and "I like blue"	生田
第4回	"What do you like?" and Alphabet (Capital letters)	生田
第5回	"This is for you" and "What's this?"	生田
第6回	"Who are you"	生田
第7回	Introduce Yourself	生田
第8回	"Hello, world!" and "let's play cards"	生田
第9回	"I like Mondays" and "What time is it?"	生田
第10回	"Do you have a pen?"	生田
第11回	Alphabet (small letters)	生田
第12回	"What do you want?"	生田
第13回	"This is my favorite place"	生田
第14回	"This is my day"	生田
第15回	Introduce your day	生田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○			
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	授業で使用するテキストを用いて、場面ごとに用いられる語や会話表現を推測する。また教員の指示に従い、授業に必要な英語表現や道具を準備する。			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	授業で学んだ英語表現を、配布プリントを用いて細かく復習する。復習内容について小テストや課題提出を行う。			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	小テストやコメントシートへのフィードバックを授業中に適時行う。
質問・相談方法	授業前後の教室、あるいはオフィスアワーに研究室にて質問・相談に応じる。また事前に希望があればオフィスアワー以外にも対応する。
オフィスアワー	金曜日 14:40～16:10 研究室(西館408号室)

テキスト	『Let's Try 1』 文部科学省 東京書籍 2018 251円 (ISBN:978-4-487-25870-3) 『Let's Try 2』 文部科学省 東京書籍 2018 251円 (ISBN:978-4-487-25871-0)
参考文献等	英語辞書
成績評価基準	英語の基礎的なコミュニケーション能力や知識を習得すること。
成績評価の方法	小テストや提出物(50%)、定期試験(50%)
GPA基準	
備考	アンケートやコメントシートで受講するみなさんの意見や要望にも応えつつ授業をします。そのため、授業で扱う項目については、授業内で予告の上で若干の変更の可能性もあります、

科目名	フランス語演習 I	科目ナンバー	
担当者	杉山 朱実		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択必修
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報			

授業の概要	各課は、「挨拶する」「紹介する」「尋ねる」といった、現実のコミュニケーションの場で体験するテーマに沿った短い会話文が中心となる。これら各課のテーマを表現するのに必要な文法事項も学び、フランス語表現の習得と共に、聞く・書く・読むといった、総合的なフランス語の運用能力を習得していく。
授業の到達目標	1. 現実のコミュニケーションの場で使える生きたフランス語の習得を目指す 2. 一回の授業の中で、毎回受講生が、必ず、フランス語で会話ができることを目標とする 3. アクティブラーニングの実施をめざす

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション:語学を学ぶに当たって -フランスとフランス語に親しむ-	杉山
第2回	フランス語のアルファベットに親しむ	杉山
第3回	フランス語で挨拶をする	杉山
第4回	フランス語で名前を言う	杉山
第5回	フランス語で国籍を言う	杉山
第6回	フランス語で職業を言う	杉山
第7回	フランス語で年齢を言う	杉山
第8回	フランス語で家族を語る	杉山
第9回	フランス語で好きなものを言う	杉山
第10回	フランス語で友達について話す	杉山
第11回	フランス語で持ち物をいう	杉山
第12回	フランス語で尋ねてみる	杉山
第13回	フランス語で近い未来、近い過去を言う	杉山
第14回	フランス語で時間を言う	杉山
第15回	フランス語で天気を言う	杉山

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
			○		

担当教員の実務経験と授業の関連			
-----------------	--	--	--

事前学習	意味のわからない用語は辞書等で調べておくこと。	学習合計時間(h)	30時間
------	-------------------------	-----------	------

事後学習	小テストでロールプレイ等をして復習する。	学習合計時間(h)	30時間
------	----------------------	-----------	------

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、毎回チェックのうえ返却し、求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。
オフィスアワー	月曜日 10:25～10:35、12:05～12:15（講義室）
テキスト	『パリのクール・ジャパン』 藤田裕二 朝日出版社 2018年 2500円（ISBN:978-4-255-35211-4）
参考文献等	辞書の説明など、講義の中で説明していく。
成績評価基準	聞く・書く・読むといった運用能力を習得し、フランス語で会話ができること。
成績評価の方法	各講義中の毎回の小テスト(50%)、授業中の平常点(50%)での総合評価
GPA基準	
備考	

科目名	中国語演習 I	科目ナンバー	
担当者	黒川 太郎		
授業形式	演習	関連するDPの番号	②
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択必修
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報			

授業の概要	中国語初学者対象の授業です。簡単な挨拶表現、基本的な発音および文型を中心に教えます。日常生活に必要な語彙を身に付けることを目的に会話を中心とした授業を行います。毎回の授業では日本語との発音の違いに注意し、正確な発音の練習に時間を割き、授業の終わりには、受講者が中国語で自己紹介できることを目標とします。
授業の到達目標	1. 中国語の発音に慣れ、ローマ字ピンインで書ける。 2. 中国語で自己紹介し、1～10の数を正確に言える。 3. 簡単な挨拶表現ができる。

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション:語学を学ぶにあたって	黒川
第2回	第1課 挨拶(1)発音(声調・短母音)・ピンイン表記 「こんにちは」	黒川
第3回	第2課 挨拶(2)発音(子音・複合母音・鼻母音) 「お変わりありませんか」	黒川
第4回	第3課 挨拶(3)発音と簡単な挨拶表現 「お仕事は忙しいですか」	黒川
第5回	発音の矯正 自分の名前の中国語音の確認	黒川
第6回	第4課 初めて会う(1)疑問文 「お名前はなんとおっしゃいますか」	黒川
第7回	第5課 初めて会う(2)動詞述語文 「ちょっとご紹介します」	黒川
第8回	第1課～第5課復習(自己紹介)	黒川
第9回	第6課 尋ねる(1)名詞述語文 「誕生日は何月何日ですか」	黒川
第10回	第7課 尋ねる(2)「有」文 「ご家族は何人ですか」	黒川
第11回	第8課 尋ねる(3)時間の読み方 「今何時ですか」	黒川
第12回	発音の矯正 疑問文の作り方	黒川
第13回	第9課 尋ねる(4)連動文 「お住まいはどちらですか」	黒川
第14回	第10課 尋ねる(5)方位詞 「郵便局はどこですか」	黒川
第15回	第6課～第10課復習(数を表す表現)	黒川

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
			○		

担当教員の実務経験と授業の関連				
-----------------	--	--	--	--

事前学習	教科書付属のCDを聞き、中国語独特の発音とリズムを習得する	学習合計時間(h)	30時間
------	-------------------------------	-----------	------

事後学習	授業前後に新出単語の学習をする	学習合計時間(h)	30時間
------	-----------------	-----------	------

課題に対するフィードバックの方法	希望があれば個別に対応する。また、授業内で言及する場合もある。
質問・相談方法	オフィスアワー内で対応
オフィスアワー	月曜日 13:00～17:00 研究室(西館307号室)

テキスト	「新訳第3版 中国語会話301(上)」 康玉華・来思平 語文研究社 2006年 1300円(税抜き)(ISBN-10: 493131550X)
参考文献等	特になし
成績評価基準	ローマ字ピンインを正確に発音できること。自己紹介・簡単な挨拶表現ができること。
成績評価の方法	定期試験(50%)、受講態度を総合的に評価(30%)、授業内で行う会話試験(20%)
GPA基準	
備考	

科目名	韓国語演習 I	科目ナンバー	
担当者	李 賢雄		
授業形式	演習	関連するDPの番号	②
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択必修
単位数	2	担当形態	クラス分け
免許・資格情報			

授業の概要	韓国語の文字(ハングル)の読み書きを身につけ、簡単な挨拶表現及び基礎文法を説明した後、音読練習、作文練習、対話練習をする。授業の最後に目標会話を暗記し発表や小テスト時間を設けることにより学習内容を授業時にしっかり身につけることを目指す。
授業の到達目標	1. 韓国語の文字(ハングル)と発音を表すことができる。 2. 自己紹介や簡単な日常会話ができる。 3. 言語を通じて韓国への理解を深めることができる。

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション:語学を学ぶに当たって	李(イ)
第2回	韓国語の文字(ハングル)と発音1(母音)	李(イ)
第3回	韓国語の文字(ハングル)と発音2(子音)	李(イ)
第4回	韓国語の文字(ハングル)と発音3(パッチム)	李(イ)
第5回	日本語のハングル表記方法	李(イ)
第6回	物事の名称についての表現1(文法)	李(イ)
第7回	物事の名称についての表現2(応用)	李(イ)
第8回	出身地について尋ねる1(文法)	李(イ)
第9回	出身地について尋ねる2(応用)	李(イ)
第10回	家族の呼び名及び紹介1(文法)	李(イ)
第11回	家族の呼び名及び紹介2(応用)	李(イ)
第12回	存在の有無を表す1(文法)	李(イ)
第13回	存在の有無を表す2(応用)	李(イ)
第14回	場所を尋ねる表現1(漢数字1/文法)	李(イ)
第15回	場所を尋ねる表現2(漢数字2/応用)	李(イ)

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○			

担当教員の実務経験と授業の関連			
-----------------	--	--	--

事前学習	テキストを事前に読んでおく 各課に出てくる新しい単語や用語は辞書等で調べておく	学習合計時間(h)	30時間
------	--	-----------	------

事後学習	各課ごとに小テストを行うので復習をする	学習合計時間(h)	30時間
------	---------------------	-----------	------

課題に対するフィードバックの方法	課題を果たした場合求めに応じて個別に指導、授業内で提出された課題の要点に触れる。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する。
オフィスアワー	月曜日 8:40～8:50、10:20～10:30（講義室）
テキスト	『これで話せる韓国語STEP1』 入佐信宏・金孝珍 共著 白帝社 2015年 2,300円(税抜き) (ISBN:978-4-86398-181-2C3087)
参考文献等	『「あいうえお」から始める書き込み式ハングルBOOK』 栗原景著 成美堂出版 2012年 1,000円(税抜き) (ISBN:978-4-415-03030-2)
成績評価基準	ハングルの母音と子音を正確に区別でき、決まり文句としての挨拶や簡単な質問ができ、またそういった質問に答えることができたものは合格とする。
成績評価の方法	定期試験(50%)、小テスト(30%)、課題(20%)
GPA基準	
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・受講希望者が5名以下の場合開講されません。 ・韓国語を初めて学習する人が望ましい。

科目名	韓国語演習 I	科目ナンバー	
担当者	姜 美貞		
授業形式	演習	関連するDPの番号	②
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択必修
単位数	2	担当形態	クラス分け
免許・資格情報			

授業の概要	韓国語の文字(ハングル)の読み書きを身につけ、簡単な挨拶表現及び基礎文法を説明した後、音読練習、作文練習、対話練習をする。授業の最後に目標会話を暗記し発表や小テスト時間を設けることにより学習内容を授業時にしっかり身につけることを目指す。
授業の到達目標	1. 韓国語の文字(ハングル)と発音を表すことができる。 2. 自己紹介や簡単な日常会話ができる。 3. 言語を通じて韓国への理解を深めることができる。

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション: 語学を学ぶに当たって	姜
第2回	韓国語の文字(ハングル)と発音1(母音)	姜
第3回	韓国語の文字(ハングル)と発音2(子音)	姜
第4回	韓国語の文字(ハングル)と発音3(パッチム)	姜
第5回	日本語のハングル表記方法	姜
第6回	物事の名称についての表現1(文法)	姜
第7回	物事の名称についての表現2(応用)	姜
第8回	出身地について尋ねる1(文法)	姜
第9回	出身地について尋ねる2(応用)	姜
第10回	家族の呼び名及び紹介1(文法)	姜
第11回	家族の呼び名及び紹介2(応用)	姜
第12回	存在の有無を表す1(文法)	姜
第13回	存在の有無を表す2(応用)	姜
第14回	場所を尋ねる表現1(漢数字1/文法)	姜
第15回	場所を尋ねる表現2(漢数字2/応用)	姜

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○			

担当教員の実務経験と授業の関連			
-----------------	--	--	--

事前学習	テキストを事前に読んでおく 各課に出てくる新しい単語や用語は辞書等で調べておく	学習合計時間(h)	30時間
------	--	-----------	------

事後学習	5回おきに小テストを行うので復習をする	学習合計時間(h)	30時間
------	---------------------	-----------	------

課題に対するフィードバックの方法	課題を果たした場合求めに応じて個別に指導、授業内で提出された課題の要点に触れる。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する。
オフィスアワー	月曜日 8:40～8:50、10:20～10:30（講義室）

テキスト	『これで話せる韓国語STEP1』 入佐信宏・金孝珍 共著 白帝社 2015年 2,300円(税抜き) (ISBN:978-4-86398-181-2C3087)
参考文献等	『「あいうえお」から始める書き込み式ハングルBOOK』 栗原景著 成美堂出版 2012年 1,000円(税抜き) (ISBN:978-4-415-03030-2)
成績評価基準	ハングルの母音と子音を正確に区別でき、決まり文句としての挨拶や簡単な質問ができ、またそういった質問に答えることができたものは合格とする。
成績評価の方法	定期試験(50%)、小テスト(30%)、課題(20%)
GPA基準	
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・受講希望者が5名以下の場合開講されません。 ・韓国語を初めて学習する人が望ましい。

科目名	日本語演習 I	科目ナンバー	
担当者	村本 茜		
授業形式	演習	関連するDPの番号	②
配当年次	1	科目群	一般教養科目[留学生特別科目]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択必修
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報			

授業の概要	この授業では、日本語学校で勉強したN2レベルの日本語の文型をもう一度勉強し、しっかり使えるようにします。そのあと、N1レベルの文型も勉強します。短期大学の授業では、日本語学校で習ったことがない語いもたくさん覚えなければなりません。ですから、語いの勉強もします。また、漢字は書くことより読むことの方が大切です。読める漢字の量をふやします。
授業の到達目標	1. JLPTのN1～N2レベルの日本語の文型をおぼえ、使えるようになる 2. 短期大学の授業で使われる語いをおぼえ、理解できるようになる 3. 読める漢字の量をふやす

授業計画		担当者
第1回	テストをして、みなさんの日本語の能力を調べます	村本
第2回	行為の対象 文型: ～にこたえて・～をめぐって・～にかかわる 語いと漢字①	村本
第3回	目的・手段・媒介 文型: ～上で・～べく・～をもって 語いと漢字②	村本
第4回	起点・終点・限界・範囲 文型: ～をはじめ・～からして・～を限りに 語いと漢字③	村本
第5回	時間的同時性・時間的前後関係 文型: ～とともに・～と思ったら・～次第 語いと漢字④	村本
第6回	進行・相関関係 文型: ～つつある・～ようとしている・～ばかりだ 語いと漢字⑤	村本
第7回	付帯・非付帯 文型: ～つつ・～ぬきで・～をぬきにして 語いと漢字⑥	村本
第8回	中間テスト	村本
第9回	限定 文型: ～に限り・～かぎり(は)・～かぎりでは・ただ～のみ 語いと漢字⑦	村本
第10回	非限定・付加 文型: ～に限らず・～のみならず・～にとどまらず 語いと漢字⑧	村本
第11回	比較・程度・対比 文型: ～くらいなら・～にもまして・～ないまでも 語いと漢字⑨	村本
第12回	基準 文型: ～に沿って・～に基づいて・～を踏まえて 語いと漢字⑩	村本
第13回	関連・対応 文型: ～次第では・～に応じて・～を契機に(して) 語いと漢字⑪	村本
第14回	無関係・無視・例外 文型: ～にかかわらず・～はともかく・～いかんによらず 語いと漢字⑫	村本
第15回	日本の映画を見て「日本文化」について考えます	村本

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○			

担当教員の実務経験と授業の関連				
-----------------	--	--	--	--

事前学習	授業の前に配ったプリントを見ておいてください	学習合計時間(h)	30時間
------	------------------------	-----------	------

事後学習	授業で教わったことを、その日に家でもう一度勉強してください	学習合計時間(h)	30時間
------	-------------------------------	-----------	------

課題に対するフィードバックの方法	中間テストなどで確認します
質問・相談方法	授業中及びオフィスアワーの時間に対応します
オフィスアワー	月曜日 12:05～12:55 講義室(本館403号室)
テキスト	特になし(プリントを配ります)
参考文献等	『改訂版 どんときどう使う 日本語表現文型500』友松悦子ほか 株式会社アルク 2013年 2500円 (ISBN:978-4757418905)
成績評価基準	勉強した文型や語いが使えるようになったかどうかを評価の基準にします
成績評価の方法	授業態度(20%)、 中間テスト(40%)、 課題レポート(40%)
GPA基準	
備考	受講対象者 留学生のみ

科目名	英語演習Ⅱ	科目ナンバー	
担当者	吉村 圭		
授業形式	演習	関連するDPの番号	②
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択必修
単位数	2	担当形態	クラス分け
免許・資格情報			

授業の概要	この授業では前期に引き続き、会話や英作文に最低限必要な英文法の理解を目標とする。後期の授業では特に品詞に着目し、名詞や形容詞、副詞などを正しく使い分け、文章を正しく理解することを目指す。その際、補助教材として海外の映画や英語版のマンガを用い、英語の理解を深める。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 英文の基礎的なルールを理解し、簡単な英作文、聞き取り、読解ができる。 2. グループのメンバーで協力し、英訳等のクイズに取り組むことができる。 3. 自分がしたことやこれからの目標を英語で表現できる。

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション、英語の語順確認	吉村
第2回	名詞 基本事項	吉村
第3回	名詞 主語、目的語、補語	吉村
第4回	代名詞 人称代名詞	吉村
第5回	代名詞 注意が必要な代名詞(other等)	吉村
第6回	前置詞 基本事項	吉村
第7回	前置詞 注意が必要な前置詞(in, on, atの使い分け等)	吉村
第8回	形容詞 基本事項	吉村
第9回	形容詞 注意が必要な形容詞(数量形容詞等)	吉村
第10回	副詞 基本事項	吉村
第11回	副詞 注意が必要な副詞(強調語)	吉村
第12回	副詞 注意が必要な副詞(準否定語)	吉村
第13回	接続詞 等位接続詞(and, orの使い分け等)	吉村
第14回	接続詞 従属接続詞(that+文)	吉村
第15回	接続詞 従属接続詞(when, while, though等)	吉村

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○			
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	授業時に配布したプリントを用い、日本語訳や英訳の作業を行う			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	授業時に紹介した映画を視聴し、会話表現の聞きとりを行う(英語字幕に切り替えると便利)			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	回収した課題は添削して返却する。
質問・相談方法	授業の前後、またはオフィスアワーに対応する。
オフィスアワー	金曜日 12:05～12:50 研究室(西館309号室)

テキスト	『Everyday English Grammar<Third Edition>』 水島孝司著 南雲堂 2018年 2000円(税抜き)(ISBN: 9784523178620)
参考文献等	『英単語ターゲット1400』等単語帳
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・英文の基礎的なルールを理解し、簡単な英作文、聞き取り、読解ができること。 ・自分がしたことやこれからの目標を英語で表現できること。
成績評価の方法	定期試験(60%)、小テスト・提出物(10%)、グループ活動参加(30%)
GPA基準	
備考	

科目名	英語演習Ⅱ	科目ナンバー	
担当者	生田 和也		
授業形式	演習	関連するDPの番号	②
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択必修
単位数	2	担当形態	クラス分け
免許・資格情報			

授業の概要	英語で聞く・話す・読む・書くという基礎的なコミュニケーション能力や、発音・アクセント・音の変化などの基礎的知識を習得する。また英語学習を通して、異文化への理解を深める。授業内容への理解を深めるために、授業外での予習・復習といった課題も課される。
授業の到達目標	1. 英語での基礎的なコミュニケーション能力を習得する。 2. 発音・アクセント・音の変化など英語の基礎的知識を習得する。 3. 英語学習を通して異文化に触れる。

授業計画		担当者
第1回	"Summer Vacations in the World"	生田
第2回	"Hello, friends"	生田
第3回	"When is your birthday?"	生田
第4回	"He can bake bread well."	生田
第5回	"What would you like?"	生田
第6回	"Welcome to Japan"	生田
第7回	"Who is your hero?"	生田
第8回	"Let's sing songs!"	生田
第9回	"This is me!"	生田
第10回	"How is your school life?"	生田
第11回	"Let's go to Italy"	生田
第12回	"We all live on the Earth."	生田
第13回	"Let's think about our food."	生田
第14回	"My Best Memory"	生田
第15回	"My Future, My Dream"	生田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○			
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	授業で使用するテキストを用いて、場面ごとに用いられる語や会話表現を推測する。また教員の指示に従い、授業に必要な英語表現や道具を準備する。			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	授業で学んだ英語表現を、配布プリントを用いて細かく復習する。復習内容について小テストや課題提出を行う。			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	小テストやコメントシートへのフィードバックを授業中に適時行う。
質問・相談方法	授業前後の教室、あるいはオフィスアワーに研究室にて質問・相談に応じる。また事前に希望があればオフィスアワー以外にも対応する。
オフィスアワー	金曜日 14:40～16:10 研究室(西館408号室)

テキスト	『New Horizon Elemenrary Course 5』 東京書籍 2020 金額未定 ISBN未定 『New Horizon Elemenrary Course 6』 東京書籍 2020 金額未定 ISBN未定
参考文献等	英語辞書
成績評価基準	英語の基礎的なコミュニケーション能力や知識を習得し、異文化について理解すること。
成績評価の方法	小テストや提出物(50%)、定期試験(50%)
GPA基準	
備考	アンケートやコメントシートで受講するみなさんの意見や要望にも応えつつ授業をします。そのため、授業で扱う項目については、授業内で予告の上で若干の変更の可能性もあります、

科目名	フランス語演習Ⅱ	科目ナンバー	
担当者	杉山 朱実		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択必修
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報			

授業の概要	文化(フランスの映画や歌)や、フランス人の一日の行動等も含め、より多彩なフランス語表現を学んでいく。文法的に、少し難しく思えても、フランス人が日常会話の中で、使っている表現なので、毎回の授業の中で繰り返すことで、習得していけるので、継続した授業参加を希望する。
授業の到達目標	1. フランス語演習Ⅱに引き続き、現実のコミュニケーションの場で体験するテーマに沿った短い会話文を学んでいく 2. 特にフランス語演習Ⅱでは、話すためのきく能力、フランス語を理解できる力を受講生が、習得していくことを目指していく 3. アクティブラーニングの実施を目指す

授業計画		担当者
第1回	フランス人の食事について考察してみる	杉山
第2回	数量表現(フランス語で独特な表現方法を知る)	杉山
第3回	紹介する(フランス語で友達・家族等)	杉山
第4回	一日を語る(フランス語動詞の代名動詞を使う)	杉山
第5回	頼む・命令する(フランス語にある3つの命令法の会話での使い分けを知る)	杉山
第6回	未来のことを語る(前期での近接未来との言い方の違いにより、語尾活用の未来形を知る)	杉山
第7回	過去のことを語るⅠ(過去に完了した行為の表現を複合過去から学ぶ)	杉山
第8回	過去のことを語るⅡ(過去の状態や習慣を半過去の表現から学ぶ)	杉山
第9回	関係代名詞を使った言い方を学び、フランス語表現での会話力を増す	杉山
第10回	強調構文や対立構文を学ぶ(買い物等で、どちらにするか迷った時に使える会話文となる)	杉山
第11回	比較級を学ぶ(買い物や、人物比較等で、使えるフランス語表現の比較級を知る)	杉山
第12回	最上級を学ぶ(フランス語会話表現の中で「もっとも。。。だ。」といった表現を学ぶ)	杉山
第13回	受け身表現・ジェロンディフの表現を学び、フランス語表現の同時性・対立・条件を学ぶ	杉山
第14回	仮定表現を学ぶ(現実には不可能な願望を仮定する表現方法がフランス語にあるのを知る)	杉山
第15回	感情を表現する(感情・願望・義務等のフランス独特の表現方法を学ぶ)	杉山

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
			○		

担当教員の実務経験と授業の関連			
-----------------	--	--	--

事前学習	意味のわからない用語は辞書等で調べておく	学習合計時間(h)	30時間
------	----------------------	-----------	------

事後学習	小テストでロールプレイ等をして復習	学習合計時間(h)	30時間
------	-------------------	-----------	------

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、毎回チェックのうえ返却し、求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。
オフィスアワー	月曜日 14:30～14:40、16:10～16:20 講義室(本館308号室)

テキスト	『パリのクール・ジャパン』 藤田裕二 朝日出版社 2018.1.30 2500円 (ISBN:978-4-255-35211-4)
参考文献等	辞書の説明など、講義の中で説明していく。
成績評価基準	話すためのきく能力を習得し、フランス語で会話ができること。
成績評価の方法	各講義中の毎回の小テスト(50%)、授業中の平常点(50%)での総合評価
GPA基準	
備考	

科目名	中国語演習Ⅱ	科目ナンバー	
担当者	黒川 太郎		
授業形式	演習	関連するDPの番号	②
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択必修
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報			

授業の概要	中国語演習Ⅰの履修者が受講する科目です。演習Ⅰと同じの教科書を用い、新しい表現と文法を学び、引き続き正確な発音練習を授業内で行います。また、日常生活や旅行で役立つような簡単な表現を中心に教えると同時に配布資料を通じて新たな語彙の習得を目指します。この授業の終わりには、受講者が中国語母語者を相手に簡単な受け答えができるようになることを目標としています。
授業の到達目標	1. 本文を正確に読むことできる。 2. 基本的な文型を使った表現ができる。 3. 日常会話に必要な単語を覚え、正確に発音できる。

		担当者
第1回	前期の復習(1課～10課)	黒川
第2回	第11課 必要(1)語気助詞「了」「みかんを買いたいです」	黒川
第3回	第12課 必要(2)主述述語文 「セーターを買いたいです」	黒川
第4回	第13課 必要(3)能願助詞「会」「乗り換えが必要です」	黒川
第5回	旅行時の会話表現	黒川
第6回	第14課 必要(4)兼語文「両替に行きたいです」	黒川
第7回	第15課 必要(5)「是」文「写真を撮りたいです」	黒川
第8回	復習第11課～第15課	黒川
第9回	第16課 約束(1)動態助詞「?」「京劇を見たことがありますか」	黒川
第10回	第17課 約束(2)選択疑問文「動物園に行きます」	黒川
第11回	買い物での表現、お金の言い方	黒川
第12回	第18課 迎える(1)文型「要～了」「道中お疲れさまでした」	黒川
第13回	第19課 迎える(2)動量補語「歓迎いたします」	黒川
第14回	第20課 程度補語「私たちの友情のために乾杯」	黒川
第15回	復習第16課～第20課	黒川

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
			○		

担当教員の実務経験と授業の関連			
-----------------	--	--	--

事前学習	教科書付属のCD を聞いて声調等の発音を身につける	学習合計時間(h)	30時間
------	---------------------------	-----------	------

事後学習	教科書の本文とローマ字ピンインを書き写し、覚える	学習合計時間(h)	30時間
------	--------------------------	-----------	------

課題に対するフィードバックの方法	希望があれば個別に対応する。また、授業内で言及する場合もある。
質問・相談方法	オフィスアワー内で対応。
オフィスアワー	水曜日 10:35～12:05 研究室(西館307号室)

テキスト	「新訳第3版 中国語会話301(上)」 康玉華・来思平 語文研究社 2006年 1300円(税抜き)(ISBN-10: 493131550X)
参考文献等	特になし
成績評価基準	教科書内の文章を正確に読むことできる。基本的な文型を応用した表現ができる。
成績評価の方法	定期試験(50%)、受講態度を総合的に評価(30%)、授業内で行う会話試験(20%)
GPA基準	
備考	

科目名	韓国語演習Ⅱ	科目ナンバー	
担当者	李 賢雄		
授業形式	演習	関連するDPの番号	②
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択必修
単位数	2	担当形態	クラス分け
免許・資格情報			

授業の概要	韓国語演習Ⅰに引き続き、より発展した表現を学習し会話能力を高めていく。各課の本文の基本文法を説明した後、音読練習、作文練習、対話練習をする。授業の最後に目標会話を暗記し発表や小テスト時間を設けることにより学習内容を授業時にしっかり身につけることを目指す。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 韓国語の基礎文法を応用することができる。 2. 日常会話のより発展した表現を話すことができる。 3. 会話練習を通じてコミュニケーション能力を高めることができる。

授業計画		担当者
第1回	習慣について尋ねる(動詞編1/文法)	李(イ)
第2回	習慣について尋ねる(動詞編2/応用)	李(イ)
第3回	予定について尋ねる(動詞編3/文法)	李(イ)
第4回	予定について尋ねる(動詞編4/応用)	李(イ)
第5回	時間を表す(固有数字)	李(イ)
第6回	位置を表す(方向)	李(イ)
第7回	過去の行動について表す(動詞の過去形1/文法)	李(イ)
第8回	過去の行動について表す(動詞の過去形2/応用)	李(イ)
第9回	電話番号を尋ねる	李(イ)
第10回	状態や気持ちを表す(形容詞編1)	李(イ)
第11回	相手の気持ちを尋ねる(形容詞編2)	李(イ)
第12回	不規則形容詞と否定形(形容詞編3)	李(イ)
第13回	過去に感じたことについて表現(形容詞の過去形1/文法)	李(イ)
第14回	過去に感じたことについて表現(形容詞の過去形2/応用)	李(イ)
第15回	過去に感じたことについて表現(形容詞の過去形3/練習)	李(イ)

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○			

担当教員の実務経験と授業の関連			
-----------------	--	--	--

事前学習	テキストを事前に読んでおく 各課に出てくる新しい単語や用語は辞書等で調べておく	学習合計時間(h)	30時間
------	--	-----------	------

事後学習	各課ごとに小テストを行うので復習をする	学習合計時間(h)	30時間
------	---------------------	-----------	------

課題に対するフィードバックの方法	課題を果たした場合求めに応じて個別に指導、授業内で提出された課題の要点に触れる。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する。
オフィスアワー	月曜日 14:30～14:40、16:10～16:20 講義室(本館306号室)

テキスト	『これで話せる韓国語STEP1』 入佐信宏・金孝珍 共著 白帝社 2015年 2,300円(税抜き) (ISBN:978-4-86398-181-2C3087)
参考文献等	『改訂版ハングル能力検定試験5級合格をめざして』 李昌烈著 白帝社 2012年 (ISBN:978-4-89174-812-8)
成績評価基準	自分や家族の名前、物事の特徴や好き嫌いなどの私的な話題、日課や予定、食べ物などの身近なことについて表現することができたものは合格とする。
成績評価の方法	定期試験(50%)、小テスト(30%)、課題(20%)
GPA基準	
備考	「韓国語演習 I」の単位を修得しておくことが望ましい。

科目名	韓国語演習Ⅱ	科目ナンバー	
担当者	姜 美貞		
授業形式	演習	関連するDPの番号	②
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択必修
単位数	2	担当形態	クラス分け
免許・資格情報			

授業の概要	韓国語演習Ⅰに引き続き、より発展した表現を学習し会話能力を高めていく。各課の本文の基本文法を説明した後、音読練習、作文練習、対話練習をする。授業の最後に目標会話を暗記し発表や小テスト時間を設けることにより学習内容を授業時にしっかり身につけることを目指す。
授業の到達目標	1. 韓国語の基礎文法を応用することができる。 2. 日常会話のより発展した表現を話すことができる。 3. 会話練習を通じてコミュニケーション能力を高めることができる。

授業計画		担当者
第1回	習慣について尋ねる(動詞編1/文法)	姜
第2回	習慣について尋ねる(動詞編2/応用)	姜
第3回	予定について尋ねる(動詞編3/文法)	姜
第4回	予定について尋ねる(動詞編4/応用)	姜
第5回	時間を表す(固有数字)	姜
第6回	位置を表す(方向)	姜
第7回	過去の行動について表す(動詞の過去形1/文法)	姜
第8回	過去の行動について表す(動詞の過去形2/応用)	姜
第9回	電話番号を尋ねる	姜
第10回	状態や気持ちを表す(形容詞編1)	姜
第11回	相手の気持ちを尋ねる(形容詞編2)	姜
第12回	不規則形容詞と否定形(形容詞編3)	姜
第13回	過去に感じたことについて表現(形容詞の過去形1/文法)	姜
第14回	過去に感じたことについて表現(形容詞の過去形2/応用)	姜
第15回	過去に感じたことについて表現(形容詞の過去形3/練習)	姜

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○			

担当教員の実務経験と授業の関連			
-----------------	--	--	--

事前学習	テキストを事前に読んでおく 各課に出てくる新しい単語や用語は辞書等で調べておく	学習合計時間(h)	30時間
------	--	-----------	------

事後学習	5回おきに小テストを行うので復習をする	学習合計時間(h)	30時間
------	---------------------	-----------	------

課題に対するフィードバックの方法	課題を果たした場合求めに応じて個別に指導、授業内で提出された課題の要点に触れる。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する。
オフィスアワー	月曜日 14:30～14:40、16:10～16:20 講義室(本館307号室)

テキスト	『これで話せる韓国語STEP1』 入佐信宏・金孝珍 共著 白帝社 2015年 2,300円(税抜き) (ISBN:978-4-86398-181-2C3087)
参考文献等	『改訂版ハングル能力検定試験5級合格をめざして』 李昌烈著 白帝社 2012年 (ISBN:978-4-89174-812-8)
成績評価基準	自分や家族の名前、物事の特徴や好き嫌いなどの私的な話題、日課や予定、食べ物などの身近なことについて表現することができたものは合格とする。
成績評価の方法	定期試験(50%)、小テスト(30%)、課題(20%)
GPA基準	
備考	「韓国語演習 I」の単位を修得しておくことが望ましい。

科目名	日本語演習Ⅱ	科目ナンバー	
担当者	村本 茜		
授業形式	演習	関連するDPの番号	②
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択必修
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報			

授業の概要	この授業では、前期の「日本語演習Ⅰ」で勉強した文型よりも、少し難しい文型を勉強します。N1レベルの文型もたくさん勉強します。また、それぞれの学科で必要な語いに分けて勉強します。漢字もさらにたくさん読めるようにします。
授業の到達目標	1. N1～N2レベルの日本語の文型をさらに勉強し、使えるようになる 2. 短期大学の授業で使われる語いをさらにおぼえ、理解できるようになる 3. 読める漢字の量をさらにふやす

授業計画		担当者
第1回	夏休みにしたことについて、発表します	村本
第2回	例示 文型:～といった・～にせよ～にせよ・～であれ～であれ 語いと漢字①	村本
第3回	程度の強調 文型:～てこそ・～までして・～すら・～極まる 語いと漢字②	村本
第4回	話題 文型:～といえば・～といったら・～のこととなると 語いと漢字③	村本
第5回	逆接・譲歩 文型:～つつも・～にもかかわらず・～にせよ・～とはいえ 語いと漢字④	村本
第6回	原因・理由 文型:～ものだから・～ばかりに・～につき 語いと漢字⑤	村本
第7回	仮定条件・確定条件 文型:～ないことには・～ないかぎり・～なくして(は) 語いと漢字⑥	村本
第8回	中間テスト	村本
第9回	逆接仮定条件 文型:～にしても・～にせよ・～であろうと・～ようが～まいが 語いと漢字⑦	村本
第10回	不可能・可能・困難・容易 文型:～がたい・～かねる・～にたえる・～にたえない 語いと漢字⑧	村本
第11回	傾向・状態・様子 文型:～っぽい・～気味・～きらいがある・～まみれ 語いと漢字⑨	村本
第12回	経過・結末 文型:～あげく・～末(に)・～に至って(は) 語いと漢字⑩	村本
第13回	否定・部分否定 文型:～ことなく・～ことなしに・～までもなく 語いと漢字⑪	村本
第14回	伝聞・推量 文型:～ということだ・～とのことだ・～とか 語いと漢字⑫	村本
第15回	日本の映画を見て「日本文化」について考えます	村本

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○			

担当教員の実務経験と授業の関連			
-----------------	--	--	--

事前学習	授業の前に配ったプリントを見ておいてください	学習合計時間(h)	30時間
------	------------------------	-----------	------

事後学習	勉強した表現を、ほかの授業でたくさん使ってください アルバイトなど、学校の時間じゃないときにも、よく漢字を読んでください	学習合計時間(h)	30時間
------	---	-----------	------

課題に対するフィードバックの方法	中間テストなどで確認します
質問・相談方法	授業中に質問してもいいですし、オフィスアワーの時間に研究室(西館407)に来てもいいです
オフィスアワー	月曜日 16:25~12:45 講義室(本館403号室)
テキスト	特になし(プリントを配ります)
参考文献等	『改訂版 どんときどう使う 日本語表現文型500』友松悦子ほか 株式会社アルク 2013年 2500円 (ISBN:978-4757418905)
成績評価基準	勉強した文型や語い ^い が使えるようになったかどうかを評価の基準にします
成績評価の方法	授業態度(20%)、 中間テスト(40%)、 課題レポート(40%)
GPA基準	
備考	受講対象者 留学生のみ

科目名	数学基礎	科目ナンバー	
担当者	内田 豊海		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期・後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	選択必修:介護福祉士(★6単位)		

授業の概要	<p>数学は、昔から様々な文化で多くの人々が創造してきた知の体系です。本講義では、多様な単元を取り扱い、問題解決を通して、「数学すること」の楽しさを実感することを目的としています。また、先人の知に触れることで、文化としての数学を継承するとともに、数学的な考え方のよさも体験し、自ら創意工夫し、問題解決を試みようという態度を培っていきます。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 数学的活動の楽しさを知り、問題解決をしようとする態度を培う 2. 数学の有用性を認識する 3. 習得した技能を日常に応用することができる

授業計画		担当者
第1回	数の歴史 いろいろな文化にある様々な数学	内田
第2回	不思議な数のパターン	内田
第3回	微分と積分 イメージすると計算できる	内田
第4回	迷路 出口を見つけるためにはどうしたらいいだろう	内田
第5回	グラフを読む 鹿児島県の人口変動を探ろう	内田
第6回	数値を読み解く オリンピック選手を選んでみよう	内田
第7回	タングラム 図形を組み合わせてみると	内田
第8回	面積 一つの知識でどれだけのことが考えられるか	内田
第9回	確率 好きな人の隣に座れる確率は	内田
第10回	フィボナッチ数 美しいデザインの中にある秘密	内田
第11回	価値観 数を選ぶことで、自分の価値を知る	内田
第12回	関数 変化する先の予測	内田
第13回	証明 どうしたら人に説明できるだろう	内田
第14回	ベクトル 力を図示するとわかること	内田
第15回	不完全性定理 数学はどこまで正しいのだろうか	内田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○			○

担当教員の実務経験と授業の関連			
-----------------	--	--	--

事前学習	単元に関する高校までの既習事項を確認する	学習合計時間(h)	30時間
------	----------------------	-----------	------

事後学習	授業内容に即した発展的問題を課題として提示する	学習合計時間(h)	30時間
------	-------------------------	-----------	------

課題に対するフィードバックの方法	提出された課題の添削および返却
質問・相談方法	授業後およびオフィスアワーに直接尋ねる
オフィスアワー	月曜日 13:00～16:00 研究室(西館412号室)

テキスト	特になし
参考文献等	『偏愛的数学 驚異の数』ポザマンティエ著 岩波書店 2200円 (ISBN:978-4000059817)
成績評価基準	各単元の数学的知識の理解および問題解決力の有無
成績評価の方法	定期試験(70%) 授業態度(30%)
GPA基準	
備考	

科目名	理科基礎	科目ナンバー	
担当者	内田 豊海		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期・後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報			

授業の概要	身近なものや出来事でも、よく考えてみると、不思議なことばかり。この授業では、様々な「なぜ？」から出発して、その？を解き明かすことで、科学の楽しさを実感するとともに、科学的な考え方も身につけていくことを目標としています。取り扱う内容は、広い科学の分野から、できるだけ多くの単元を選出しており、結果として、たくさんの方に興味・関心をもち、最終的には、自分で科学についてももっと知りたい、考えたいと思えるような授業構成にしております。
授業の到達目標	1. 理科・科学の楽しさを実感する 2. 様々なものごとに、興味関心をもつ視点を養う 3. 疑問や問題に、自分なりの考えをもてる科学的思考力を習得する

授業計画		担当者
第1回	ロウソクの観察を通し、科学的な考え方を知ろう	内田
第2回	五感で感じられることは何？ 視覚・聴覚・触覚	内田
第3回	五感で感じられることは何？ 嗅覚・味覚	内田
第4回	最先端の科学事情 今科学でできること	内田
第5回	宇宙の誕生と今、そして未来	内田
第6回	星座物語と地球誕生	内田
第7回	生物 その進化と多様性	内田
第8回	遺伝するもの、しないもの	内田
第9回	病気ってなんだろう？	内田
第10回	燃えるもの、燃えないもの	内田
第11回	化学反応式はすごい こんなことまで説明できる	内田
第12回	電化製品はどんな仕組み？ イヤホンを作ってみよう	内田
第13回	炎色反応 金属を使って花火を作ろう	内田
第14回	時間の流れは同じではない？相対性理論と量子力学	内田
第15回	科学的ってなんだろう？ 科学と疑似科学	内田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○			○

担当教員の実務経験と授業の関連			
-----------------	--	--	--

事前学習	日常で不思議に思ったことをメモし、自分なりにその答えを考えるとともに、授業の前で教員と話をしながら、その背景を探る	学習合計時間(h)	30時間
------	---	-----------	------

事後学習	学習した内容を現実世界と即しながら再確認する	学習合計時間(h)	30時間
------	------------------------	-----------	------

課題に対するフィードバックの方法	講義において教室全体に対してのコメントとしてフィードバックしていく
質問・相談方法	授業後およびオフィスアワーに直接尋ねる
オフィスアワー	月曜日 13:00～16:00 研究室(西館412号室)
テキスト	特になし 授業中に適宜資料を配布する
参考文献等	科学雑誌『ニュートン』
成績評価基準	基礎的な知識だけでなく、科学的思考力の定着度合い、さらに理科への興味関心の具合を基準とする
成績評価の方法	定期試験(70%) 授業態度(30%)
GPA基準	
備考	

科目名	分子からみた生物	科目ナンバー	
担当者	横峯 孝昭		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期・後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報			

授業の概要	生物とは何か、このことについて一般常識としての生物と、最近の生物に関する知見について学び、自分のこととして考えられる教養を身につける。
授業の到達目標	1. 生物について基礎的な知識を習得する 2. 最近の生物における知見を学ぶ

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション	横峯
第2回	生物と細胞	横峯
第3回	生物の体を作っているもの(異化)	横峯
第4回	生物の体を作っているもの(同化)	横峯
第5回	細胞の増え方、精子と卵のでき方	横峯
第6回	メンデルの遺伝(優性の法則、分離の法則について)	横峯
第7回	血液型で遺伝を知ろう	横峯
第8回	男の子、女の子の生まれる確率(伴性遺伝)	横峯
第9回	遺伝疾患の分類	横峯
第10回	クローン動物	横峯
第11回	臓器移植	横峯
第12回	生物の進化と地球環境①(生命の誕生)	横峯
第13回	生物の進化と地球環境②(全球凍結と生命)	横峯
第14回	生命の進化と地球環境③(大海からの離脱)	横峯
第15回	生物の進化と地球環境④(大量絶滅)	横峯

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○				

担当教員の実務経験と授業の関連			
-----------------	--	--	--

事前学習	小・中の頃に勉強した関連の内容について復習しておく	学習合計時間(h)	30時間
------	---------------------------	-----------	------

事後学習	自ら作成した板書ノートを読み直し、次の講義へ備える	学習合計時間(h)	30時間
------	---------------------------	-----------	------

課題に対するフィードバックの方法	課題に対しては求めに応じて個別に対応する
質問・相談方法	講義の前後、オフィスアワーで対応する
オフィスアワー	月曜日 16:30～18:00 研究室(西館401号室)

テキスト	特になし
参考文献等	『休みの時間の生物学』 朝倉幹晴 講談社サイエンティフィック 2376円 (ISBN:978-4061557017)
成績評価基準	本講義内において紹介・説明した生物学の一般常識を理解し、自分の言葉で説明できること
成績評価の方法	定期試験(100%)
GPA基準	
備考	

科目名	人間と環境	科目ナンバー	
担当者	岩切 朋彦		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	一般教養科目
開講期	前期・後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	選択必修:介護福祉士(★6単位)		

授業の概要	人間は、地球上のあらゆる場所にいます。長い歴史の中で、様々な自然環境に適応してきたのが人間です。その適応は、牙を伸ばしたり毛を増やしたりといった身体的変化ではなく、自然環境に合わせて独自の社会環境・技術環境・精神的環境を生み出すことによって行われてきました。人類学の一領域である環境人類学は、人間と環境とのこうしたかかわりについて、多角的な視点から研究を行ってきた学問です。この講義では、環境人類学の基本的な理論を通して、人間と環境の様々な相互関係について概説していきます。
授業の到達目標	1. 環境人類学の基本的な理論について学び、理解する 2. 人間と環境の複雑な相互関係について学び、理解する 3. 自分の日常的な環境について、学んだ理論を用いて説明することができる

授業計画		担当者
第1回	文化人類学と環境人類学に居ついて—イントロダクションとして	岩切
第2回	人間は「文化」によって環境に適応する—人間と環境との生態学的関係	岩切
第3回	飢えないために人間が編み出してきたこと—環境と生業経済	岩切
第4回	住居も「道具」のひとつである—諸民族の住居と自然環境への適応	岩切
第5回	人間は「進化」しているのか—文化生態学と多系進化論	岩切
第6回	環境は言語によって創造される—民族生態学とタクソノミー研究	岩切
第7回	シンボルによって織りなされた豊かな環境観—構造主義と「野生の思考」	岩切
第8回	宗教は生態系に影響を与える—ホメオスタシスとしての儀礼	岩切
第9回	文化によってモノはさまざまな意味をおびる—モノの意味と交換	岩切
第10回	国家もまた「環境」のひとつである—複合社会の生態学	岩切
第11回	金属は役には立つが悩みも多い—鉱物開発に伴う種々の問題	岩切
第12回	「3.11」以降の日本と原子力発電—ハザードとリスク	岩切
第13回	「人口爆発」と環境破壊—地球人口の増加と環境への影響	岩切
第14回	環境破壊によって生み出される新たな病—環境と健康	岩切
第15回	グローバル化時代における人間と環境—まとめとして	岩切

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○				
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	テレビや新聞、インターネットなどで、環境問題についてのニュースがないかチェックしておく			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	授業で学んだ内容について、自分の生活環境と関連付けながら考え、復習する			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	感想シートによる理解度チェックを行う
質問・相談方法	授業中の質問、研究室(西館407)での対応
オフィスアワー	金曜日 10:50~12:20 研究室(西館407号室)

テキスト	特になし(プリント配布)
参考文献等	『環境人類学を学ぶ人のために』パトリシア・K・タウンゼンド著 世界思想社 2004年 1870円(税込) (ISBN-13: 978-4790710363) 『最新研究で読む地球環境と人類史』石弘之著 洋泉社 2016年 2420円(税込) (ISBN-13: 978-4800310002)
成績評価基準	①理論の理解度 ②人間と環境を巡る問題に対して自らの意見を言えるかどうか ③受講態度
成績評価の方法	定期試験(80%) 受講態度(20%)
GPA基準	
備考	

專 門 科 目

生 活 福 祉 專 攻

科目名	人間の尊厳と自立	科目ナンバー	S11201
担当者	谷川 知士		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目[人間と社会]
開講期	後期	卒業の選択・必修	必修
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:介護福祉士		

授業の概要	「人間」の理解を基礎として、人間の尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養うことを目標とする。このために、本講義では「人間の尊厳と自立」に焦点をあて、介護における尊厳の保持・自立支援の在り方について理解を深める。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の尊厳とは何か、人権宣言等を学び理解する 2. 介護における尊厳の保持・自律支援の在り方を理解する 3. 人間の尊厳を支える権利擁護制度を理解する

授業計画		担当者
第1回	人間の尊厳と利用者主体について学ぶ	谷川
第2回	人権思想の潮流とその具現化について学ぶ	谷川
第3回	人権や尊厳に関する日本の諸規定について学ぶ	谷川
第4回	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷について学ぶ	谷川
第5回	戦後の新たな福祉のあり方への模索について学ぶ	谷川
第6回	人権尊重と権利擁護について学ぶ	谷川
第7回	介護保険法における尊厳と自立について学ぶ	谷川
第8回	障害者総合支援法における尊厳と自立について学ぶ	谷川
第9回	自立の概念の多様性について学ぶ	谷川
第10回	自立と自律について学ぶ	谷川
第11回	介護を必要とする人々の自立と自律支援について学ぶ	谷川
第12回	人間の尊厳の保持と自立支援の関係性について学ぶ	谷川
第13回	利用者の主体性を大切にされた声かけについて学ぶ	谷川
第14回	利用者の自立支援について学ぶ	谷川
第15回	これまでの自分の人生を振り返る	谷川

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○			
担当教員の実務経験と授業の関連	福祉団体での実務経験を活かし、人間の尊厳や自立、権利擁護について教授する。				
事前学習	教科書の指定されたページまでを熟読し、分からない用語は辞書等で調べておく			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	毎回の小まとめ用紙を半期(7回)終了後に持ち帰らせ、振り返りの時間を持たせ、最終日には全まとめを持ち帰らせて定期試験に臨む。			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	授業終了時に毎回提出する授業のまとめ用紙に課題等の回答を促し、次回の授業で回答する。
質問・相談方法	授業中での質問時間を設定する。また気軽に質問し易いように、毎回提出する授業のまとめ用紙に質問事項を自由に記入させ、コメントを添えて次回の授業始めに返却する。
オフィスアワー	第1・第3水曜日 14:40～17:55 研究室(西館316号室)
テキスト	「最新・介護福祉士養成講座」1 人間の理解 介護福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版 2019年 2,200円(税別) ISBN 978-4-8058-5761-8 「介護用語辞典」中央法規出版編集部編 中央法規出版 2018年 2,600円(税別) ISBN 978-4-8058-5094-7
参考文献等	特になし
	到達目標に掲げた項目を理解すること。
成績評価の方法	授業への参加態度(20%)とレポート2回(80%)で総合的に評価する。
GPA基準	
備考	単位互換[KRICE]提供科目 ※介護職員初任者研修読み替え可能科目

科目名	社会学概論	科目ナンバー	S11102
担当者	倉重 加代		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目[人間と社会]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:介護福祉士		

授業の概要	介護福祉士にとって必要な「社会の理解」の中で、本授業では、まず、生活支援や福祉の体系が理解できるようにするために、生活の機能やライフスタイルの変化、家族や組織、地域社会の機能と役割について学ぶ。さらに、地域共生社会の実現に向けた制度や施策の理解のために、当該分野の理念や歴史等について理解し、介護福祉士としての資質向上を目指す。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活の機能やライフスタイルの変化について理解する 2. 生活にかかわる家族や地域社会の機能と役割について理解する 3. 地域共生社会の実現に向けた制度や施策を理解する

授業計画		担当者
第1回	生活とは(1)「生活」を捉える視点を学ぶ	倉重
第2回	生活とは(2)生活を捉える学説を理解する	倉重
第3回	生活の基本機能について理解する	倉重
第4回	家族の機能と役割について理解する	倉重
第5回	家族の機能の変化を学ぶ	倉重
第6回	ライフスタイルの変化を学ぶ	倉重
第7回	家族の機能や人々のライフスタイルについて議論し、発表する	倉重
第8回	社会・組織の機能と役割について理解する	倉重
第9回	地域・地域社会の概念や変化、役割について学ぶ	倉重
第10回	地域社会における生活支援組織を学ぶ	倉重
第11回	地域福祉の理念や歴史的展開について理解する	倉重
第12回	災害と地域社会について学ぶ	倉重
第13回	地域共生社会を目指す背景や理念、取り組みについて学ぶ	倉重
第14回	地域包括ケアについて理解する	倉重
第15回	授業の総括、質疑	倉重

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○		○		
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	新聞を読んだりニュースを見たりして、世の中の出来事を知る			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	定期試験のために授業内容の復習をしておく			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業前後やオフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	火曜日 16:30～18:30 研究室(西館312号室)
テキスト	『最新・介護福祉士養成講座 社会の理解』介護福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版 2019年 2,200円 (ISBN978-4-8058-5762-5)
参考文献等	総務省統計局ホームページ ほか授業中に紹介
成績評価基準	到達目標1～3.に記載してある事項を理解していること。
成績評価の方法	期末試験(60%)、提出物(30%)、毎時間のコメントシート(10%)で評価する。
GPA基準	
備考	学内他学科・他専攻開放科目

科目名	社会と制度の理解	科目ナンバー	S11101
担当者	谷川 知士		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目[人間と社会]
開講期	前期	卒業の選択・必修	必修
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:介護福祉士 必修:介護保険実務士・医療秘書実務士		

授業の概要	個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりや、自助から公助に至る過程について理解をすすめる。変化の大きい介護保険制度と障害者総合支援法について、介護実践に必要な観点から基礎的知識を習得させる。
授業の到達目標	1. 現代社会の変化と生活構造を理解する 2. 介護保険制度と介護福祉士の役割を理解する 3. 介護実践に係わる権利擁護制度を理解する

授業計画		担当者
第1回	高齢者保健福祉に関する歴史について学ぶ	谷川
第2回	高齢化と高齢者保健福祉の今日的課題と展望について学ぶ	谷川
第3回	高齢社会対策基本法や老人福祉法について学ぶ	谷川
第4回	介護保険制度の背景と目的について学ぶ	谷川
第5回	介護保険制度のしくみについて学ぶ	谷川
第6回	介護保険制度における組織や介護支援専門員の役割について学ぶ	谷川
第7回	介護保険制度の動向について学ぶ	谷川
第8回	障害者福祉の現状や歴史について学ぶ	谷川
第9回	障害者保険福祉の法律や定義について学ぶ	谷川
第10回	障害者総合支援制度創設の背景や目的について学ぶ	谷川
第11回	自治体や国の役割及び利用者負担について学ぶ	谷川
第12回	障害者福祉サービスの種類や内容、利用手続き等について学ぶ	谷川
第13回	協議会と基幹相談支援センターの役割について学ぶ	谷川
第14回	相談支援事業と相談支援専門員について学ぶ	谷川
第15回	障害児を支える障害者総合支援制度について学ぶ	谷川

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○			

担当教員の実務経験と授業の関連	福祉団体での実務経験を活かし、介護保険法や障害者総合支援法について教授する。		
事前学習	教科書の指定されたページまでを熟読し、分からない用語は辞書等で調べておく	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	毎回の小まとめ用紙を半期(7回)終了後に持ち帰らせ、振り返りの時間を持たせ、最終日には全まとめを持ち帰らせて定期試験に臨む	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	授業終了時に毎回提出する授業のまとめ用紙に課題等の回答を促し、次回の授業で回答する。
質問・相談方法	授業中での質問時間を設定する。また気軽に質問し易いように、毎回提出する授業のまとめ用紙に質問事項を自由に記入させ、コメントを添えて次回の授業始めに返却する。
オフィスアワー	第1・第3水曜日 14:40～17:55 研究室(西館316号室)
テキスト	「最新・介護福祉士養成講座」2 社会の理解 介護福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版 2019年 2,200円(税別) ISBN 978-4-8058-5762-5 「介護用語辞典」中央法規出版編集部編 中央法規出版 2018年 2,600円(税別) ISBN 978-4-8058-5094-7
参考文献等	「社会福祉六法」ミネルヴァ書房 2019年 1,600円
成績評価基準	到達目標に掲げた項目をおおよそ理解すること。
成績評価の方法	授業への参加態度(20%)と期末試験(80%)で総合的に評価する。
GPA基準	
備考	単位互換[KRICE]提供科目 ※介護職員初任者研修読み替え可能科目

科目名	社会保障論	科目ナンバー	S11202
担当者	谷川 知士		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目[人間と社会]
開講期	後期	卒業の選択・必修	必修
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:介護福祉士		

授業の概要	我が国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、しくみについて理解をさせる。特に少子高齢化時代を迎え、地方経済や国の財政問題も考慮し、持続可能な社会保障制度の仕組みについても議論を重ね、福祉の専門家としての基礎知識を身に付けて欲しい。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会保障の歴史と理念を理解する 2. 所得補償制度と関連性を理解する 3. 医療及び障害者支援制度の知識を身に付けて理解する

授業計画		担当者
第1回	社会保障の基本的な考え方について学ぶ	谷川
第2回	社会保障の意義と役割及び目的と機能について学ぶ	谷川
第3回	社会保障の歴史と理念について学ぶ	谷川
第4回	日本国憲法における社会保障との関係について学ぶ	谷川
第5回	戦後社会と社会保障制度の発達について学ぶ	谷川
第6回	日本の社会保障制度のしくみについて学ぶ	谷川
第7回	福祉六法の成立と意義について学ぶ	谷川
第8回	社会保障の見直しについて学ぶ	谷川
第9回	介護保険と福祉の考え方の変化について学ぶ	谷川
第10回	社会保障の実施体制と仕組みについて学ぶ	谷川
第11回	各種保険や社会扶助について学ぶ	谷川
第12回	少子高齢化の進行と社会保障のあり方について学ぶ	谷川
第13回	財政問題と社会保障について学ぶ	谷川
第14回	社会保障における給付と負担の関係について学ぶ	谷川
第15回	持続可能な社会保障制度への道について考える	谷川

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○				
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	教科書の指定されたページまでを熟読し、分からない用語は辞書等で調べておく			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	毎回の小まとめ用紙を半期(7回)終了後に持ち帰らせ、振り返りの時間を持たせ、最終日には全まとめを持ち帰らせて定期試験に臨む			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	授業終了時に毎回提出する授業のまとめ用紙に課題等の回答を促し、次回の授業で回答する。
質問・相談方法	授業中での質問時間を設定する。また気軽に質問し易いように、毎回提出する授業のまとめ用紙に質問事項を自由に記入させ、コメントを添えて次回の授業始めに返却する。
オフィスアワー	第1・第3水曜日 14:40～17:55 研究室(西館316号室)
テキスト	「最新・介護福祉士養成講座」2 社会の理解 介護福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版 2019年 2,200円(税別) ISBN 978-4-8058-5762-5
参考文献等	「社会福祉小六法」 ミネルヴァ書房 2019年 1,600円(税別) ISBN 978-4-623-08149-3
成績評価基準	到達目標に掲げた項目をおおよそ理解すること。
成績評価の方法	授業への参加態度(20%)と期末試験(80%)で総合的に評価する。
GPA基準	
備考	単位互換[KRICE]提供科目

科目名	レクリエーション概論	科目ナンバー	S11103
担当者	大村 一光		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目[人間と社会]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	選択必修:介護福祉士(★6単位) 必修:レクリエーション・インストラクター		

授業の概要	レクリエーションに関する基礎理論や支援の方法などを学ぶことで、レクリエーションインストラクターとしての基本的な理論と実践力を獲得し、職場や地域社会の活動に対して積極的に取り組んでいけるようになる。
授業の到達目標	1. レクリエーションインストラクターの理解 2. 基本的手法の理解と獲得をめざす 3. 福祉への応用力をつける

授業計画		担当者
第1回	楽しさを通じた心の元気づくりと対象者の元気	大村
第2回	心の元気と地域のきずな	大村
第3回	コミュニケーションと信頼関係づくり	大村
第4回	信頼関係づくりの方法(ホスピタリティ)	大村
第5回	良好な集団づくりの理論	大村
第6回	良好な集団づくりの方法(アイスブレイキング)	大村
第7回	自主的、主体的に楽しむ力を高める方法	大村
第8回	安全管理の方法	大村
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○			○

担当教員の実務経験と授業の関連				
-----------------	--	--	--	--

事前学習	これまでの様々なボランティア活動等の整理を行う	学習合計時間(h)	15時間
------	-------------------------	-----------	------

事後学習	現場での実習として2年間で2回の活動を行い、支援力の認識を行う	学習合計時間(h)	15時間
------	---------------------------------	-----------	------

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、必要に応じて個別に対応する
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーに対応する
オフィスアワー	水曜日～金曜日 12:10～12:55 研究室(体育館101号室)
テキスト	特になし(毎回、自作資料を配布する)
参考文献等	『楽しさをおとした心の元気づくり』、日本レクリエーション協会、2017年
成績評価基準	レクリエーションインストラクターの理解と基本的手法の理解と獲得
成績評価の方法	定期試験(70%)、受講態度(30%)
GPA基準	
備考	

科目名	介護の基本 I	科目ナンバー	S11104
担当者	福永 宏子		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目[介護]
開講期	前期	卒業の選択・必修	必修
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:介護福祉士 選択必修:介護保険実務士・医療秘書実務士		

授業の概要	1.「尊厳の保持」「自立支援」の介護の考え方を生活の視点から捉え、在宅や施設での生活者および生活環境を観察、考察することにより、他の専門科目を学ぶ上で基本的な知識・視点を講義する。2.介護の考え方を具体的に実践することができるように、「その人らしさ」「生活支援」について考え、自分たちを取り巻く環境と、介護を必要とする人の生活について自分で考え、介護福祉職としての自覚や意識を持つことができるような講義とする。
授業の到達目標	1. 介護の場面を生活の視点から観察し、考え理解することができる。 2. 「尊厳の保持」と「自立支援」とは何か説明することができる。

授業計画		担当者
第1回	授業内容の進め方、本科の位置づけや意義、目的	福永
第2回	介護の概念・定義	福永
第3回	介護の成り立ち	福永
第4回	「介護」の見方、考え方の変化 介護福祉の歴史的な理解	福永
第5回	生活の理解 生活とは何か	福永
第6回	生活ニーズの把握	福永
第7回	「介護」と「生活支援」	福永
第8回	介護を必要とする人の理解(生活の多様性の理解)	福永
第9回	介護を必要とする人の理解(人間の多様性の理解)	福永
第10回	「その人らしさ」とは何か	福永
第11回	「尊厳」とは何か	福永
第12回	「尊厳」を支える介護とは	福永
第13回	「自立支援」とは何か	福永
第14回	「自立支援」を支える介護とは	福永
第15回	「その人らしさ」を大切に作る介護とは 科目まとめ	福永

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○			○

担当教員の実務経験と授業の関連	介護福祉の現場での経験を活かして、介護の基本について教授する。		
事前学習	授業の予習(テキストを読む。わからない語句を調べておく)	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	学習内容を振り返りをする。わからない部分については、調べる・質問をする等で理解する	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	・前回の学習内容についての小テストの実施。 課題は、求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業中、オフィスアワーで対応する。
オフィスアワー	水曜日 10:20～12:40 研究室(西館315号室)
テキスト	『最新介護福祉士養成講座3「介護の基本Ⅰ」』介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 2019年 (ISBN 978-4-8058-5763-2) 2,200円 『最新介護福祉士養成講座4「介護の基本Ⅱ」』介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 2019年 (ISBN 978-4-8058-5764-9) 2,200円
参考文献等	『七訂 介護福祉用語辞典』中央法規出版編集部編集 中央法規 2015年 2,600円(税別き) (ISBN: 978-4-8058-5094-7)
成績評価基準	介護福祉専門職としての役割・資質を理解すること。 介護の場面を生活の視点から理解すること。
成績評価の方法	定期試験(80%)、小テストと課題(20%)で総合的に判定する。
GPA基準	
備考	単位互換[KRICE]提供科目 ※介護職員初任者研修読み替え可能科目

科目名	介護の基本Ⅱ	科目ナンバー	S11105
担当者	福永 宏子		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目[介護]
開講期	前期	卒業の選択・必修	必修
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:介護福祉士 選択必修:介護保険実務士・医療秘書実務士		

授業の概要	1. 介護福祉士が活動する介護サービス提供場面の見学や、視聴覚教材を活用し、ロールプレイなどの演習で体験するとことで、介護サービスの特性、活躍する場について説明する。 2. 介護福祉士の役割と特徴について、歴史的変遷も踏まえ概説し、介護福祉士に求められている社会的役割、専門職としての資質について講義する。
授業の到達目標	1. 介護サービスの特性と働く場について理解できる。 2. 介護福祉士の役割について理解できる。

授業計画		担当者
第1回	授業の進め方 本科目の意義と目的	福永
第2回	介護サービスと介護福祉士の働く場	福永
第3回	学外研修についての説明	福永
第4回	学外研修(県内の施設見学)	福永
第5回	学外研修(県内の施設の入所者との交流)	福永
第6回	学外研修の事後指導(介護を必要とする人の理解)	福永
第7回	介護サービスの特性(介護保険法)	福永
第8回	介護サービスの特性(障害者総合支援法)	福永
第9回	介護従事者の役割と仕事(介護福祉を取り巻く状況)	福永
第10回	介護福祉の定義と対象 社会福祉士及び介護福祉士法	福永
第11回	介護福祉士の職業倫理 求められる介護福祉士像	福永
第12回	介護サービスの場の特性(高齢者 居宅系サービス)	福永
第13回	介護サービスの特性(高齢者 入所系サービス)	福永
第14回	介護サービスの特性(障がい者居宅系サービス)	福永
第15回	介護サービスの特性(障がい者入所系サービス) 科目のまとめ	福永

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○			○

担当教員の実務経験と授業の関連	介護福祉の実務経験を活かして、介護サービス及び特性について教授する。		
事前学習	授業の予習(テキストを読むわからない語句を調べておく)。学外研修時は、研修施設の概要、特徴、地域について調べておく	学習合計時間(h)	15時間
事後学習	学習内容の復習をする。わからないところは、調べる。質問をする。レポートを2題課す	学習合計時間(h)	15時間

課題に対するフィードバックの方法	・前回の学習内容についての小テストの実施。・課題レポートについては、個別に対応する。
質問・相談方法	授業中、オフィスアワーで対応する。
オフィスアワー	水曜日 10:20～12:40 研究室(西館315号室)
テキスト	『最新介護福祉士養成講座3「介護の基本Ⅰ」』介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 2019年 (ISBN 978-4-8058-5763-2) 2,200円 『最新介護福祉士養成講座4「介護の基本Ⅱ」』介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 2019年 (ISBN 978-4-8058-5764-9) 2,200円
参考文献等	『七訂 介護福祉用語辞典』中央法規出版編集部編集 中央法規 2015年 2,600円(税別き) (ISBN: 978-4-8058-5094-7)
成績評価基準	・介護サービスの特性を理解している。 ・介護福祉士としての役割、特徴を理解している。
成績評価の方法	定期試験(70%)、小テストと課題・レポート(30%)で総合的に判定する。
GPA基準	
備考	COC関連科目 ※介護職員初任者研修読み替え可能科目

科目名	介護の基本Ⅲ	科目ナンバー	S11203
担当者	福永 宏子		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目[介護]
開講期	後期	卒業の選択・必修	必修
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:介護福祉士 選択必修:介護保険実務士・医療秘書実務士		

授業の概要	介護の基本Ⅰ,Ⅱの内容を踏まえ、高齢者や障がい者の心身の状況に応じた生活のあり方や工夫を事例や教材を基に演習を交えながら講義を進める。・介護の提供時に起こる、リスクについて予防方法や対策方法について講義する。
授業の到達目標	1. 生活支援の内容と意義が理解できる。 2. 介護における安全の確保とリスクマネジメントが理解できる。

授業計画		担当者
第1回	本科目の意義と目的 生活ニーズと生活環境の重要性	福永
第2回	さまざまな生活支援 ICFの視点から生活支援を考える	福永
第3回	介護福祉職が行う生活支援とは	福永
第4回	生活支援の意義と実際 身体介護	福永
第5回	生活支援の意義と実際 生活援助	福永
第6回	QOLを高める生活支援の方法	福永
第7回	余暇活動や楽しみを取り入れた生活支援	福永
第8回	介護とリハビリテーションの考え方 生活能力の維持・拡大への効果	福永
第9回	生活支援ニーズを把握する 相談援助の意義	福永
第10回	利用者とその家族に対する精神的支援の意義	福永
第11回	生活機能と自立支援の実際 事例で考える	福永
第12回	介護における安全の確保 安全の重要性とリスクマネジメント	福永
第13回	介護における安全の確保 事故防止と安全対策	福永
第14回	介護における安全の確保 感染対策とリスクマネジメント	福永
第15回	介護福祉職と生活支援 科目まとめ	福永

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○	○		○

担当教員の実務経験と授業の関連	介護福祉の実務経験を活かし、介護の現場及び必要な視点について教授する。			
-----------------	-------------------------------------	--	--	--

事前学習	授業の予習(テキストを読む。わからない語句を調べておく)	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	学習内容を振り返りをする。わからなかった部分は、調べる。質問を行い解	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の学習内容について的小テストの実施。 ・必要に応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業中、オフィスアワーで対応する。
オフィスアワー	水曜日 10:20～12:40 研究室(西館315号室)
テキスト	『最新介護福祉士養成講座3「介護の基本Ⅰ」』介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 2019年 (ISBN 978-4-8058-5763-2) 2,200円 『最新介護福祉士養成講座4「介護の基本Ⅱ」』介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 2019年 (ISBN 978-4-8058-5764-9) 2,200円
参考文献等	『七訂 介護福祉用語辞典』中央法規出版編集部編集 中央法規 2015年 2,600円(税別き) (ISBN: 978-4-8058-5094-7)
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者、障がい者の生活について理解し考えを述べるができること。 ・介護におけるリスクマネジメントについて理解すること。
成績評価の方法	定期試験(80%)、小テスト(20%)で総合的に判定する。
GPA基準	
備考	単位互換[KRICE]提供科目 ※介護職員初任者研修読み替え可能科目

科目名	コミュニケーションの基礎	科目ナンバー	S13201
担当者	宮里 新之介		
授業形式	講義	関連するDPの番号	③
配当年次	1	科目群	専門科目[介護]
開講期	後期	卒業の選択・必修	必修
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:介護福祉士 選択必修(▲4単位):ピアヘルパー		

授業の概要	本科目では、介護現場におけるコミュニケーションの知識・技術・態度に関する基礎的知識を学ぶため、言語コミュニケーションや非言語コミュニケーション等、コミュニケーションに関する講義を行う。
授業の到達目標	1. コミュニケーションという概念について理解する 2. 自分のコミュニケーションパターンを認識し分析できる 3. 利用者とのコミュニケーションの意義を理解する

授業計画		担当者
第1回	コミュニケーションとは何か	宮里
第2回	リレーション作りについて	宮里
第3回	自己開示について	宮里
第4回	言語コミュニケーション①(受容、繰返し、明確化)	宮里
第5回	言語コミュニケーション②(支持、質問)	宮里
第6回	非言語コミュニケーション①(視線、表情など)	宮里
第7回	非言語コミュニケーション②(姿勢、動作など)	宮里
第8回	コミュニケーション上の諸問題(抵抗、沈黙など)	宮里
第9回	介護におけるコミュニケーションとは	宮里
第10回	介護におけるコミュニケーションの対象	宮里
第11回	援助関係とコミュニケーション	宮里
第12回	コミュニケーション態度に関する基本技術	宮里
第13回	言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本	宮里
第14回	目的別のコミュニケーション技術	宮里
第15回	集団におけるコミュニケーション技術	宮里

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○			

担当教員の実務経験と授業の関連			
-----------------	--	--	--

事前学習	意味のわからない用語は辞書等で調べておく	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	前回の授業の理解度をチェックするためのミニテストを実施することがあるので、授業の復習を行う	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合(定期試験を含む)求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー、また毎授業で実施する質問・感想記入シートへの回答で対応する。
オフィスアワー	木曜日 10:35~12:05 研究室(本館312号室)
テキスト	『コミュニケーション技術』 介護福祉士養成講座編集委員会(編集) 中央法規出版 2019年 2200円(税抜き) (ISBN978-4-8058-5765-6)
参考文献等	『ピアヘルパーハンドブック』 日本教育カウンセラー協会(編) 図書文化 2001年 1500円(税別) (ISBN978-4-8100-1343-6)
成績評価基準	コミュニケーションという概念について理解し、自己理解を深めながら、被介護者とのコミュニケーションの意義を理解できること。
成績評価の方法	定期試験(80%)、講義時の受講態度及びミニテスト(20%)で総合的に判定する。
GPA基準	
備考	他学科開放科目 ※介護職員初任者研修読み替え可能科目

科目名	生活支援技術A	科目ナンバー	S11106
担当者	岡村 友美		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目[介護]
開講期	前期	卒業の選択・必修	必修
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:介護福祉士 選択必修:介護保険実務士		

授業の概要	どのような心身状態であっても、尊厳保持の観点からその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出すための介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識を深めていける講義をする。そのためには、「なぜ」そのような援助をするのかという根拠が大切であるので、具体的に説明する。演習内容としては、「身支度の介護」「移動の介護」「食事の介護」「睡眠の介護」を中心にそれぞれの介護における意義や目的などについて教授する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者の心身の状況に応じた身支度の介護ができる 2. 自立に向けた移乗・移動の援助が適切に実践できる 3. 睡眠が生活に及ぼす影響を理解し、安眠できる環境状況に配慮できる

授業計画		担当者
第1回	アセスメントとは何か。介護福祉士に求められる専門性	岡村
第2回	身支度の意義と目的。自立支援を支える整容の介護の実際	岡村
第3回	口腔ケアの目的と効果。口腔ケアの介助における状態別介助の視点	岡村
第4回	衣服の種類による着脱介助	岡村
第5回	着脱の介助:座位・ベッド上での着脱	岡村
第6回	移動の意義と目的:移動に関するアセスメント	岡村
第7回	介護の原則とボディメカニクス。移動の介護:車いすの基礎構造、車いす介助の留意点	岡村
第8回	移動の介護:ベッド→車いす、車いす→ベッドへの移乗	岡村
第9回	車いすでの外出の介護:不整地、段差昇降、スロープ	岡村
第10回	歩行の介助:平地・階段	岡村
第11回	食事の意義と目的:食事に関するアセスメント	岡村
第12回	自立を支える食事介助:座位、仰臥位	岡村
第13回	睡眠の意義と目的:衛生管理、ベッドメイキング	岡村
第14回	睡眠の介護における状態別介助の視点。他職種の役割と連携	岡村
第15回	総括(個別実技評価)	岡村

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○		○	

担当教員の実務経験と授業の関連					
-----------------	--	--	--	--	--

事前学習	授業の予習としてはテキストを読み、手技をイメージしておく	学習合計時間(h)	15時間
事後学習	実技に関しては、繰り返し練習すること。レポート作成	学習合計時間(h)	15時間

課題に対するフィードバックの方法	介護技術は単独で実践されるものではないので、演習(それぞれの課題)のつど、フィードバックをしながら演習(技術修得)を進めていく。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーなどに対応する。
オフィスアワー	水曜日 講義終了後12:05~12:30 講義室(南館301・西館204号室)
テキスト	『生活支援技術Ⅱ―第3版―』介護福祉士養成講座編集委員会編集 中央法規出版 2017 2200円 (ISBN978-4-8058-3941-6)
参考文献等	配布プリント
成績評価基準	実技試験において、到達目標の介護及び援助ができること。 定期試験(レポートを含む)で6割を超えること。
成績評価の方法	定期試験(レポート)の成績(80%)と実技試験(20%)の成績を総合的に評価する。
GPA基準	
備考	教育効果向上のため、2コマ(180分)×15回で実施する。 ※介護職員初任者研修読み替え可能科目

科目名	生活支援技術B	科目ナンバー	S11204
担当者	浜崎 眞美、福永 宏子		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目〔介護〕
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	オムニバス
免許・資格情報	必修:介護福祉士 選択必修:介護保険実務士		

授業の概要	<p>尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について明らかにする。生活支援技術Bでは、入浴・清潔保持の介護、身支度の介護、バイタルサインの測定が主な内容となる。効果的な演習となるために、お互いに介護者役、利用者役を担いながら進める。心身の状況に応じた介護が実践できるために、「介護技術の基礎」で学んだことを深めることができるようにする。</p>
授業の到達目標	<p>1. 入浴・清潔保持の介護及び身支度の介護について具体的援助を実践できる。 2. バイタルサインの意味を理解し、正確な測定ができる。</p>

授業計画		担当者
第1回	入浴の意義・目的、利用者のアセスメントについて	福永
第2回	安全・的確な入浴介助技法	福永
第3回	安全・的確な入浴介助時の移動の技法	福永
第4回	入浴介助技法(一部介助の入浴技法)	福永
第5回	入浴介助技法(シャワー浴、家庭浴槽・一般浴槽)	福永
第6回	入浴介助技法(全介助の入浴技法)	福永
第7回	入浴介助技法(特殊浴槽)	福永
第8回	安全・的確な入浴介助技法(実施後の評価・考察)	福永
第9回	生命徴候としての体温・呼吸・脈拍・血圧について	浜崎
第10回	身支度の介護(洗面・整容・ひげの手入れ・化粧)	浜崎
第11回	身支度の介護(爪・軟膏塗布・湿布の貼付・点眼等)	浜崎
第12回	安全・的確な清潔保持技法(全身清拭・部分清拭)	浜崎
第13回	安全・的確な清潔保持技法(陰部洗浄)	浜崎
第14回	安全・的確な清潔保持技法(足浴・手浴)	浜崎
第15回	安全・的確な清潔保持技法(洗髪)	浜崎

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○		○	
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	「介護技術の基礎」、「生活支援技術A」で学んだことを復習し、不明な点は質問する			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	実施した演習内容について、繰り返し練習を行う			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する。
オフィスアワー	福永:水曜日 12:10～14:00 研究室(西館315号室) 浜崎:水曜日 12:10～14:30 研究室(西館314号室)
テキスト	『最新・介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅰ』介護福祉士養成講座編集委員会編集 中央法規 2019年 2200円 (ISBN978-4-8058-5766-3) 『最新・介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅱ』介護福祉士養成講座編集委員会編集 中央法規 2019年 2200円 (ISBN978-4-8058-5767-0) 『最新・介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅲ』介護福祉士養成講座編集委員会編集 中央法規 2019年 2200円 (ISBN978-4-8058-5768-7) 『最新・介護福祉士養成講座 医療的ケア』介護福祉士養成講座編集委員会編集 中央法規 2019年 2600円 (ISBN978-8058-5775-5)
参考文献等	『最新・介護福祉士養成講座 ころとからだのしくみ』介護福祉士養成講座編集委員会編集 中央法規 2019年 2600円 『七訂 介護福祉用語辞典』中央法規出版部編 中央法規 2015年 2600円
成績評価基準	入浴・清潔保持の介護及び身支度の介護について、利用者の心身の状況に応じた具体的援助内容を理解すること。
成績評価の方法	実技試験とレポート(20%)、期末試験(80%)で総合的に判定する。
GPA基準	
備考	

科目名	生活支援技術(住)	科目ナンバー	S11107
担当者	福田 真樹子		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目[介護]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:介護福祉士		

授業の概要	鹿児島県は、高齢化率と高齢者の独居率が高い県である。過疎化の進展の中、在宅介護の施策を住環境でどのように支えるか、また、住宅での介護予防策と地域での居住の継続の方策について講義する。
授業の到達目標	1. 鹿児島県の高齢者の住宅事情について学び、住宅の課題を理解する。 2. 生活行動と生活空間の関係について学び、住宅における介護予防と住宅改修の要点を理解する。 3. 介護保険における住宅改修の要点について理解する。

授業計画		担当者
第1回	鹿児島県の伝統的な住まいと高齢者	福田
第2回	限界集落と高齢過疎地域の今後	福田
第3回	住居の役割と機能—シェルター、生活の伝承	福田
第4回	ライフサイクルと住居、生活時間と住行為、住要求	福田
第5回	近隣との交流、まちづくり、バリアフリーの環境	福田
第6回	ADLへの対応、バリアフリー、ユニバーサルデザイン	福田
第7回	モジュール、身体の変化と空間、起居様式	福田
第8回	空間の配列とゾーニング、ライフスタイルと間取り	福田
第9回	集合住宅の計画、近隣との空間的つながり	福田
第10回	空気環境の調節、光の調節、温湿度の調節、音の調整	福田
第11回	住宅の性能:安全性、快適性、防犯性等	福田
第12回	住居の維持管理、衛生管理	福田
第13回	介護保険と住宅改修	福田
第14回	住居と施設	福田
第15回	認知症高齢者への環境支援指針	福田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○				
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	意味のわからない用語は調べておく			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	レポートを課す。中間試験(小テスト)を行う 期末試験のために総復習をする			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	個別指導を行う。講義で課題の要点を解説する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	火曜日 12:05～12:55 講義室(西館203号室)
テキスト	『生活支援技術 I』 介護福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版 2019年 2200円 (ISBN: 978-4-8058-5766-3)
参考文献等	『大往生の島』 佐野真一 文藝春秋 1997年 1,429円(税抜き) (ISBN-13: 978-4167340063) 『クリッパンの老人たち-スウェーデンの高齢者ケア』 外山義 ドメス出版 1990年 1,800円(税抜き) (ISBN-13: 978-4810703054)
成績評価基準	生活行動と生活空間の関係を理解し、住宅における介護予防策を理解する。また、介護保険における住宅改修の要点について理解すること。
成績評価の方法	小テスト(20%)、期末試験(60%)、レポート(20%)を総合的に判定する。
GPA基準	
備考	

科目名	介護過程 I	科目ナンバー	S11108
担当者	福永 宏子		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目[介護]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:介護福祉士		

授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士として介護を提供するには、専門的な思考を展開する必要がある。他の科目で学習した知識や技術を統合して、「尊厳の保持」「自立支援」を生活の視点から捉え専門的な思考展開を身に付けるための基礎的知識を講義する。 ・介護実習での課題に効果的に取り組むために、利用者の観察や情報収集に必要な知識や方法を講義する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護過程とは何か理解することができる。 2. 介護過程の必要性を理解し、介護実習等の実践に活かすことができる。 3. ICFの視点に基づく生活機能の観察や情報収集、記録ができる。

授業計画		担当者
第1回	本科目の意義と目的	福永
第2回	介護過程とは何か	福永
第3回	生活を理解する ICFと生活機能	福永
第4回	ICFの視点で生活をみる	福永
第5回	介護過程の展開 介護過程の方法 介護実習との関係	福永
第6回	介護過程の展開 アセスメント	福永
第7回	介護過程の展開 計画の立案	福永
第8回	介護過程の展開 実施 記録の重要性	福永
第9回	介護過程の展開 評価 介護実習の心構え	福永
第10回	介護過程とケアマネジメントの関係	福永
第11回	介護過程とケアマネジメントの関係 記録・報告の方法とカンファレンス	福永
第12回	介護過程の実際 介護実習との関連(進め方)	福永
第13回	介護過程の実際 使用する書式と記入方法	福永
第14回	介護過程の実際 観察の視点 毎日の観察と評価	福永
第15回	家で生活する高齢者の介護過程の展開 科目まとめ	福永

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○			○
担当教員の実務経験と授業の関連	介護福祉の実務経験を活かし、介護のプロセス及びしくみについて教授する。				
事前学習	授業の予習(テキストを読む、わからない語句を調べておく)			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	内容の復習、授業や介護実習で記載した書類の訂正等を行う。			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の内容についての小テストを行う。 ・授業終了時に記録方法を活用した練習を行う。 ・求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業中、オフィスアワーに対応する。
オフィスアワー	金曜日 12:10～16:10 研究室(西館315号室)
テキスト	『最新介護福祉士養成講座9「介護過程」』介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 2019年 (ISBN 978-4-8058-5769-4) 2,200円
参考文献等	『「よくする介護」を実践するためのICFの理解と活用』大川弥生著 中央法規出版 2009年 (ISBN 978-4-8058-3206-6) 1,944円(税込み)
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・介護過程を理解し説明できる。 ・ICFの視点に基づく記録や観察ができる。
成績評価の方法	定期試験(80%)、小テストと提出物(20%)で総合的に判定する。
GPA基準	
備考	

科目名	介護過程Ⅱ	科目ナンバー	S11205
担当者	福永 宏子		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目〔介護〕
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:介護福祉士		

授業の概要	介護過程Ⅰ学習した知識や技術を、実際に活用できるように演習やグループワークを通して身に付け、更に、介護の根拠に基づいて提供できるように講義する。・介護実習において介護過程の展開ができるように、根拠の理解と必要な知識、技術を講義する。
授業の到達目標	1. 介護過程の展開について説明できる。 2. 根拠に基づいた介護を提供するための情報を収集でき記録することができる。 3. 介護過程のアセスメントについて理解することができる。

授業計画		担当者
第1回	本科目の意義と目的 在宅で生活する利用者の介護過程の展開	福永
第2回	生活の工夫と介護サービス	福永
第3回	生活を支援するために必要な視点 ICFの理解	福永
第4回	介護過程の展開 アセスメント 情報を収集する 介護実習の目標	福永
第5回	介護過程の展開 観察 アセスメント表1	福永
第6回	介護過程の展開 観察 ICFの視点	福永
第7回	介護過程の展開 情報を整理する 「観察をして情報を得る」記入方法	福永
第8回	介護過程の展開 アセスメント表2	福永
第9回	介護過程の展開 アセスメント表 課題の明確化 介護実習で使用する書式の確認・準備	福永
第10回	介護過程の展開 アセスメント表1, 2と記録の方法(個人指導)	福永
第11回	介護実習での観察と気づき 実習反省会	福永
第12回	介護過程の展開 施設で生活することの理解	福永
第13回	介護過程の展開 事例演習 アセスメント表1 情報の整理	福永
第14回	介護過程の展開 事例演習 アセスメント表2「情報の解釈 関連付け」担当希望利用	福永
第15回	科目まとめ 介護実習の事前準備	福永

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○			○

担当教員の実務経験と授業の関連	介護福祉の実務経験を活かして、介護の専門性について教授する。		
事前学習	授業の予習(テキストを読む、わからない語句を調べておく)	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	内容の復習、授業や介護実習で記載した書類の訂正等を行う。 課題事例を仕上げる	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	・前回の内容の小テストを実施する。・使用した課題事例は完成をする。指導については、個別指導を行う。
質問・相談方法	授業中、オフィスアワーで対応する。
オフィスアワー	金曜日 10:20～12:40 研究室(西館315号室)
テキスト	『最新介護福祉士養成講座9「介護過程」』介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 2019年 (ISBN 978-4-8058-5769-4) 2,200円
参考文献等	介護実習要項
成績評価基準	・介護過程の展開について理解している。・ICFの視点に基づいた記録ができている。・アセスメントについて理解し展開ができる。
成績評価の方法	定期試験(70%)、課題事例(30%)で総合的に判定する。
GPA基準	
備考	

科目名	介護総合演習Ⅰ・Ⅱ	科目ナンバー	S12502
担当者	浜崎 眞美、有馬 恵子、谷川 知士、宮園 真紀、松下 みゆき		
授業形式	演習	関連するDPの番号	②
配当年次	1	科目群	専門科目〔介護〕
開講期	通年	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	オムニバス
免許・資格情報	必修:介護福祉士 選択:介護保険実務士		

授業の概要	介護総合演習は、実習と組み合わせた学習とする。介護実習前の介護技術の確認や施設等の理解及びオリエンテーション、実習後の反省会等を通じて、介護福祉士に必要な知識や技術、介護過程の展開能力等を学内での学びと実習での学びとを総合することで深めることができるように授業を進める。また、学生個人の学習到達状況に応じた学習の機会であるように工夫する。前期に1回～9回、後期10回～15回の授業内容を実施する。
授業の到達目標	1. 介護実習の目的を理解し、実習に必要な事前準備ができる。 2. 実習後の振り返りを通じて、実習での学びをまとめることができる。 3. 様々な生活の場における個別ケアを理解できる。

授業計画		担当者
第1回	介護総合演習の目的、実習の意義・目的・目標について	浜崎
第2回	介護実習の種類、実習前後の学びの活かし方	浜崎
第3回	事前学習の内容と方法、実習記録について	浜崎
第4回	実習の心得、実習期間終了時の注意点、事前訪問について	谷川
第5回	実習先の特徴と学ぶポイント(訪問介護・通所介護・介護老人福祉施設)	松下
第6回	家族・近隣・地域に目を向ける介護実習	松下
第7回	実習先の特徴と学ぶポイント(介護老人保健施設・グループホーム・ケアハウス)	宮園
第8回	地域生活を支援するとは、実習の心得	宮園
第9回	実習反省会	谷川・浜崎
第10回	働くことの意識、心構え	有馬
第11回	社会に求められる資質及び能力	有馬
第12回	第一印象について	有馬
第13回	挨拶、話し方、言葉づかい、敬語について	有馬
第14回	介護実習Ⅰ－②における情報交換	谷川
第15回	介護実習の目標について(介護実習Ⅱ)	谷川

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○			
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	テキストを用いた予習、これまでの事前訪問記録の確認をする			学習合計時間(h)	15時間
事後学習	実習で学んだことを自身でまとめ、反省会に向けた準備をする テキストやこれまでの配布資料を基に復習をする			学習合計時間(h)	15時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する。
オフィスアワー	谷川:第1・第3水曜日 14:40~17:55 研究室(西館316号室) 浜崎:金曜日 13:00~16:20 研究室(西館314号室) 有馬(恵):火曜日 16:20~17:30 研究室(西館413号室) 松下・宮園(非常勤):金曜日 17:55~18:15 講義室
テキスト	『最新・介護福祉士養成講座 介護総合演習・介護実習』 介護福祉士養成講座編集委員会編集 中央法規 2019年 2200円 (ISBN978-4-8058-5770-0)
参考文献等	・介護実習要項 ・『新生活教養—社会人としての基本マナー』 近喰晴子他 2015年
成績評価基準	・介護実習の目的を理解し、実習に必要な事前準備の必要性が理解できること。 ・実習後の振り返りにより、実習での学びをまとめることができること。
成績評価の方法	谷川・浜崎:期末試験(40%) 有馬・松下・宮園:講義内容に関連したレポート(各20%ずつとし、合計60%)
GPA基準	
備考	

科目名	介護実習 I	科目ナンバー	S12202
担当者	谷川 知士、浜崎 眞美、福永 宏子		
授業形式	実習	関連するDPの番号	②
配当年次	1	科目群	専門科目[介護]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	3	担当形態	複数
免許・資格情報	必修:介護福祉士 選択必修:介護保険実務士		

授業の概要	個々の生活リズムや個性を理解するという観点から、様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について学ばせる。介護実習 I では、鹿児島県内の居宅系事業所(通所介護事業所・通所リハビリテーション・訪問介護事業所・グループホーム等)にて実習し、介護実習 I - ①では1週間、介護実習 I - ②は2週間をかけて学んで欲しい。
授業の到達目標	1. 多様な事業所の概要や役割を理解し、利用者の生活を知る 2. 生活支援技術を用いて介護を行い、利用者特性を把握できる 3. 個々の生活リズムや個性に応じた生活支援の在り方を知る

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション1(自己紹介、施設の概要について)	実習指導者
第2回	オリエンテーション2(一日の流れ・週間予定・年間予定について)	実習指導者
第3回	オリエンテーション3(感染予防に関する事、その他について)	実習指導者
第4回	オリエンテーション4(オリエンテーションの情報を記録する)	実習指導者
第5回	日課表沿った業務の進め方・内容を把握する	実習指導者
第6回	利用者の特性を知る	実習指導者
第7回	指導者の助言のもと生活支援技術を用いながらの実習	実習指導者
第8回	実習記録1(実習目標及び計画を記録する)	実習指導者
第9回	実習記録2(一日の目標と計画を指導者に報告し助言を受ける)	実習指導者
第10回	実習記録3(実習内容及び評価・考察についてまとめ記録する)	実習指導者
第11回	観察して情報を得る1(受け持ちの利用者について生活リズムを観察する)	実習指導者
第12回	観察して情報を得る2(受け持ちの利用者の個別ケアについて観察)	実習指導者
第13回	観察して情報を得る3(観察で得た情報を記録する)	実習指導者
第14回	観察して情報を得る(多職種協働・関係機関との連携の在り方について)	実習指導者
第15回	総括(実習の振り返り)	実習指導者

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○			○	

担当教員の実務経験と授業の関連	介護や看護等の実務経験を活かし、実習の受け方など具体的に教授する。		
事前学習	施設でのオリエンテーションを受ける前に、施設の概要を調査し、用紙にまとめる	学習合計時間(h)	45時間
事後学習	実習後に全員で反省会を開催し、意見交換で出てきた内容を代表者がまとめて各自に配布する	学習合計時間(h)	45時間

課題に対するフィードバックの方法	実習で発見した課題については、次回の実習に行かせるよう全体の反省会時にフィードバックする。
質問・相談方法	実習期間中は施設職員に尋ね、教員の巡回指導時にも質問できるようにしている。
オフィスアワー	谷川:第1・第3水曜日 14:40～17:55 研究室(西館316号室) 浜崎:月、水～金曜日 8:30～17:00 研究室(西館315号室) ※火曜は除く
テキスト	「最新・介護福祉士養成講座」10 介護総合演習・介護実習 介護福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版 2019年 2,200円(税別) ISBN 978-4-8058-5770-0
参考文献等	特になし
成績評価基準	到達目標に掲げた項目に達すること。
成績評価の方法	実習中の提出物や実習態度及び施設からの実習評価(100%)により総合的に評価する。
GPA基準	
備考	COC関連科目

科目名	介護実習Ⅱ	科目ナンバー	S12203
担当者	谷川 知士、浜崎 眞美、福永 宏子		
授業形式	実習	関連するDPの番号	②
配当年次	1	科目群	専門科目〔介護〕
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	複数
免許・資格情報	必修:介護福祉士		

授業の概要	個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を統合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。介護実習Ⅱでは、鹿児島県内の入所系施設(介護老人福祉施設・介護老人保健施設・障害者支援施設のいずれか)にて実習し、2週間をかけて学ぶ。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 施設の概要や役割を理解し、利用者の生活・障害像を理解できる 2. 生活支援技術を用いて介護を行い、個別支援の在り方を知る 3. 利用者の特性と現状を把握することができる

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション1(自己紹介、施設の概要について)	実習指導者
第2回	オリエンテーション2(一日の流れ・週間予定・年間予定について)	実習指導者
第3回	オリエンテーション3(感染予防に関すること、その他について)	実習指導者
第4回	オリエンテーション4(オリエンテーションの情報を記録する)	実習指導者
第5回	日課表沿った業務の進め方・内容を把握する	実習指導者
第6回	利用者の特性を知る(受け持ちの利用者について特性と現在の情報を把握する)	実習指導者
第7回	利用者ごとの介護計画を作成する(情報の解釈・関連づけ・統合化及び課題の明確化)	実習指導者
第8回	指導者の助言のもと生活支援技術を用いながらの実習する	実習指導者
第9回	実習記録1(実習目標及び計画を記録する)	実習指導者
第10回	実習記録2(一日の目標と計画を指導者に報告し助言を受ける)	実習指導者
第11回	実習記録3(実習内容及び評価・考察についてまとめ記録する)	実習指導者
第12回	実習記録4(施設の住設備機器や福祉用具の名称と使用方法についてまとめ記録する)	実習指導者
第13回	利用者の特性を知る「フェイスシート」	実習指導者
第14回	利用者の状況を理解する「アセスメント表(1)(2)」	実習指導者
第15回	総括(実習の振り返り)	実習指導者

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○			○	

担当教員の実務経験と授業の関連	介護や看護等の実務経験を活かし、具体的な実習方法等を教授する。		
事前学習	施設でのオリエンテーションを受ける前に、施設の概要を調査し、用紙にまとめる	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	実習後に全員で反省会を開催し、意見交換で出てきた内容を代表者がまとめて各自に配布する	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	実習で発見した課題については、次回の実習に行かせるよう全体の反省会時にフィードバックする。
質問・相談方法	実習期間中は施設職員に尋ね、教員が実習訪問したときにも質問できるようにしている。
オフィスアワー	谷川:第1・第3水曜日 14:40～17:55 研究室(西館316号室) 浜崎:月、水～金曜日 8:30～17:00 研究室(西館315号室) ※火曜は除く 福永:木曜日 10:20～12:55 研究室(西館315号室)
テキスト	「最新・介護福祉士養成講座」10 介護総合演習・介護実習 介護福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版 2019年 2,200円(税別) ISBN 978-4-8058-57770-0
参考文献等	特になし
成績評価基準	到達目標に掲げた項目に達すること。
成績評価の方法	実習中の提出物や実習態度及び施設からの実習評価(100%)により総合的に評価する。
GPA基準	
備考	COC関連科目

科目名	発達と老化の理解	科目ナンバー	S11110
担当者	宮里 新之介		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目[こころとからだのしくみ]
開講期	前期	卒業の選択・必修	必修
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:介護福祉士・介護保険実務士 選択必修(▲4単位):ピアヘルパー		

授業の概要	この科目は、被介護者に対するより良い介護を提供するための基礎的知識として、「発達」及び「老化」について講義をする。老化による心理や身体機能の変化といった基本的な知識を説明し、人が「老化」に適応していくことを如何に支援していくかということについて概説する。
授業の到達目標	1. 発達という概念を理解し、他者に説明できる 2. 老化による心理・身体機能の変化について理解し、他者に説明できる 3. 高齢期の発達を支える援助について考えることができる

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション／発達とは何か	宮里
第2回	成長・発達の考え方	宮里
第3回	成長・発達の原則・法則	宮里
第4回	成長・発達に影響する要因	宮里
第5回	発達理論	宮里
第6回	発達段階と発達課題	宮里
第7回	身体的機能の成長と発達	宮里
第8回	心理的機能の発達	宮里
第9回	社会的機能の発達	宮里
第10回	老年期の定義	宮里
第11回	老化とは	宮里
第12回	老年期の発達課題	宮里
第13回	老年期をめぐる今日的課題	宮里
第14回	高齢者とのコミュニケーション	宮里
第15回	総括	宮里

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○			
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	意味のわからない用語は辞書等で調べておく			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	前授業の理解度を測るためミニテストを実施する場合があるので、復習を行って授業に臨む			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合(定期試験を含む)求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー、また毎授業で実施する質問・感想記入シートへの回答で対応する。
オフィスアワー	金曜日 10:35~12:05 研究室(本館312号室)
テキスト	『発達と老化の理解』 介護福祉士養成講座編集委員会(編集) 中央法規 2019年 2200円(税別) (ISBN978-4-8058-5772-4)
参考文献等	特になし
成績評価基準	発達という概念及び老化による心理・身体機能の変化について理解し、高齢期の発達を支える援助について考えることができること。
成績評価の方法	定期試験(80%)、講義時の受講態度及びミニテスト(20%)で総合的に判定する。
GPA基準	
備考	単位互換[KRICE]提供科目、他学科開放科目 ※介護職員初任者研修読み替え可能科目

科目名	高齢者の介護	科目ナンバー	S11206
担当者	田中 士朗		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目[こころとからだのしくみ]
開講期	後期	卒業の選択・必修	必修
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:介護福祉士		

授業の概要	<p>老化を理解し、老化に伴う心理的変化や、身体機能の変化及びその特徴に関する基礎的知識を習得する。老化に伴う心理的、身体的変化と日常生活への影響を踏まえたうえで、残存機能を活用した介護と、利用者の心身の状況に応じたコミュニケーション技術も深めていく。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老化に伴う身体的変化と特徴を理解し、実践に備える 2. 老化に伴う心理的変化と、日常生活への影響を理解する 3. 高齢者の多い疾病と、介護の留意点を習得する

授業計画		担当者
第1回	老化に伴う心身の変化の特徴	田中
第2回	視覚障害に応じた介護	田中
第3回	聴覚・言語障害に応じた介護	田中
第4回	内部障害(心臓機能障害)に応じた介護	田中
第5回	内部障害(呼吸器障害)に応じた介護	田中
第6回	内部障害(腎臓・膀胱機能障害)に応じた介護	田中
第7回	免疫機能と感覚機能	田中
第8回	咀嚼機能、嚥下機能の変化	田中
第9回	運動中枢神経、骨・関節の変化	田中
第10回	高次脳機能障害に応じた介護	田中
第11回	心の問題と精神障害	田中
第12回	老化に伴う知的機能の変化。知的障害に応じた介護	田中
第13回	生活習慣病	田中
第14回	高齢者に多い疾病	田中
第15回	認知症の人への介護	田中

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○		○	

担当教員の実務経験と授業の関連	特別養護老人ホームでの実務経験を活かして、高齢者の介護について教授する。			
-----------------	--------------------------------------	--	--	--

事前学習	授業の予習(不明な点について、質問する)	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	授業の復習(授業中のポイントの書き取り)	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーに対応する。
オフィスアワー	金曜日 講義終了後 12:05～12:15 講義室(西館203号室)
テキスト	『発達と老化の理解』 介護福祉士養成講座編集委員会編集 中央法規出版 2019年 2,200円 (ISBN-13: 978-4805857724) 『生活支援技術Ⅲ』 介護福祉士養成講座編集委員会編集 中央法規出版 2019年 2,200円 (ISBN-13: 978-4805857687)
参考文献等	『介護福祉用語辞典』 中央法規出版 2017年 2,600円 (ISBN-13: 978-4805850947)
成績評価基準	老化を理解し、老化に伴う心理的变化や身体機能の変化及びその特徴に関する基礎的知識を習得できること
成績評価の方法	定期試験※60分(90%) レポート提出(10%)
GPA基準	
備考	※介護職員初任者研修読み替え可能科目

科目名	認知症の理解	科目ナンバー	S11208
担当者	林田 貴久		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目[こころとからだのしくみ]
開講期	後期	卒業の選択・必修	必修
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:介護福祉士		

授業の概要	認知症の人に対して適切なケアを行うにはその医学的知識、介護知識が必要である。本講では介護福祉士の視点から認知症の医学的知識及び認知症の人とその家族の介護支援のあり方や地域での認知症支援システムについても解説する。
授業の到達目標	1. 認知症の医学的知識についても理解を深めることができる 2. 認知症介護を理解し家族支援のあり方を考えることができる

授業計画		担当者
第1回	認知症ケアの歴史	林田
第2回	認知症の心理症状	林田
第3回	認知症高齢者専門病院の紹介	林田
第4回	脳のしくみと老化	林田
第5回	認知症の原因と検査・診断	林田
第6回	アルツハイマー型認知症	林田
第7回	脳血管性認知症	林田
第8回	レビー小体型認知症	林田
第9回	前頭側頭型認知症	林田
第10回	若年性認知症・MCI	林田
第11回	治療薬アリセプト	林田
第12回	認知症の予防	林田
第13回	認知症の人の理解	林田
第14回	環境の力	林田
第15回	認知症の人に対する介護	林田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○			
担当教員の実務経験と授業の関連	実際に介護の事業所を複数統括している経験を活かし、認知症の人の視点に立った理解について教授する。				
事前学習	授業の予習(不明な点について、質問する)			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	授業の復習(授業中のポイントの書き取り)			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーに対応する。
nishikann	火曜日 講義終了後 12:05~12:15 講義室(西館203号室)
テキスト	『「認知症の理解」新介護福祉士養成講座』中央法規 2019年 2,200円(税抜き) (ISBN:978-4-8058-5309-2)
参考文献等	特になし
成績評価基準	認知症について理解し、その介護や家庭支援を理解できること
成績評価の方法	定期試験(90%) 受講態度(10%)
GPA基準	
備考	

科目名	障害の理解 I	科目ナンバー	S11209
担当者	福留 弘		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目 [こころとからだのしくみ]
開講期	後期	卒業の選択・必修	必修
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:介護福祉士		

授業の概要	障害者の思いや生活実態を踏まえながら、障害の概念及び障害者の福祉の基本理念について解説する。また、身体面に障害のある人の医学的・心理的特徴と生活支援(生活の理解・介護上の留意点)について解説する。
授業の到達目標	1. 障害者支援に求められる基本的な考え方・概念を説明することができる。 2. 身体面に障害のある人の特徴を理解し、適切な生活支援の在り方を考えることができる。

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション(科目の意義と目的・ねらい)	福留
第2回	障害の概念と障害者の実態	福留
第3回	障害者福祉の基本理念(自立と自律・ノーマライゼーション・リハビリテーション・インクルージョン)	福留
第4回	視覚障害のある人の生活:視覚障害者の特徴	福留
第5回	視覚障害者のある人の生活:視覚障害者の生活支援	福留
第6回	聴覚・言語障害のある人の生活:聴覚・言語障害の特徴	福留
第7回	聴覚・言語障害のある人の生活:聴覚・言語障害者の生活支援	福留
第8回	肢体不自由(運動機能障害)のある人の生活:肢体不自由(運動機能障害)の特徴	福留
第9回	肢体不自由(運動機能障害)のある人の生活:肢体不自由者(運動機能障害)の生活支援	福留
第10回	身体面に障害のある人の生活:手引き歩行の介護(演習)	福留
第11回	内部障害のある人の生活:心臓機能障害の特徴と生活支援	福留
第12回	内部障害のある人の生活:呼吸機能障害の特徴と生活支援	福留
第13回	内部障害のある人の生活:腎臓機能障害、膀胱・直腸機能障害の特徴と生活支援	福留
第14回	内部障害のある人の生活:HIV・免疫機能障害、肝臓機能障害の特徴と生活支援	福留
第15回	授業のまとめ:身体面に障害のある人の生活支援のあり方について考える	福留

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○		○	

担当教員の実務経験と授業の関連			
-----------------	--	--	--

事前学習	授業の予習及び復習(教科書における該当ページの読み込みと整理)	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	講義で学んだ障害について、メディア等を用いて情報整理する	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	講義で用いた資料、教科書の該当ページの読み込み
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に口頭・質問票(書式なし)により対応
オフィスアワー	月曜日 10:20～10:30 講義室(本館307号室)
テキスト	『障害の理解 新介護福祉士養成講座』中央法規 2015年 2200円 (ISBN:978-4-8058-5115-9) 『生活支援技術Ⅲ 新介護福祉士養成講座』中央法規 2014年 2200円 (ISBN:978-4-8058-3942-3)
参考文献等	特になし
成績評価基準	定期試験において、到達目標に掲げた項目について6割以上理解できたと確認できた場合を合格とする。
成績評価の方法	定期試験(80%) 受講態度(20%)
GPA基準	
備考	※介護職員初任者研修読み替え可能科目

科目名	こころとからだのしくみⅠ(医学一般)	科目ナンバー	S11207
担当者	河野 史代、中野 静雄、竹中 正巳		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目[こころとからだのしくみ]
開講期	後期	卒業の選択・必修	必修
単位数	2	担当形態	オムニバス
免許・資格情報	必修:介護福祉士 選択必修:介護保険実務士・医療秘書実務士		

授業の概要	こころとからだのしくみや疾患について学び、サービス提供上の安全や尊厳の保持について明らかにする。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的なからだのしくみを理解できる 2. 高齢者のこころとからだの状態を理解できる 3. サービス提供上重要な疾患についての知識を習得することができる

授業計画		担当者
第1回	からだのしくみの理解(恒常性 細胞 遺伝 など)	河野
第2回	からだのしくみの理解(脳神経系 感覚器 運動器など)	河野
第3回	からだのしくみの理解(呼吸器 循環器 など)	河野
第4回	からだのしくみの理解(消化器 泌尿器 生殖器など)	中野
第5回	からだのしくみの理解(内分泌器など)	中野
第6回	生活習慣病について学ぶ	河野
第7回	脳血管疾患について学ぶ	河野
第8回	心疾患について学ぶ	河野
第9回	悪性新生物について学ぶ	河野
第10回	消化器、泌尿器、内分泌疾患について学ぶ	中野
第11回	呼吸器疾患について学ぶ	河野
第12回	口腔衛生について学ぶ	竹中
第13回	歯科、口腔疾患について学ぶ	竹中
第14回	整形外科疾患について学ぶ	河野
第15回	高齢者の健康について学ぶ	河野

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○			
担当教員の実務経験と授業の関連	臨床医としての実務経験を活かして、体のしくみや疾患治療の実際について教授する。(河野・中野)				
事前学習	テキストによる予習(タイトルなどから、関連のある介護場面について考える)			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	テキスト、配布資料による復習(重要ポイントを再確認し、曖昧な点について調べる)			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	試験結果について個別に指導。クイズ形式で理解度を確認する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	竹中:木曜日 12:10～12:50 (本館502号室) 河野:火曜日 16:10～16:20 (西館203号室) 中野:木曜日 17:55～18:05 (西館203号室)
テキスト	『新・介護福祉士養成講座ころとからだのしくみ』 介護福祉士養成講座編集委員会編集 中央法規出版 2019年 2,600円 (ISBN:9784805839430) 『新・介護福祉士養成講座〈12〉発達と老化の理解』 介護福祉士養成講座編集委員会編集 中央法規出版 201年 2,200円 (ISBN:9784805851142)
参考文献等	特になし
成績評価基準	ころとからだのしくみや疾患、サービス提供上の安全や尊厳の保持について理解できる。
成績評価の方法	定期試験(100%)
GPA基準	
備考	※介護職員初任者研修読み替え可能科目

科目名	介護技術の基礎	科目ナンバー	S11109
担当者	浜崎 真美		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目[こころとからだのしくみ]
開講期	前期	卒業の選択・必修	必修
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:介護福祉士		

授業の概要	介護技術の根拠となる人体の構造や機能、介護サービスの提供における安全への留意点や心身の状況に応じた介護について理解できるように講義する。
授業の到達目標	1. 介護技術の根拠となるこころとからだのしくみについて理解できる 2. 心身の機能低下や障害が生活に及ぼす影響に関する基礎的なことが理解できる

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション／身じたくの意義・目的とからだのしくみ	浜崎
第2回	身じたくに関連した口腔の清潔のしくみ	浜崎
第3回	心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響と変化への気づき	浜崎
第4回	移動の意義・目的と移動に関するからだのしくみ	浜崎
第5回	移動のしくみ(立ち上がりと歩行、車いす移動)	浜崎
第6回	心身の機能低下が移動に及ぼす影響と変化への気づき	浜崎
第7回	食事のしくみ(意義・目的、心身のメカニズム)	浜崎
第8回	心身の機能低下が食事に及ぼす影響と変化への気づき	浜崎
第9回	入浴・清潔保持のしくみ(意義・目的、心身のメカニズム)	浜崎
第10回	心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響と変化への気づき	浜崎
第11回	排泄のしくみ(意義・目的、心身のメカニズム)	浜崎
第12回	心身の機能低下が排泄に及ぼす影響と変化への気づき	浜崎
第13回	睡眠に関連したこころとからだのしくみ	浜崎
第14回	死を理解する、こころの理解	浜崎
第15回	終末期から死までの特徴、医療職との連携について	浜崎

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○			
担当教員の実務経験と授業の関連	看護師としての実務経験に基づき、実践例を交えながら授業をおこなう。人体の構造や疾患に関連する障害の理解については、要点をおさえながら進めるとともに、加齢や疾患による障害が日常生活へどのように影響するかもイメージできるように工夫している。観察や支援方法なども実践例を示し、介護の実践に活かせるよう教授する。				
事前学習	・講義予定範囲の内容について、テキストを中心に予習する			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	授業内容について、不明な点は調べ、必要に応じて質問をする			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	水曜日 8:30～12:30 研究室(西館314号室)
テキスト	『最新・介護福祉士養成講座 ころとからだのしくみ』 介護福祉士養成講座編集委員会編集 中央法規 2019年 2600円 (ISBN978-4-8058-5771-7) 『七訂 介護福祉用語辞典』 中央法規出版編集部編 中央法規 2015年 2600円 (ISBN978-4-8058-5094-7)
参考文献等	『ころとからだのしくみ』 メヂカルフレンド社 2009年
成績評価基準	介護技術の根拠となるころとからだのしくみ、支援の際の安全への留意点を理解すること。
成績評価の方法	レポート課題(20%)、期末試験(80%)で総合的に判定する。
GPA基準	
備考	

科目名	医療的ケア	科目ナンバー	S11111
担当者	池田 加奈子		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目〔医療的ケア〕
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:介護福祉士		

授業の概要	医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得できるように講義する。具体的には、医療的ケアの位置づけ、医療行為とは何かを理解し、医療行為を行うために知っておくべき医学上の倫理、基礎知識や技術などについて学習する。その後、実際の医療的ケアについて学習し、経管栄養と喀痰吸引について理解を深めることができるように進めていく。また、医療の現場では利用者あるいは患者の状態が急変することが起こり得るため、救急蘇生についても学習する。さらに、チーム医療と介護職員との連携についても学習する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医の倫理について説明ができる 2. 保健医療システムと介護職との連携について説明ができる 3. 医療的ケアの安全な実施について説明ができる

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション／医療的ケアの位置づけ	池田
第2回	保健医療に関する制度、医行為に関連する法律	池田
第3回	チーム医療と介護職員との連携、医療の倫理	池田
第4回	個人の尊厳と自立、利用者や家族の気持ちへの理解	池田
第5回	感染予防、職員の感染予防、療養環境の清潔、消毒法	池田
第6回	滅菌と消毒について	池田
第7回	喀痰吸引や経管栄養の安全な実施1 喀痰吸引について	池田
第8回	喀痰吸引や経管栄養の安全な実施2 経管栄養について	池田
第9回	喀痰吸引や経管栄養の安全な実施3 まとめ	池田
第10回	救急蘇生法について	池田
第11回	心肺蘇生法の実習	池田
第12回	身体・精神の健康(平常状態について)	池田
第13回	健康状態を知る① 健康状態について	池田
第14回	健康状態を知る② バイタルサインについて	池田
第15回	急変状態について	池田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○		○	
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で学習した内容について、テキストや関連資料で復習をする。 ・次回の授業範囲をテキストを中心に予習する 			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で学習した内容について、テキストや関連資料で復習をする。 ・次回の授業範囲をテキストを中心に予習する 			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後で対応する。
オフィスアワー	木曜日 14:25～14:40 講義室(本館309号室)
テキスト	『最新・介護福祉士養成講座 医療的ケア』介護福祉士養成講座編集委員会編集 中央法規 2019年 2600円 (ISBN:978-4-8058-5775-5)
参考文献等	『介護職員のための今すぐ知りたい医療行為実技ガイド』服部万里子著 ひかりのくに 2090円 (ISBN10:4564430580)
成績評価基準	医療的ケアに関する背景を理解し、安全な実施につながる基本的なことを理解すること。
成績評価の方法	途中の小テスト(20%)、期末試験(80%)で総合的に判定する。
GPA基準	
備考	医療的ケアに関する科目は、基本的に、「医療的ケア」「経管栄養」「喀痰吸引」を履修し単位を修得した上でなければ、演習科目である「経管栄養演習」及び「喀痰吸引演習」を履修することはできない。

科目名	経管栄養	科目ナンバー	S11210
担当者	浜崎 眞美		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目〔医療的ケア〕
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:介護福祉士		

授業の概要	医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得できるように講義する。この科目では医療的ケアの中の経管栄養を中心とし、消化器系の理解や経管栄養のしくみ、必要な援助方法、報告・記録の必要性等を説明できることを目指し進める。医療的ケアに関する科目は、「医療的ケア」「経管栄養」「喀痰吸引」を履修し単位を修得することで、演習科目である「経管栄養演習」及び「喀痰吸引演習」を履修することを基本とし進めていく。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 消化器系の役割・機能について説明ができる 2. 経管栄養のしくみ、注入内容、安全な実施に関する説明ができる 3. 説明と同意の必要性、報告・記録の重要性について説明ができる

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション／消化器系のしくみとはたらき	浜崎
第2回	消化と吸収とよくある消化器の症状	浜崎
第3回	経管栄養とは何か	浜崎
第4回	注入する内容に関する知識	浜崎
第5回	経管栄養実施上の留意点	浜崎
第6回	子供の経管栄養について	浜崎
第7回	経管栄養に関係する感染と予防、手洗いの実施	浜崎
第8回	経管栄養を受ける際の説明と同意、危険・安全管理について	浜崎
第9回	急変・事故発生時の対応と事前対策	浜崎
第10回	器具器材のしくみ、清潔保持、物品の準備や設備について	浜崎
第11回	利用者の状態観察と留意点、実施前の利用者の準備	浜崎
第12回	実施手順と留意点、実施中の身体変化の確認及び報告	浜崎
第13回	実施後の手順と留意点、変化の確認及び報告、片付け	浜崎
第14回	経管栄養に必要なケア	浜崎
第15回	報告及び記録について	浜崎

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○			
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	各回の授業内容について、次回までの間に復習し、不明な点は辞書等で調べる			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	授業中に実施する小テストについては、分かるまで辞書等で調べる			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、求めに応じて個別に対応する
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する
オフィスアワー	木曜日 12:10～14:30 研究室(西館314号室)
テキスト	『最新・介護福祉士養成講座 医療的ケア』 介護福祉士養成講座編集委員会編集 中央法規 2019年 2600円 (ISBN:978-4-8058-5775-5)
参考文献等	『改定 介護職員等による喀痰吸引・経管栄養研修テキスト』 一般社団法人全国訪問看護事業協会編集 中央法規 2017年 2000円 (ISBN:978-4-8058-5250-7)
成績評価基準	経管栄養のしくみが分かり、安全な実施について理解すること。
成績評価の方法	途中の小テスト(20%)と期末試験(80%)で総合的に判定する。
GPA基準	
備考	医療的ケアに関する科目は、基本的に、「医療的ケア」「経管栄養」「喀痰吸引」を履修し単位を修得した上でなれば、演習科目である「経管栄養演習」及び「喀痰吸引演習」を履修することはできない。

科目名	解剖生理学	科目ナンバー	S11211
担当者	竹中 正巳		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目[医療秘書実務士]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	選択:介護福祉士 必修:医療秘書実務士		

授業の概要	講義は器官相互の位置関係も重視し、人体構造が立体的にとらえられるようにする。疾病と関連させて人体の構造と機能を解説することにより、日常生活に役立つ内容にする。また、全身の諸組織・諸臓器の機能とその役割についても十分に解説する。
授業の到達目標	1. 人体構造の仕組みと働きを理解する。 2. 器官相互の有機的関連を考え、その根底にある人体の原理を知る。 3. 人体の構造と機能を多面的にとらえられるようになる。

授業計画		担当者
第1回	細胞・組織・外皮・中枢神経・末梢神経の構造と機能	竹中
第2回	消化吸収(消化管の構造と機能)	竹中
第3回	消化吸収(栄養素の消化吸収のしくみ)	竹中
第4回	消化吸収(膵臓、肝臓、胆嚢の構造と機能)	竹中
第5回	呼吸器の構造と機能	竹中
第6回	心臓・血管(心臓、動脈、静脈の形態と機能)	竹中
第7回	血管・リンパ管(血液の組成と機能、血圧とその調節、リンパ管の構造と機能)	竹中
第8回	泌尿器(腎臓の構造と機能、尿、排尿路の構造と機能)	竹中
第9回	自律神経と内分泌(視床下部、下垂体、甲状腺、上皮小体、膵臓の各ホルモンの作用と分泌調節)	竹中
第10回	内分泌(副腎、性腺の各ホルモンの作用と分泌調節)	竹中
第11回	骨格・関節の構造と機能	竹中
第12回	筋肉の構造と機能	竹中
第13回	感覚器(眼・耳・舌・鼻の構造と機能)	竹中
第14回	生殖器(男女生殖器、精巣・卵巣の構造と機能)、人体の発生(受精と胎児の発生)	竹中
第15回	ヒトの成長と老化	竹中

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○			
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	テキストをよく読んで講義に臨む			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	講義後はテキストの各章末にあるゼミナール問題を解いて、理解度を確かめる			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、受講者の求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	木曜日 12:10～12:50 研究室(本館502号室)
テキスト	「系統看護学講座1 解剖生理学」坂井建雄・岡田隆夫 医学書院 2018年 3,800円(税抜き)(ISBN 978-4-260-03171-4) 「看護師国家試験 解剖生理学クリアブック-第2版-」日本生理学会教育委員会編 医学書院 2018年 2,000円(税抜き)(ISBN 978-4-260-02442-6)
参考文献等	「カラー人体解剖学-構造と機能:マクロからミクロまで」井上貴央監訳 西村書店 2003年 7,800円(税抜き)(ISBN 978-4-890-13305-5)
成績評価基準	到達目標を踏まえて、解剖生理学の概要が理解できたと確認できた場合、合格とする。
成績評価の方法	毎授業ごとの小テストの結果を合算(100%)して評価する。
GPA基準	
備考	

科目名	薬理の基礎	科目ナンバー	S11212
担当者	栗原 崇		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目[医療秘書実務士]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	選択:介護福祉士 必修:医療秘書実務士		

授業の概要	薬理学とは、生体と外界の物質(薬物および毒物)の相互作用の結果、生じる現象(薬理作用)を研究する学問体系です。医療に携わる人は、基本的な医薬品に関する知識を持っていることが求められています。薬理の基礎では、薬理作用を説明するための基礎的知識の習得に重点を置き、身近に接する薬物・毒物に関する薬理作用を解説します。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 薬理作用の一般的概念を理解し、説明できる 2. 薬物動態、薬物相互利用の基本的概念を理解し、説明できる 3. 薬害・乱用薬物について学び、説明できる。 4. 身近に接する代表的な薬について学び、その薬理作用・有害作用を説明できる

授業計画		担当者
第1回	薬とは何か?(薬の名前について)	栗原
第2回	薬物治療とは?(薬の作用メカニズムについて)	栗原
第3回	薬のたどる道、薬のモニタリングについて(高齢者と薬)	栗原
第4回	薬と薬の相互作用(薬の効きにくい人、効きすぎる人)	栗原
第5回	薬の有害反応「クスリはリスク」	栗原
第6回	薬害(1) サリドマイド、SMON、ソリブジン	栗原
第7回	薬害(2) 薬害エイズ、薬害C型肝炎、HPVワクチン	栗原
第8回	薬の乱用(1) 覚せい剤	栗原
第9回	薬の乱用(2) 麻薬	栗原
第10回	薬の乱用(3) 大麻、幻覚薬、危険ドラッグ	栗原
第11回	妊娠・授乳と薬	栗原
第12回	女性に多い病気(1) ホルモン関連薬	栗原
第13回	女性に多い病気(2) 膠原病治療薬	栗原
第14回	認知症	栗原
第15回	薬の開発・薬の選択・薬と上手につきあう	栗原

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○				
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	毎回担当者を指名し、重要な薬物を調べる(パワーポイントスライド5~6枚にまとめる)課題を出す、各自も事前に調べておく			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	教科書・副読本(第1回講義で紹介する)を通読・学習する			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	事前学習課題に関する解説は、担当者発表後に行います。
質問・相談方法	平日は他大学での勤務のため、e-mail でも質問を受け付けます。
オフィスアワー	木曜日 10:20～10:35 非常勤講師室(本館104号)/講義室
テキスト	「患者さんと医療系学生のための臨床薬理学入門」笹栗俊之(著)九州大学出版会 2016年 (ISBN-10: 4798501867、ISBN-13: 978-4798501864) 定価2,000円(税別)
参考文献等	・「楽しい薬理学-レンデビティ-」岡部 進 著 南山堂 2001年 (ISBN 4-525-72031-X)3000円 ・「くすりの発明・発見史」岡部 進 著 南山堂 2007年 (ISBN978-4-525-72131-2) 2800 円 ・「シキル博士の変身薬」岡部 進 金芳堂 2010年 (ISBN978-4-7653-1421-3) 2000 円 ・「世界史を変えた薬」佐藤健太郎著 講談社現代新書 2015年 (ISBN978-4-06-288338-2)740 円 ・「医薬品とノーベル賞 がん治療薬は受賞できるのか？」佐藤健太郎 著 角川新書 2016年 (ISBN978-4-04-731647-8) 800 円 ・「新薬に挑んだ日本人科学者たち-世界の患者を救った創薬の物語」塚崎朝子著 講談社ブルーバックス 2013年 (ISBN978-4-06-257831-8) 900 円 ・「世界を救った日本の薬-画期的新薬はいかにして生まれたのか？」塚崎朝子著 講談社ブルーバックス 2018年 (ISBN978-4-06-502050-0) 1080 円 ・「薬の散歩道 薬理学入門」仁木一郎 著 メディカルサイエンス・インターナショナル 2010年 (ISBN978-4-89592-646-1) 2200 円
成績評価基準	到達目標の4点について理解し説明でき、評価において100点満点中、60点以上で合格とする。
成績評価の方法	定期試験(70%)、発表形式の宿題(30%)で総合的に評価する。
GPA基準	
備考	

科目名	秘書実務	科目ナンバー	S11112
担当者	有馬 恵子		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目[医療秘書実務士]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	選択:介護福祉士 必修:医療秘書実務士		

授業の概要	社会人に求められる基本的な実務能力を身につけられるよう、社会人としての基本心得、職場環境の整備、接遇などの対人コミュニケーションなどについて概説する。また実社会に通用する実践力を養うことを目的に、教材による演習や事務機器等を使用した演習、実習を行う。
授業の到達目標	1. 秘書業務に関する基礎知識と専門知識について理解する 2. 対人コミュニケーションの技術を身につける 3. 臨機応変に対応できる実務能力を身につける

授業計画		担当者
第1回	働くことの意識、心構え	有馬
第2回	秘書に求められる資質、能力	有馬
第3回	第一印象の大切さ(実技を含む)	有馬
第4回	挨拶、話し方、言葉づかい	有馬
第5回	敬語について(ディスカッション)	有馬
第6回	仕事の進め方	有馬
第7回	総務業務(環境整備、スケジュールリング)	有馬
第8回	接遇(訪問)	有馬
第9回	接遇(来客対応、受付業務)	有馬
第10回	接遇(電話対応)	有馬
第11回	文書(公的手紙文)	有馬
第12回	文書(ビジネス文書)	有馬
第13回	情報(収集、整理、活用)	有馬
第14回	慶弔のマナー	有馬
第15回	国際マナー	有馬

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○			○	

担当教員の実務経験と授業の関連	
-----------------	--

事前学習	授業内容に関する資料に目を通しておく	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	授業中に指示された課題に取り組む	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合は、その後の授業の中で解説し、質問等に対応する。
質問・相談方法	授業後やオフィスアワーに対応する。
オフィスアワー	火曜日 16:20～17:00 研究室(西館413号室)
テキスト	特になし
参考文献等	『新しい時代の秘書ビジネス実務』 全国大学実務教育協会編著 紀伊国屋書店 2009 1600円 (ISBN: 978-4-314-10182-0)
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・秘書業務について理解を深め、実務能力を身につけること。 ・実務能力については、秘書技能検定2級程度の理解を合格基準とする。
成績評価の方法	受講態度(40%)演習テスト(30%)課題レポート(30%)
GPA基準	
備考	

科目名	医療事務総論(医療秘書実務含む)	科目ナンバー	S11214
担当者	児玉 利大		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目[医療秘書実務士]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	選択:介護福祉士 必修:医療秘書実務士		

授業の概要	<p>少子、高齢化社会へ急速に移行しているわが国において、医療を取り巻く社会環境の変革を求められる現在、患者のためのより良い医療提供と医師本来の社会的責務が達成できるよう、補佐業務を身につけ医療秘書実務士の資格を取得する。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療の基本的な理解と医療事務全般にわたる基礎知識を学習する 2. 医療事務に関する諸規則についての知識を習得する 3. 医療知識を身につけ、診療録及び病院の業務の流れを理解する

授業計画		担当者
第1回	医療事務総論の必要性と医療事務の特性	児玉
第2回	病院医療の概要	児玉
第3回	医療事務の仕事	児玉
第4回	医療秘書の役割と業務	児玉
第5回	社会保障制度	児玉
第6回	医療保険制度の概要	児玉
第7回	医事関係法規	児玉
第8回	医療施設の概要	児玉
第9回	保険請求業務	児玉
第10回	医事業務	児玉
第11回	外来、入退院業務	児玉
第12回	料金徴収業務、統計業務	児玉
第13回	介護保険制度	児玉
第14回	医療秘書としての人間関係と接遇	児玉
第15回	医療事務総論の総括	児玉

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○			
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	前もって教科書に目を通しておくこと 意味の分からない用語は事前に調べておく			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	プリント配布資料による復習			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合(定期試験を含む)求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	水曜日 16:10～16:30 非常勤講師室(本館104号)
テキスト	『病院事務のための医療事務総論/医療秘書実務』 日本医療福祉実務教育協会監修 建帛社 2017年 3200円(税抜き) (ISBN:978-7679-3226-7)
参考文献等	『医療秘書実務士選書 医療事務総論』 日本医療福祉実務教育協会監修 建帛社 『新訂 医療事務の手引』 社会保険研究所
成績評価基準	医療事務に関する基礎知識及び諸規則を習得、診療録や病院業務の流れを理解できたと確認された場合に合格とする。
成績評価の方法	受講態度(20%) 定期試験(80%)
GPA基準	
備考	

科目名	医療事務演習	科目ナンバー	S11215
担当者	児玉 利大		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目[医療秘書実務士]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	選択:介護福祉士 必修:医療秘書実務士		

授業の概要	医療秘書実務士養成の趣旨に沿って、医療事務及び診療報酬点数の基本を短時間で学べることを目的とし、医療福祉の現場で活躍することを目指している。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 診療行為における診療報酬算定要件を理解する 2. 診療報酬明細書の作成及び請求について理解する 3. 医療費の仕組みと診療報酬点数の算定を行う技術を身につける

授業計画		担当者
第1回	診療報酬の仕組みと診療報酬明細書	児玉
第2回	診療報酬明細書の作成と提出	児玉
第3回	診療報酬明細書の記載の一般的事項	児玉
第4回	医科診療報酬点数の算定 1.基本診療料	児玉
第5回	医科診療報酬点数の算定 2.医学管理等・在宅医療料	児玉
第6回	医科診療報酬点数の算定 3.投薬料	児玉
第7回	医科診療報酬点数の算定 4.注射、処置料	児玉
第8回	医科診療報酬点数の算定 5.手術、麻酔料	児玉
第9回	医科診療報酬点数の算定 6.検査料	児玉
第10回	医科診療報酬点数の算定 7.画像診断、リハビリテーション料	児玉
第11回	医科診療報酬点数の算定 8.入院基本、特定入院料	児玉
第12回	医科診療報酬点数の算定 9.入院料の算定、レセプトの作成	児玉
第13回	診療報酬請求事務	児玉
第14回	診療報酬明細書の総括	児玉
第15回	診療報酬の総括	児玉

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○			
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	前もって教科書に目を通しておくこと。意味の分からない用語は事前に調べておく			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	テキスト及び配布資料等による復習			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合(定期試験を含む)求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	水曜日 16:10～16:30 非常勤講師室(本館104号)
テキスト	『診療報酬の請求』 杉本恵申・佐藤麻菜 医学通信社 2020年 2600円(税抜き) (ISBN:978-4-87058-687-1)
参考文献等	『医療秘書実務士選書 医療事務演習』 日本医療福祉実務教育協会監修 建帛社
成績評価基準	診療行為における診療報酬算定要件、診療報酬明細書の作成及び請求について理解し、医療費の仕組みと診療報酬点数の算定を行う技術を身につけることができたと確認された場合に合格とする。
成績評価の方法	受講態度(20%) 定期試験(80%)
GPA基準	
備考	

科目名	情報処理	科目ナンバー	S11213
担当者	渡邊 光浩		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目[関連科目]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	選択:介護福祉士 必修:介護保険実務士・医療秘書実務士		

授業の概要	コンピュータとインターネットの役割を理解していることが当然の世の中になっている。さらに、携帯端末で音楽を楽しんだり、写真を撮ったり、コンピュータと連携して使用できる情報メディアも多様化し、急速に普及している。このような現在においてコンピュータを活用する基礎を固め、仕事や生活に情報機器を活用できることを目指す。
授業の到達目標	1. ICTの基本的な操作技術を習得する 2. インターネットを理解し活用できるようになる 3. コンピュータを仕事や生活の道具として活用できるようになる

授業計画		担当者
第1回	情報処理、ICT活用とは	渡邊
第2回	キーボード練習	渡邊
第3回	コンピュータ・インターネットの歴史	渡邊
第4回	ブラウザを使おう	渡邊
第5回	電子メールを使おう	渡邊
第6回	Word (1) テンプレート利用／ファイルの保存・管理	渡邊
第7回	Word (2) 文字飾り・写真挿入	渡邊
第8回	Word (3) 表・図形挿入	渡邊
第9回	Excel (1) 表の作成、データ入力・並び替え	渡邊
第10回	Excel (2) 関数、データ貼り付け	渡邊
第11回	Excel (3) グラフ、印刷	渡邊
第12回	Web記事を作成しよう	渡邊
第13回	情報セキュリティについて知ろう	渡邊
第14回	PowerPointを使おう	渡邊
第15回	最終課題レポート	渡邊

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○		○	○	○

担当教員の実務経験と授業の関連	小学校教諭、宮崎県教育研修センター長期研究員としての実務経験を活かして教育現場でのICTの操作や活用法について教授する。		
事前学習	・各回の内容について、これまでに身につけている知識や操作を確認し、必要に応じて事前に調べたり、練習したりしておく。	学習合計時間(h)	15時間
事後学習	・復習し、理解や操作の習得が十分でなかった場合、受講者相互で教え合ったり、教員へ質問したりする。 ・最終課題のために総復習をする。	学習合計時間(h)	15時間

課題に対するフィードバックの方法	・毎回のレポートについてのフィードバックは、次の時間に全体の場で行う。個別に対応が必要な場合、UNIVERSAL PASSPORTでの連絡やオフィスアワーの利用をする。
質問・相談方法	・授業の前後やオフィスアワー、UNIVERSAL PASSPORTの連絡機能で対応する。
オフィスアワー	火曜日・水曜日 16:25～17:55 研究室(西館417号室)
テキスト	特になし
参考文献等	『30時間でマスター Office2019』 実教出版企画開発部 実教出版 2019年 1000円(税抜き) (ISBN: 978-4-407-34835-4)
成績評価基準	・ICTの基本的な技術を習得すること ・インターネットを理解し活用できること ・コンピュータを仕事や生活の道具として活用できること
成績評価の方法	・毎回のレポート(50%)と最終課題レポート(50%)で総合的に判断する。
GPA基準	
備考	・レポートは、メール・Web を用いて提出すること(提出の仕方は授業で説明を行う)

科目名	レクリエーション活動援助法 I	科目ナンバー	S12101
担当者	福満 博隆		
授業形式	演習	関連するDPの番号	②
配当年次	1	科目群	専門科目[関連科目]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	選択:介護福祉士 必修:レクリエーション・インストラクター		

授業の概要	レクリエーション活動の社会的意義や活動援助者としての役割、またレクリエーション種目(ニュース スポーツ)の特性と指導法を学び、レクリエーション活動における企画や運営の演習を通して、活動援助能力の習得向上を図る。 1. レクリエーション種目(ニューススポーツを中心に)の理論と実践 2. レクリエーション種目イベントの企画と運営演習①活動領域(地域社会、学校教育、職場、社会福祉分野等)を考慮した立案とその運営方法を学ぶ。②企画立案と運営における役割分担とグループワークを学ぶ。 3. 企画と運営演習の振り返りと評価。
授業の到達目標	1. レクリエーション活動の社会的意義と役割について理解する 2. レクリエーション種目(ニューススポーツ)の特性と指導法を理解する 3. スポーツ大会の企画と運営方法について実践的に学ぶ

授業計画		担当者
第1回	授業の進め方とレクリエーション活動の社会的意義について	福満
第2回	レクリエーション種目としてのニューススポーツの意義について	福満
第3回	ニューススポーツ種目の分類とゲームの特性について	福満
第4回	ニューススポーツ種目の指導法と留意点について	福満
第5回	地域におけるニューススポーツ大会の実践例と社会的意義について	福満
第6回	地域におけるニューススポーツ大会の企画・運営の方法について	福満
第7回	地域におけるニューススポーツ大会の企画づくりの演習	福満
第8回	レクリエーション種目A(ソフトバレー)を題材に生涯スポーツ大会の運営演習と評価	福満
第9回	レクリエーション種目B(スポレック)を題材に生涯スポーツ大会の運営演習と評価	福満
第10回	レクリエーション種目C(ユニホック)を題材に生涯スポーツ大会の運営演習と評価	福満
第11回	レクリエーション種目D(ティーボール)を題材に生涯スポーツ大会の運営演習と評価	福満
第12回	楽しいスポーツ・ゲームの実践と指導法について	福満
第13回	チャレンジ・ザ・ゲームの実践と指導法について	福満
第14回	楽しい健康づくり体操の実践と指導法について	福満
第15回	企画と運営の演習に対する振り返りとまとめ	福満

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○	○	○	
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	企画立案および運営演習のための打ち合わせや準備等の課題をグループで取り組む			学習合計時間(h)	7時間
事後学習	演習の振り返りをまとめる			学習合計時間(h)	8時間

課題に対するフィードバックの方法	求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業後やオフィスアワーに対応する。
オフィスアワー	月曜日 12:05～12:55[講義前] (体育館)
テキスト	特になし
参考文献等	『レクリエーション活動援助法(介護福祉士養成講座6)』中央法規出版 2007年 (ISBN-13: 978-4805828328)
成績評価基準	レクリエーション活動の社会的意義と役割及びレクリエーション種目(ニュースポーツ)の特性と指導法を理解できること
成績評価の方法	授業態度(20%) レクリエーション活動の社会的意義と役割についての理解度(20%) レクリエーション種目(ニュースポーツ)の特性と指導法の理解度(20%) イベント企画内容と運営実践能力(20%) レポートの評価(20%)
GPA基準	
備考	

科目名	レクリエーション活動援助法Ⅱ	科目ナンバー	S12201
担当者	福満 博隆		
授業形式	演習	関連するDPの番号	②
配当年次	1	科目群	専門科目〔関連科目〕
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	選択:介護福祉士 必修:レクリエーション・インストラクター		

授業の概要	レクリエーション活動の社会的意義や活動援助者としての役割について解説しながら、レクリエーション活動の体験と指導演習を通して、活動援助能力の習得向上を図る。 1. コミュニケーション・ワークを体験し、その指導法を学ぶ①楽しいゲーム、ダンス、ソング、野外活動の体験をする②ゲーム、ダンス、ソングの指導法を学び実践する③課題をグループで取り組み、コミュニケーション能力を高める。 2. 指導演習に対する振り返りとまとめを行う(評価)
授業の到達目標	1. レクリエーション活動の社会的意義と役割について理解する 2. レクリエーション活動援助能力の習得と向上を図る 3. グループ活動を通してコミュニケーション能力を高める

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション, 野外活動についての解説	福満
第2回	野外活動体験(2泊3日の集中講義)	福満
第3回	野外活動体験(自然とのふれあいを深める)	福満
第4回	野外活動体験(仲間との協力して課題を解決する)	福満
第5回	野外活動体験(課題を成し遂げる喜びの体験)	福満
第6回	野外活動体験(自分の可能性を見つめ直す)	福満
第7回	野外活動体験(知的障害者との交流体験)	福満
第8回	アイスブレイク(つどいの演出)の体験と指導法について	福満
第9回	導入から展開へのゲーム、ダンス、ソングの指導法の練習(グループ活動)	福満
第10回	導入としてのゲーム、ダンス、ソングの指導演習と振り返り評価	福満
第11回	導入から展開へのゲーム、ダンス、ソングの指導演習と振り返り評価	福満
第12回	展開からまとめのゲーム、ダンス、ソングの指導法の練習(グループ活動)	福満
第13回	グループダイナミックな展開としてのゲーム、ダンス、ソングの指導演習と振り返り評価	福満
第14回	グループ意識を持たせるまとめとしてのゲーム、ダンス、ソングの指導演習と振り返り(評価)	福満
第15回	グループワークに重点を置いたゲームの体験と指導法について	福満

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○	○	○	
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	指導実践のための打ち合わせや練習等の課題をグループで取り組む			学習合計時間(h)	7時間
事後学習	演習の振り返りをまとめる			学習合計時間(h)	8時間

課題に対するフィードバックの方法	求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業後やオフィスアワーに対応する。
オフィスアワー	月曜日 12:05～12:55 [講義後] (体育館)
テキスト	特になし
参考文献等	『レクリエーション活動援助法(介護福祉士養成講座6)』中央法規出版 2007年 (ISBN-13: 978-4805828328)
成績評価基準	レクリエーション活動の社会的意義と役割及びレクリエーション種目(ニュースポーツ)の特性と指導法を理解できること
成績評価の方法	授業への参加態度・活動への取り組み姿勢(50%) ゲーム指導の実践能力(30%) レポートの評価(20%)
GPA基準	
備考	

科目名	福祉メイクセラピー	科目ナンバー	S12103
担当者	葉月 えみ		
授業形式	演習	関連するDPの番号	②
配当年次	1	科目群	資格養成科目
開講期	前期	卒業の選択・必修	—
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:福祉メイクセラピー		

授業の概要	福祉に携わる精神と日常生活の支援活動との融合の中で、高齢者や障がい者のQOLに合わせた外見表現をメイク指導を通じて向上させる。結果、日常生活の生活の質向上及び自らができる自分を綺麗にすることの喜びを提供できる技術を習得する。
授業の到達目標	1. 福祉メイクセラピストとは何かを理解できる 2. 対象者に応じたメイク技術をおこなうことができる 3. 基礎的なメイクを理解することが出来る

授業計画		担当者
第1回	概論:福祉メイクセラピストとは(福祉とは、メイクセラピストの役目とは) 実習:挨拶の方法と立ち位置	葉月
第2回	実習:印象を変えるポイント:眉毛の書き方(基本と応用 ペンシルとシャドーの使い方)	葉月
第3回	理論:色は、無意識層に話しかける。カラーによるメイクセラピー 実習:アイメイクとリップメイク&チークメイク	葉月
第4回	理論:傾聴の注意と実践 実習:スキンケアとハンドマッサージ	葉月
第5回	理論:見かけ問題について考える 実習:ファンデーションの基礎	葉月
第6回	実習:印象分析と眉毛の書き分け方とリップカラーの選び方	葉月
第7回	実習:印象分析と眉毛の書き分け方とチークとアイシャドウカラーの組み合わせ	葉月
第8回	福祉施設(高齢者・障がい者の対応の違いと注目点の見方)	葉月
第9回	利用者・当事者の気持ちを理解する、体験と現場を作る上でのシステム構造的思考	葉月
第10回	実習:印象分析の伝え方と利用者・当事者主体の眉毛の書き方指導法	葉月
第11回	実習:現場の組み立て方(喜ばれるプラン作りと話題のつくり方)	葉月
第12回	実習:動作確認と利用者と当事者立場からの動作確認	葉月
第13回	実習:実際に初対面の人にメイクを施しセッションしてみる	葉月
第14回	実習:実際に初対面の人にハンドマッサージを施しセッションしてみる	葉月
第15回	実習:福祉メイクのマナー(誰の為に何をするのかサポートとは何かを理解する)振り返り	葉月

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○		○	

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	推薦図書を読む 『メイクセラピー基本のき』 アピアグループ 他	学習合計時間(h)	5時間
事後学習	理論をふまえて、実習の内容をふりかえる	学習合計時間(h)	10時間

課題に対するフィードバックの方法	求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前・後で対応する。
オフィスアワー	集中講義期間中 12:05～12:55（講義室） メール:hazuki.emi@gmail.com
テキスト	福祉メイクセラピー 葉月えみ 著 1000円 美容魔術 羽月朔夜 著 1000円 基礎からわかる！メイクアップのすべて 小林照子 著
参考文献等	顔にあざのある女性たち―「問題経験の語り」の社会学 西倉 実季 著
成績評価基準	実技(25点) : 時間内に想定メイクを終わらせることができる(10点) モデルが不快な気持ちなくメイクをさせてもらうことができる(3点) 自分の想定メイクをすることができる(3点) 第三者からみて不快な気持ちを持たせることのないメイクができる(3点) バランスの取れたメイクが出来ている(3点) 色バランスの良いメイクが出来ている(3点) 定期試験(55点) : 基礎的な皮膚学の知識が身についた(20点) 基礎的な福祉の知識が身についた(10点) 基礎的なメイクの知識が身についた(20点) 基礎的なメイクセラピーセッションの設置について理解できている(5点) 小テスト2回(10点) レポート(10点) 積極的な活動を行ったものに関しては、加算点がある
成績評価の方法	実技:20分以内(25%) 定期試験(55%) レポート(20%)
備考	

專 門 科 目

食物栄養学専攻

科目名	公衆衛生学 I	科目ナンバー	S21216
担当者	高本 亜希子		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目[社会生活と健康]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:栄養士・栄養教諭		

授業の概要	個人に対する医学のみでは疾病の予防、治療に限界がある。公衆衛生学は人間を集団とみなし、社会的側面から介入することで人間の健康を維持する学問である。本講では、私たちの身の回りの環境や環境汚染が、人々にどのような健康影響を及ぼすのかを簡単に概説し、これらの健康影響から人々の生活をまもるために、日本ではどのような社会保障制度や仕組みが整えられているのかを理解し、人々が健康な社会生活をおくる為に必要な知識を身につけさせる。
授業の到達目標	1. 公衆衛生学が身近な問題であることを認識できるようになる 2. 医療の視点から見た公衆衛生学の知識を身につける

授業計画		担当者
第1回	公衆衛生総論	高本
第2回	環境と健康	高本
第3回	感染症	高本
第4回	予防と健康管理	高本
第5回	成人保険	高本
第6回	物理的要因と健康	高本
第7回	学校保健	高本
第8回	国際保健	高本
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○			
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	テキスト及び配布資料による復習			学習合計時間(h)	15時間
事後学習	身の回りの健康維持の取り組みについて調べてみる			学習合計時間(h)	15時間

課題に対するフィードバックの方法	課題に対して、必要に応じて個別に対応を行う。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する。また、必要に応じてメール等による質問・相談も受け付ける。
オフィスアワー	水曜日 15:00～17:00 研究室(本館505号室)
テキスト	『社会・環境と健康 改訂第5版』 古野純典他 南江堂 2017年 3200円(税抜き) (ISBN;978-4-524-25968-7)
参考文献等	『公衆衛生学がみえる』 赤澤宏平他 メディックメディア
成績評価基準	公衆衛生学に関する基礎的な知識を身につけたものは合格とする。
成績評価の方法	定期試験(70%)、小テスト・受講態度(30%)で総合的に判定する。
GPA基準	
備考	

科目名	解剖生理学 I	科目ナンバー	S21101
担当者	河野 純		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目[人体の構造と機能]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:栄養士・栄養教諭		

授業の概要	<p>栄養摂取を行う人体の構造と機能についての基礎知識を修得するために、人体の方向と位置を示す用語や人体の構成単位である細胞・組織・器官について説明する。細胞では、核・細胞質(細胞小器官と細胞骨格)・細胞膜について解説する。組織では、4大組織(上皮組織・結合組織・筋組織・神経組織)の特徴について説明する。この科目では器官系のうち神経系・皮膚・免疫系について講義する。神経系では、栄養摂取と関連する咀嚼筋(顎を動かす筋)の神経支配、舌の触覚や味覚、味覚の神経伝導路、嗅覚(匂いの情報)の神経伝導路、食欲の脳内機構などについて解説する。免疫系では食物アレルギーについて触れる。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の方向と位置を示す用語を適切に用いることができる 2. 人体の構成単位である細胞・組織・器官について説明できる 3. 人体の神経系・皮膚・免疫系について説明できる

授業計画		担当者
第1回	人体の構造と区分、方向と位置を示す用語、人体の階層性、細胞(体液とホメオスタシス)	河野
第2回	細胞(構造と機能) その1:核・細胞質(細胞小器官と細胞骨格)・細胞膜	河野
第3回	細胞(細胞を構成する物質とエネルギーの生成)、細胞(構造と機能) その2:細胞膜の輸送体・受容体・酵素、組織(上皮組織)	河野
第4回	組織(筋組織、結合組織、神経組織)	河野
第5回	神経系の概観、頭蓋腔・脊柱管・髄膜・血管・脳室系、中枢神経系(脊髄の構造と機能)	河野
第6回	中枢神経系(脊髄と脳の構造と機能、脳の高次機能)	河野
第7回	末梢神経系(脳・脊髄神経の構造と機能、支配領域、自律神経系)、栄養摂取関連の神経系	河野
第8回	皮膚の構造と機能、免疫系(生体の防御機構)	河野
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○				
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	テキストの該当ページを読んで講義に臨む			学習合計時間(h)	8時間
事後学習	授業で配布するプリントを見直し、テキストの該当ページを読む 小テストの内容を復習し、類似の問題が出題されたら回答できるようにする テキストの各章末にあるゼミナール問題を解いて、理解度を確かめる			学習合計時間(h)	22時間

課題に対するフィードバックの方法	小テストでは、答案回収後、解答例を配布する。学生は、小テスト後、直ちに自己採点を行うことで、結果を知ることができる。
質問・相談方法	授業後(オフィスアワーで)対応する。
オフィスアワー	土曜日 12:05~12:20[授業後] (講義室)

テキスト	『系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔1〕 解剖生理学』 坂井建雄・岡田隆夫著 医学書院 2018年 3,800円(税抜き) (ISBN:978-4-260-03171-4)
参考文献等	『カラー人体解剖学 構造と機能:ミクロからマクロまで』 F.H.マティニー他著 井上貴央 監訳 西村書店 2003年 7,800円(税抜き) (ISBN:978-4-89013-305-5) 『脳入門のその前に』 徳野博信著 共立出版 2013年 2,200円(税抜き) (ISBN:978-4-320-05730-2) 『脳—『かたち』と『はたらき』—』 C. Watson, M. Kirkcaldie, G. Paxinos著 徳野博信訳 共立出版 2012年 5,500円(税抜き) (ISBN:978-4-320-05722-7)
成績評価基準	到達目標を踏まえて、人体の構造と機能についての基礎知識が理解できたと確認できた場合を合格とする。
成績評価の方法	第3回/第5回/第7回の授業で実施する小テスト(10%)と定期試験(90%)の結果を総合して評価する。
GPA基準	
備考	授業計画のテキスト該当ページ 第1回:17-20;25-30;59-62 第2回:30-46 第3回:33-43;46-49 第4回:49-55;386-392 第5回:197-199;361-365;384-386;395-397;406-414 第6回:397-435 第7回:262-272;409-418 第8回:462-480

科目名	解剖生理学Ⅱ	科目ナンバー	S21217
担当者	竹中 正巳		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目[人体の構造と機能]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:栄養士・栄養教諭		

授業の概要	講義は器官相互の位置関係も重視し、人体構造が立体的にとらえられるようにする。疾病と関連させて人体の構造と機能を解説することにより、日常生活に役立つ内容にする。また、全身の諸組織・諸臓器の機能とその役割についても十分に解説する。
授業の到達目標	1. 人体構造の仕組みと働きを理解する。 2. 器官相互の有機的関連を考え、その根底にある人体の原理を知る。 3. 人体の構造と機能を多面的にとらえられるようになる。

授業計画		担当者
第1回	細胞・組織・外皮・中枢神経・末梢神経の構造と機能	竹中
第2回	消化吸収(消化管の構造と機能)	竹中
第3回	消化吸収(栄養素の消化吸収のしくみ)	竹中
第4回	消化吸収(膵臓、肝臓、胆嚢の構造と機能)	竹中
第5回	呼吸器の構造と機能	竹中
第6回	心臓・血管(心臓、動脈、静脈の形態と機能)	竹中
第7回	血管・リンパ管(血液の組成と機能、血圧とその調節、リンパ管の構造と機能)	竹中
第8回	泌尿器(腎臓の構造と機能、尿、排尿路の構造と機能)	竹中
第9回	自律神経と内分泌(視床下部、下垂体、甲状腺、上皮小体、膵臓の各ホルモンの作用と分泌調節)	竹中
第10回	内分泌(副腎、性腺の各ホルモンの作用と分泌調節)	竹中
第11回	骨格・関節の構造と機能	竹中
第12回	筋肉の構造と機能	竹中
第13回	感覚器(眼・耳・舌・鼻の構造と機能)	竹中
第14回	生殖器(男女生殖器、精巣・卵巣の構造と機能)、人体の発生(受精と胎児の発生)	竹中
第15回	ヒトの成長と老化	竹中

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○			
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	テキストをよく読んで講義に臨む			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	講義後はテキストの各章末にあるゼミナール問題を解いて、理解度を確かめる			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、受講者の求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	木曜日 12:10～12:50 研究室(本館502号室)
テキスト	『系統看護学講座1 解剖生理学』坂井建雄・岡田隆夫 医学書院 2018年 3,800円(税抜き)(ISBN:978-4-260-03171-4) 『看護師国家試験 解剖生理学クリアブック-第2版-』日本生理学会教育委員会編 医学書院 2018年 2,000円(税抜き)(ISBN:978-4-260-02442-6)
参考文献等	『カラー人体解剖学-構造と機能:マクロからミクロまで』井上貴央監訳 西村書店 2003年 7,800円(税抜き)(ISBN:978-4-890-13305-5)
成績評価基準	到達目標を踏まえて、解剖生理学の概要が理解できたと確認できた場合、合格とする。
成績評価の方法	毎授業ごとの小テストの結果を合算(100%)して評価する。
GPA基準	
備考	

科目名	栄養生化学 I	科目ナンバー	S21102
担当者	住澤 知之		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目[人体の構造と機能]
開講期	前期	卒業の選択・必修	必修
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:栄養士・栄養教諭		

授業の概要	後期に学ぶ、栄養素の代謝や機能を理解するための基礎的な知識として、三大栄養素の化学的な構造や特徴を通し、三大栄養素とはどのような物質であるのかを解説する。また、食事を摂取する意味を理解するために、生体内での主たるエネルギー源であるATPの産生にいたる代謝の概要についても説明する。特に、代謝をつかさどる酵素とその反応の特徴と調節について詳説する。さらに、ATPと遺伝の仕組みの基礎理解のために、ヌクレオチドと核酸についても解説する。
授業の到達目標	1. 三大栄養素や核酸について、化学構造や特徴から説明できる 2. 生体内でのエネルギー産生の流れについて説明できる

授業計画		担当者
第1回	生化学を学ぶために必要な化学の基礎知識	住澤
第2回	細胞と生体膜	住澤
第3回	アミノ酸1(構造的特徴と分類①)	住澤
第4回	アミノ酸2(分類②と性質)	住澤
第5回	ペプチドとタンパク質、酵素1(酵素とは)	住澤
第6回	酵素2(酵素反応とその特徴及び調節)	住澤
第7回	糖質の化学1(単糖類)	住澤
第8回	糖質の化学2(二糖類と多糖類)	住澤
第9回	脂質の化学1(脂肪酸と単純脂質)	住澤
第10回	脂質の化学2(複合脂質)、生体エネルギー1(ATP)	住澤
第11回	生体エネルギー2(電子伝達系と酸化的リン酸化)	住澤
第12回	中間代謝の概要1(代謝経路、糖質代謝)	住澤
第13回	中間代謝の概要2(脂質代謝、アミノ酸代謝)	住澤
第14回	ヌクレオチド	住澤
第15回	遺伝子、核酸、染色体	住澤

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○				
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	高校で学んだ化学や生物を復習し、科学的な考え方や基礎的な化学知識について身につけておくこと。			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	各回のプリントを見直して理解し、過去に出題された栄養士実力認定試験の問題が解けるようにしておくこと。			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	各回の授業終了時に行う問題について、その都度、個別ないしはグループごとに指導することにより、フィードバックを行う。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する。また、必要に応じてメール等による質問・相談も受け付ける。
オフィスアワー	火曜日 16:30～18:00 研究室(本館501号室)
テキスト	毎回プリントを配布するため、テキストは使用しない。
参考文献等	『ストライヤー 基礎生化学』 J. L. Tymoczko, J. M. Berg, L. Stryer 著・入村 達郎、岡山 博人、清水 孝雄 監訳 東京化学同人 2010年 7,900円(税抜き) (ISBN9784807907472) 『ヴォート 基礎生化学 第5版』 D. Voet, J. G. Voet, C. W. Pratt 著・田宮 信雄、八木 達彦、遠藤 斗志也、吉久 徹 訳 東京化学同人 2017年 7,600円(税抜き) (ISBN9784807909254) 『生化学がわかる』 田中越郎 技術評論社 2011年 1,780円(税抜き) (ISBN978-4774148267)
成績評価基準	三大栄養素について、それぞれがどのような物質であるのか、生体内でのATP産生の概要、酵素反応の特徴と調節及びヌクレオチドと核酸について説明できたものは合格とする。
成績評価の方法	期末試験(100%)のみで評価する。
GPA基準	
備考	他学科開放科目

科目名	栄養生化学Ⅱ	科目ナンバー	S21218
担当者	住澤 知之		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目[人体の構造と機能]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:栄養士・栄養教諭		

授業の概要	<p>私たちが健康的に生きていけるのは、体内で代謝が、滞りなく、正しく行われているからである。そこで、三大栄養素が体内でどのように代謝されるのかについて解説する。また、私たちの体内で日々行われている遺伝情報の活用や生体の恒常性維持の仕組みのすばらしさについても説明する。さらに、栄養士として働くために必須である食物アレルギーの理解のため、免疫と生体防御の基礎やアレルギーについても解説する。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 三大栄養素の代謝と遺伝情報の流れについて説明できる 2. ホルモンによる恒常性の維持とアレルギーについて説明できる

授業計画		担当者
第1回	解糖系	住澤
第2回	クエン酸回路	住澤
第3回	糖新生と血糖調節	住澤
第4回	血糖調節とグリコーゲン代謝	住澤
第5回	グリコーゲン代謝とグルコース以外の糖の代謝	住澤
第6回	体内における脂質の輸送とリポタンパク質	住澤
第7回	脂肪酸の生合成	住澤
第8回	脂肪酸の酸化(β酸化)、コレステロール合成	住澤
第9回	アミノ基転移反応、酸化的脱アミノ反応、尿素回路	住澤
第10回	脱炭酸反応、アミノ酸由来の生体物質	住澤
第11回	複製、修復、転写	住澤
第12回	タンパク質生合成(翻訳)、免疫と生体防御	住澤
第13回	免疫グロブリン、アレルギー	住澤
第14回	内分泌系の概略と制御機構	住澤
第15回	主なホルモン	住澤

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○				
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	前期の「栄養生化学Ⅰ」で学んだ、関連する内容について復習を行っておくこと。			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	各回のプリントを見直して理解し、過去に出題された栄養士実力認定試験の問題が解けるようにしておくこと。			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	各回の授業終了時に行う問題について、その都度、個別ないしはグループごとに指導することにより、フィードバックを行う。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する。また、必要に応じてメール等による質問・相談も受け付ける。
オフィスアワー	水曜日 16:30～18:00 研究室(本館501号室)

テキスト	毎回プリントを配布するため、テキストは使用しない。
参考文献等	『ヴォート 基礎生化学 第5版』 D. Voet, J. G. Voet, C. W. Pratt 著・田宮 信雄、八木 達彦、遠藤 斗志也、吉久 徹 訳 東京化学同人 2017年 7,600円(税抜き) (ISBN9784807909254) 『イラストレイテッド ハーパー・生化学 原書30版』 清水 孝雄 監訳・五十嵐 和彦、内海 利男、大井 浩明、大森 司 訳 丸善出版 2016年 7,600円(税抜き) (ISBN978-4-621-30097-8)
成績評価基準	三大栄養素の代謝、遺伝情報の流れ、ホルモンによる恒常性の維持及びアレルギーについて説明できたものは合格とする。
成績評価の方法	期末試験(100%)のみで評価する。
GPA基準	
備考	他学科開放科目 「栄養生化学 I」の単位を修得しておくことが望ましい。

科目名	食品学総論	科目ナンバー	S21103
担当者	木戸 めぐみ		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目[食品と衛生]
開講期	前期	卒業の選択・必修	必修
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:栄養士・栄養教諭・フードスペシャリスト		

授業の概要	日本においては、現在多国籍、多種類、多形態の食品が豊富に出回り、多様な食品を口にする機会が増えている。それに伴い食品に求められる役割も、栄養性、嗜好性に加えて、生体調節性と多岐にわたっている。本講義では、健康な食生活を営むために必要な食品を正しく選択できるよう、食品成分の特徴を説明し、食品に関する基礎的知識を講義する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食品成分の特徴を理解する 2. 食品に関する基礎的知識を身につける 3. 健康な食生活を営むために必要な食品を正しく選択できる

授業計画		担当者
第1回	食環境(世界や日本の食料事情を学ぶ)	木戸
第2回	食品成分表(食品成分表の内容構成を学ぶ)	木戸
第3回	食品成分表(食品成分表の数値の意味を実際の計算で理解する)	木戸
第4回	色素成分(食品本来の色や調理・加工による変色)	木戸
第5回	香気成分(食品特有、加工や微生物によるにおい等)	木戸
第6回	呈味成分(味の成分、種類等について学ぶ)	木戸
第7回	水(食品中の水の性質を理解する)	木戸
第8回	炭水化物(食品中の炭水化物の種類と変化を学ぶ)	木戸
第9回	脂質(食品中の脂質の種類と性質、変化を学ぶ)	木戸
第10回	タンパク質(食品中のタンパク質の種類とその変化)	木戸
第11回	ビタミン(食品中に含まれるビタミンの性質と変化)	木戸
第12回	無機質(食品中のミネラルの働きや摂取上の注意)	木戸
第13回	機能性(食品の性質と表示について学ぶ)	木戸
第14回	物性(テクスチャーの意味を理解する)	木戸
第15回	官能検査(食品のおいしさを評価する方法を学ぶ)	木戸

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○				
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	前もってテキストに目を通す。			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	不明な点について調べたり、質問する。いろいろな食品を実際に見たり、触ったりする。			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	授業中のミニテストや計算課題に関して、解説を行う。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する。また、必要に応じてメール等による質問・相談も受け付ける。
オフィスアワー	火曜日 14:00～18:00 研究室(本館505号室)

テキスト	『栄養科学イラストレイテッド 食品学 I 食べ物と健康—食品の成分と機能を学ぶ』 水品善之他 羊土社 2015年 2,600円(税抜き) (ISBN:978-4-7581-0879-9)
参考文献等	特になし
成績評価基準	食品成分の特徴を理解すること。
成績評価の方法	期末試験(70%)、受講態度(30%)で総合的に判定する。
GPA基準	
備考	他学科開放科目

科目名	食品学各論	科目ナンバー	S21219
担当者	木戸 めぐみ		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目[食品と衛生]
開講期	後期	卒業の選択・必修	必修
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:栄養士・栄養教諭・フードスペシャリスト		

授業の概要	食品には、様々な性質を持つ物質が含まれており、食品に含まれる物質の性質を良く理解することで、その食品に適した調理方法や保存方法を選択することができる。本講では、各食品群の代表的な素材について、食品に含まれる化学成分の特徴、鮮度保持、貯蔵方法などを食品の栄養的価値と関連付けて解説し、食品素材への理解を深めることを目的とする。また、様々な食品に含まれる機能性成分が、どの様なメカニズムにより人体に作用するかについても概説する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食品の成分特性、生理的機能について理解する 2. 食品の加工時における成分の変化について理解する 3. 食品の貯蔵法、加工法について理解する

授業計画		担当者
第1回	食品の分類、食料の需給	木戸
第2回	植物性食品－穀類	木戸
第3回	いも類、甘味料	木戸
第4回	豆類、種実類	木戸
第5回	野菜類	木戸
第6回	果実類	木戸
第7回	きのこ類、藻類	木戸
第8回	動物性食品－魚介類	木戸
第9回	肉類	木戸
第10回	卵類	木戸
第11回	乳類	木戸
第12回	各種食品－食用油脂、菓子類	木戸
第13回	嗜好飲料、酒類	木戸
第14回	調味加工食品類、保健機能食品と健康用食品等	木戸
第15回	総括・まとめ	木戸

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○				
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	前もってテキストに目を通す。			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	授業で小テストを実施するので、その内容について復習を行う。いろいろな食品を実際に見たり、触ったりする。			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題に対して、必要に応じて個別に対応を行う。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する。また、必要に応じてメール等による質問・相談も受け付ける。
オフィスアワー	火曜日 14:00～18:00 研究室(本館505号室)

テキスト	『栄養科学イラストレイテッド 食品学Ⅱ 食べ物と健康—食品の分類と特性、加工を学ぶ』 栢野新市他 洋土社 2015年 2,700円(税抜き) (ISBN:978-4-7581-0880-5)
参考文献等	特になし
成績評価基準	食品の持つ性質や加工特性に関する基礎的な知識を身につけたものは合格とする。
成績評価の方法	定期試験(70%)、小テスト・受講態度(30%)で総合的に判定する。
GPA基準	
備考	

科目名	食品学実験	科目ナンバー	S21104
担当者	木戸 めぐみ		
授業形式	実験	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目[食品と衛生]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:栄養士・栄養教諭・フードスペシャリスト		

授業の概要	後に続く各種の実験に興味を持ち、楽しく、安全かつ正確に実験できるように、実験に必要な基礎知識と基本操作を説明し、基本的実験姿勢が身につくことを目標として、実験と講義を行う。さらに、食品に対する理解が深まるよう、身の回りにある食材をサンプルとして使用する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実験に必要な基礎知識を理解する 2. 基本操作を学び、基本的実験姿勢を身につける 3. 食品に対する理解を深める

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション(実験に必要な基礎知識と準備)	木戸
第2回	水分定量(食品中の水分を測定する)	木戸
第3回	pH測定(pH測定と緩衝能を理解する)	木戸
第4回	水酸化ナトリウムの標定(ファクターを求める)	木戸
第5回	食酢中の酢酸の定量(食酢に含まれる酢酸%を求める)	木戸
第6回	カゼインの分離(カゼインと乳清たんぱく質の特徴を学ぶ)	木戸
第7回	無機質の定性と炎色反応(無機質の性質を知る)	木戸
第8回	糖の定性(化学反応で糖質の特徴を理解する)	木戸
第9回	たんぱく質の定性(たんぱく質とアミノ酸の特徴)	木戸
第10回	分光光度計の練習実験(サンプル量の求め方を知る)	木戸
第11回	グルタミン酸定量(醤油中の量を測定する)	木戸
第12回	官能評価(閾値、味の相互作用を実際に確かめる)	木戸
第13回	酵素の活性測定(アミラーゼの糖化力を測定する)	木戸
第14回	酵素による褐変、非酵素的褐変(褐変の条件を調べる)	木戸
第15回	総括・まとめ	木戸

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○		○	
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	実験書に目を通し、実験内容を理解し、必要な準備を行う。			学習合計時間(h)	5時間
事後学習	実験内容をまとめ、レポートとして提出する。			学習合計時間(h)	10時間

課題に対するフィードバックの方法	実験説明の中で、レポート内容の説明も同時に実施する。レポート内容チェック後、返却の際、解説を行う。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する。また、必要に応じてメール等による質問・相談も受け付ける。
オフィスアワー	火曜日 14:00～18:00 研究室(本館505号室)

テキスト	授業で配布する資料
参考文献等	『食品学総論実験—実験で学ぶ食品学—』 江角彰彦 同文書院 2018 2,400円(税抜き)(ISBN:978-4-8103-1345-1)
成績評価基準	実験に必要な基礎知識を理解し、基本的実験姿勢を身につけ、食品に対する理解を深めること。
成績評価の方法	レポート・受講態度(60%)、期末試験(40%)
GPA基準	
備考	教育効果向上のため、2コマ(180分)×15回で実施する。

科目名	食品衛生学	科目ナンバー	S21105
担当者	高本 亜希子		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目[食品と衛生]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:栄養士・栄養教諭・フードスペシャリスト		

授業の概要	様々な衛生管理が行われているにもかかわらず大規模化・劇症化する食中毒、環境汚染に由来する食品汚染、流通の発達に伴う加工食品や食品添加物摂取量の増大、頻発する食品の偽証表示、食糧自給率の低下、輸入食品の増加等の実態に目を向け、安全、安心な食生活を送るためにはどうすれば良いかを考えさせる。
授業の到達目標	1. 食品に関する安全面での現状認識を行う 2. 食中毒予防や衛生管理法を習得する

授業計画		担当者
第1回	食品の変質(腐敗、変敗、変質の予防法を学ぶ)	高本
第2回	食中毒総論(食中毒の定義、種類、発生状況を学ぶ)	高本
第3回	自然毒食中毒(きのこ、じゃがいも、青酸配糖体等)	高本
第4回	自然毒中毒(魚類、貝類の毒性とマスターテーブル)	高本
第5回	微生物性食中毒(感染型食中毒を学ぶ)	高本
第6回	微生物性食中毒(毒素型食中毒を学ぶ)	高本
第7回	食品による感染症・寄生虫症を学ぶ	高本
第8回	食品衛生管理(日本のHACCPを理解する)	高本
第9回	食品中の汚染物質(カビ毒等による汚染を学ぶ)	高本
第10回	食品中の汚染物質(化学物質による汚染を学ぶ)	高本
第11回	食品の器具と容器包装(素材と衛生・環境汚染を学ぶ)	高本
第12回	食品添加物総論(分類、指定要件、使用・表示基準)	高本
第13回	食品添加物各論(種類と用途を学ぶ)	高本
第14回	有機栽培・遺伝子組み換え・放射線照射食品を学ぶ	高本
第15回	食品衛生行政(食品安全行政/食品衛生関連法規を学ぶ)	高本

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○			
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	前もってテキストに目を通す			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	不明な点について調べたり、質問する・食品を購入する時は、表示を確認する			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題に対して、必要に応じて個別に対応を行う。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する。また、必要に応じてメール等による質問・相談も受け付ける。
オフィスアワー	水曜日 15:00～17:00 研究室(本館505号室)

テキスト	『食べ物と健康 食品の安全 改訂第2版』有菌幸司 南江堂 2018年 2700円(税抜き) (ISBN: 978-4-524-24532-1)
参考文献等	授業での配布資料等
成績評価基準	食品衛生に関する基礎的な知識を修得したものは合格とする。
成績評価の方法	定期試験(70%)、小テスト・受講態度(30%)により総合的に評価する。
GPA基準	
備考	

科目名	食品衛生学実験	科目ナンバー	S21220
担当者	高本 亜希子		
授業形式	実験	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目[食品と衛生]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:栄養士・栄養教諭		

授業の概要	最近、食中毒の増加や、ウイルスによる新たな感染症の出現、モラルの欠如による違法販売等の様々な問題が生じている。この実験では、微生物実験と化学実験を通じて、衛生に関する基本的な問題点を認識する。微生物実験では、身の回りの至るところに微生物が存在することを認識し消毒・滅菌の意義を理解させる。化学実験では、食品や水、環境等に関する衛生上の問題点を認識し、安全な食生活とは何かを理解させる。
授業の到達目標	1. 消毒・滅菌の意義を理解し、衛生観念を高める 2. 衛生上の問題点を認識する 3. 安全な食生活とは何かを理解する

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション(実験の説明、次回の準備、実験計画)	高本
第2回	手指の汚染度検査、空中落下菌・浮遊菌の測定	高本
第3回	手指の汚染度検査、空中落下菌・浮遊菌の測定	高本
第4回	細菌の形態観察(細菌を染色後、顕微鏡で観察する)	高本
第5回	食品の衛生検査(各種条件での菌数の違いを確認する)	高本
第6回	発酵乳、乳酸菌飲料中の乳酸菌数測定による成分規格	高本
第7回	食中毒菌の検査(黄色ぶどう球菌、サルモネラ属菌の検出)	高本
第8回	耐熱性・紫外線抵抗性試験(菌の耐熱性や紫外線抵抗)	高本
第9回	保存料(ソルビン酸)の抗菌力試験、薬剤感受性試験	高本
第10回	保存料(ソルビン酸)の定量、重金属(スズ)の抽出	高本
第11回	重金属(スズ)の検出(缶詰中のスズ溶出量を測定する)	高本
第12回	食品の腐敗・変質試験(揮発性塩基窒素、ヒスタミンの検出)	高本
第13回	食品中の添加物検査(発色剤、漂白剤を検出する)	高本
第14回	水質試験(日常使用している水道水の水質検査を行う)	高本
第15回	環境衛生試験(風速 感覚温度 空気汚染度 照度 騒音)	高本

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○			
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	実験書に目を通し、実験内容を理解する			学習合計時間(h)	5時間
事後学習	実験の前にすべき内容を確認し、準備する 実験結果を観察し、レポートとして提出する			学習合計時間(h)	10時間

課題に対するフィードバックの方法	レポートや課題に対して、必要に応じて個別に対応を行う。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する。また、必要に応じてメール等による質問・相談も受け付ける。
オフィスアワー	水曜日 15:00～17:00 研究室(本館505号室)
テキスト	『食品環境実験50』 藤田修三 医歯薬出版 1999年 2,400円(税抜き) (ISBN-10: 4263703774)
参考文献等	配布プリント
成績評価基準	授業毎の実験を行い、その結果を適切にまとめることができたものは合格とする。
成績評価の方法	レポート・受講態度(60%)、定期試験(40%)で総合的に判定する
GPA基準	
備考	

科目名	栄養学総論	科目ナンバー	S21221
担当者	住澤 知之		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目[栄養と健康]
開講期	後期	卒業の選択・必修	必修
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:栄養士・栄養教諭・フードスペシャリスト		

授業の概要	人間にとって、生命を維持するために欠かすことのできないのが、バランスよく栄養素を摂取することである。そこで、正しい「食」についての理解を深め、健康的な生活を送るための的確な栄養指導を行うために、人間が生命や健康を維持するために欠かすことのできない栄養素を、バランスよく、適切な量摂取するという点について、主な栄養素の消化・吸収、生理的な機能及び栄養評価の方法等を通して説明する。
授業の到達目標	1. 適切な栄養素の摂取により、自らが正しい食生活を実践できる 2. 健康に生きていくための、的確な食教育ができる

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション(栄養とは?)	住澤
第2回	糖質とその消化・吸収	住澤
第3回	血糖とその調節、糖質のエネルギー源としての利用	住澤
第4回	脂質とその消化・吸収	住澤
第5回	脂質の栄養、たんぱく質とその消化・吸収	住澤
第6回	たんぱく質の栄養1(窒素出納と生物学的評価法など)	住澤
第7回	たんぱく質の栄養2(化学的評価法など)	住澤
第8回	ビタミン1(ビタミンとは・ビタミンA)	住澤
第9回	ビタミン2(ビタミンD・ビタミンE・ビタミンK)	住澤
第10回	ビタミン3(ビタミンB群①)	住澤
第11回	ビタミン4(ビタミンB群②・ビタミンC)	住澤
第12回	無機質(ミネラル) 1(無機質とは・カルシウム・リン)	住澤
第13回	無機質(ミネラル) 2(その他の主要無機質・鉄)	住澤
第14回	無機質(ミネラル) 3(鉄以外の微量無機質)、水・電解質の代謝	住澤
第15回	エネルギー代謝、摂食行動、食物繊維	住澤

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○			
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	前期の「栄養生化学Ⅰ」で学んだ、関連する内容について復習を行っておくこと。			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	各回のプリントを見直して理解し、過去に出題された栄養士実力認定試験の問題が解けるようにしておくこと。			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	各回の授業終了時に行う問題について、その都度、個別ないしはグループごとに指導することにより、フィードバックを行う。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する。また、必要に応じてメール等による質問・相談も受け付ける。
オフィスアワー	水曜日 16:30～18:00 研究室(本館501号室)

テキスト	毎回プリントを配布するため、テキストは使用しない。
参考文献等	『日本人の食事摂取基準(2020年版)』伊藤 貞嘉、佐々木 敏 監修 第一出版 2020年 2,800円(税抜き) (ISBN978-4804114088) 『健康・栄養科学シリーズ 基礎栄養学 改訂第5版』国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 監修 南江堂 2015年 2,800円(税抜き) (ISBN978-4-524-25825-3)
成績評価基準	生きていく上で必要な栄養素の適切な摂取により健康的な生活を送るための、栄養学的な基本となる考え方を理解できたものは合格とする。
成績評価の方法	期末試験(100%)のみで評価する。
GPA基準	
備考	他学科開放科目 「栄養生化学Ⅰ」の単位を修得しておくことが望ましい。

科目名	応用栄養学	科目ナンバー	S21222
担当者	寺師 睦美		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目[栄養と健康]
開講期	後期	卒業の選択・必修	必修
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:栄養士・栄養教諭		

授業の概要	人の各ライフステージにおける心身の成長発育の特性および変化と、運動や生活環境における健康の保持増進に必要な栄養管理の考え方を講義する。各ライフステージでの栄養評価法、疾患発症の特徴や基礎知識、生活習慣との関連について説明する。
授業の到達目標	1. 各ライフステージの特性、心身と生理機能の変化を理解する。 2. 運動や環境等に対応する適切な栄養管理の考え方を修得する。

授業計画		担当者
第1回	栄養マネジメントの基礎	寺師
第2回	ライフステージと栄養(食事摂取基準)	寺師
第3回	妊娠期の栄養管理(特性と栄養ケア、疾患と生活習慣)	寺師
第4回	授乳期の栄養管理(特性と栄養ケア、問題点、母乳栄養)	寺師
第5回	新生児期の栄養管理(特性と栄養ケア、問題点、離乳)	寺師
第6回	幼児期の栄養管理(特性と栄養ケア、問題点、保育所給食)	寺師
第7回	学童期の栄養管理(特性と栄養ケア、問題点、学校給食)	寺師
第8回	思春期の栄養管理(特性と栄養ケア、疾患と生活習慣)	寺師
第9回	成人期の栄養管理(特性と栄養ケア、疾患と生活習慣)	寺師
第10回	更年期の栄養管理(特性と栄養ケア、疾患と生活習慣)	寺師
第11回	高齢期の栄養管理(特性と栄養ケア、疾患と生活習慣)	寺師
第12回	高齢期の栄養管理(特性と栄養ケア、摂食機能)、小テスト	寺師
第13回	運動と栄養(運動と代謝、栄養ケア)	寺師
第14回	環境と栄養(環境変化と代謝、栄養ケア)	寺師
第15回	総括、課題発表	寺師

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○		○		
担当教員の実務経験と授業の関連	管理栄養士として病院や福祉施設等での実務経験を活かし、健康者の栄養管理の考え方について教授する。				
事前学習	講義範囲を予習する			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	応用栄養学実習と関連付けてまとめる			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	講義内で課題のポイントを説明する。 個別に対応する。
質問・相談方法	講義の後やオフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	金曜日 16:30~18:00 研究室(西館313号室)

テキスト	『応用栄養学第10版ライフステージからみた人間栄養学』 森基子・玉川和子他著 医歯薬出版株式会社 2015年 2700円(税抜き) (ISBN 978-4-263-70641-1)
参考文献等	『日本人の食事摂取基準(2015年度)』 菱田明・佐々木敏監修 第一出版 2014年 2900円(税抜き) (ISBN 978-4-8041-1312-8)
成績評価基準	各ライフステージの特徴、適切な栄養基準に応じた栄養管理、運動や環境における健康の保持増進に必要な栄養管理の考え方、生活習慣との関連について理解できる。
成績評価の方法	小テスト(10%)、課題発表(10%)、定期試験60分(80%)で総合的に評価する。
GPA基準	
備考	他学科開放科目

科目名	応用栄養学実習	科目ナンバー	S22229
担当者	寺師 睦美		
授業形式	実習	関連するDPの番号	②
配当年次	1	科目群	専門科目[栄養と健康]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:栄養士・栄養教諭		

授業の概要	人の各ライフステージにおいて、食事摂取基準に基づいた栄養管理の考え方、献立作成と調理、食教育、健康増進及び疾病の発症予防に関する栄養管理方法を講義する。実習前に実習方法を説明し、結果の検討・考察・評価、レポート作成など栄養管理を行う方法を講義する。
授業の到達目標	1. 各ライフステージの栄養基準に基づく献立作成と、適切な食品の選択及び調理方法を習得することを目的とする。 2. 実践的な栄養管理と食教育を行うことができるようになる。

授業計画		担当者
第1回	応用栄養学実習の意義と目的	寺師
第2回	乳児期栄養(特性と問題点、献立作成・調理の注意点)	寺師
第3回	離乳期栄養(調乳実習)	寺師
第4回	幼児期栄養(特性と問題点、献立作成・調理の注意点)	寺師
第5回	幼児期栄養(保育所給食実習)	寺師
第6回	幼児期栄養(保育所食教育の基本的な考え方、媒体作り)	寺師
第7回	青年期栄養(特性と問題点、献立作成・調理の注意、媒体作り)	寺師
第8回	青年期栄養(学校給食実習)	寺師
第9回	成人期栄養(特性と問題点、献立作成・調理の注意点)	寺師
第10回	高齢期栄養(特性と問題点、献立作成・調理の注意点)	寺師
第11回	高齢期栄養(高齢者施設給食嚥下食実習)	寺師
第12回	高齢期栄養(高齢者施設行事食バイキング実習)	寺師
第13回	食教育の意義と内容(指導案・媒体作り)	寺師
第14回	食教育(発表と評価)	寺師
第15回	総括	寺師

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○	○	○	
担当教員の実務経験と授業の関連	管理栄養士として病院や福祉施設等での実務経験を活かし、健常者の実践的な栄養管理の方法について教授する。				
事前学習	授業範囲を予習する。グループで課題に取り組む			学習合計時間(h)	15時間
事後学習	実習内容をまとめて、レポートを作成する			学習合計時間(h)	15時間

課題に対するフィードバックの方法	講義内で課題のポイントを説明する。個別に対応する。
質問・相談方法	講義・実習の後やオフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	金曜日 16:30～18:00 研究室(西館313号室)

テキスト	『応用栄養学実習第2版』柳沢幸江・板垣裕他編 建帛社 2016年 2300円(税別) (ISBN 978-4-7679-0586-0) 『給食施設のための献立作成マニュアル第9版』赤羽正之他著 医歯薬出版株式会社 2016年 2600円(税別) (ISBN 978-4-263-70659-6)
参考文献等	『一品料理500選治療食への展開』宗像伸子編著 医歯薬出版株式会社 2016年 5800円(税別) (ISBN 978-4-263-70650-3) 『食品成分表』香川芳子監修 女子栄養大学出版部 2019年 1400円(税別) (ISBN 978-4-7895-1019-6)
成績評価基準	各ライフステージの特徴と栄養基準に応じた栄養管理の考え方、適切な食品の選択と調理方法の工夫を理解できる。
成績評価の方法	レポート作成(30%)、献立作成(10%)、課題演習(10%)、定期試験60分(50%)で総合的に評価する。
GPA基準	
備考	

科目名	臨床栄養学総論	科目ナンバー	S21223
担当者	改元 香		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目[栄養と健康]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:栄養士・栄養教諭		

授業の概要	臨床の現場での確かな栄養管理を実施するために、栄養学的な診断、および治療の具体的な仕組みや方法を学び、臨床栄養学の基礎を講義する。また、臨床栄養学の応用である臨床栄養学各論につながる科目である。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養アセスメントの流れを理解し、臨床的意義を知る 2. 栄養アセスメントにより栄養状態を評価・判断することができる 3. 栄養法の種類を知り、目的に応じた方法を選択することができる

授業計画		担当者
第1回	臨床栄養学の基礎(意義・目的、疾患と栄養、福祉・介護)	改元
第2回	傷病者の栄養アセスメント(意義と目的)	改元
第3回	傷病者の栄養アセスメント(臨床診査)	改元
第4回	傷病者の栄養アセスメント(身体計測)	改元
第5回	傷病者の栄養アセスメント(臨床検査)	改元
第6回	傷病者の栄養アセスメント(食事調査、栄養必要量の算定)	改元
第7回	傷病者の栄養アセスメント(栄養必要量の算定)	改元
第8回	栄養管理(病院での栄養管理の流れ)	改元
第9回	栄養管理(評価、目標設定、計画)	改元
第10回	栄養管理(栄養管理計画書作成)	改元
第11回	栄養教育計画(個別教育、集団教育、栄養食事指導料)	改元
第12回	栄養管理記録(POSにおける記録、SOAPの書き方)	改元
第13回	疾患治療の種類および方法と特徴	改元
第14回	栄養法(栄養補給法の種類、経口栄養補給法)	改元
第15回	栄養法(経腸栄養補給法、経静脈栄養補給法)	改元

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○			
担当教員の実務経験と授業の関連	病院管理栄養士の実務経験を活かして、臨床栄養学について教授する。				
事前学習	テキストを読み、わからない語句を事前に調べておく			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	テキストを読み直し、より詳しく知りたいところを調べ、理解できなかったところは質問する			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題(定期試験を含む)を課した場合は、評価に対する改善点を個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後、およびオフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	金曜日 13:00~14:00 研究室(本館 504号室)

テキスト	『Nブックス 臨床栄養学概論』 渡邊 早苗他 建帛社 2018年 2,200円(税抜) (ISBN978-4-7679-0613-3)
参考文献等	特になし
成績評価基準	臨床の現場での確かな栄養管理を実施するための基礎知識を身につけたものは合格とする。
成績評価の方法	定期試験の成績(100%)で成績を評価する。
GPA基準	
備考	他学科開放科目

科目名	栄養指導論 I	科目ナンバー	S21106
担当者	改元 香		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目[栄養の指導]
開講期	前期	卒業の選択・必修	必修
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:栄養士・栄養教諭		

授業の概要	<p>栄養指導論の具体的な教育目標は、厚生労働局長通知より「個人、集団および地域の栄養指導の基本的役割や栄養に関する各種統計について講義する。また、基本的な栄養指導の技術・方法を習得する。」と規定されている。よって、栄養指導論 I では、生活習慣病予防のために如何に食行動の変容を支援していくか、栄養士が栄養指導業務に従事するために必要な知識と技術を、理論的に学ぶことが主体となる。また、栄養指導論 II および栄養指導実習 I・II に連動するものである。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養指導の概念について理解し、説明できる 2. 栄養指導の歴史や法規を理解し、栄養士の役割を説明できる 3. 栄養指導の方法論を理解し、栄養指導計画を立てることができる

授業計画		担当者
第1回	栄養指導の概念(目的と必要性)	改元
第2回	栄養指導の概念(食生活の変遷)	改元
第3回	栄養指導の沿革(栄養指導の歴史と現状)	改元
第4回	栄養指導と関連法規(栄養士法、健康増進法)	改元
第5回	栄養指導と関連法規(地域保健法、他)	改元
第6回	栄養状態の評価と栄養調査	改元
第7回	栄養指導の方法(行動科学理論と栄養指導)	改元
第8回	栄養指導の方法(行動科学理論と行動変容技法)	改元
第9回	栄養指導の方法(栄養カウンセリング)	改元
第10回	栄養指導の方法(栄養アセスメント)	改元
第11回	栄養指導の方法(PDCAサイクル)	改元
第12回	日本人の食事摂取基準(総論[策定について等]の解説)	改元
第13回	日本人の食事摂取基準(総論[策定について等]の解説、各論[エネルギー・栄養素]の解説)	改元
第14回	日本人の食事摂取基準(各論[エネルギー・栄養素]の解説)	改元
第15回	栄養指導の総まとめ	改元

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○			
担当教員の実務経験と授業の関連	病院管理栄養士の実務経験を活かして、栄養指導について教授する。				
事前学習	テキストを読み、わからない語句を事前に調べておく			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	テキストを読み直し、より詳しく知りたいところを調べ、理解できなかったところは質問する			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題(定期試験を含む)を課した場合は、評価に対する改善点を個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後、およびオフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	金曜日 13:00~14:00 研究室(本館 504号室)

テキスト	『イラスト栄養教育・栄養指導論 第5版』 城田 知子他 東京教学社 2019年 2,200円(税抜) (ISBN978-4-8082-6063-7) 『日本人の食事摂取基準(2020年版)』 菱田明・佐々木敏監修 第一出版株式会社 2020年 2,700円 (税抜) (ISBN978-4-8041-1312-8)
参考文献等	特になし
成績評価基準	栄養指導の概念やそれに伴う知識や技術の理解、および習得が達成されたものは合格とする。
成績評価の方法	定期試験の成績(95%)、受講態度(5%)で成績を評価する。
GPA基準	
備考	他学科開放科目

科目名	栄養指導論Ⅱ	科目ナンバー	S22230
担当者	改元 香		
授業形式	講義	関連するDPの番号	②
配当年次	1	科目群	専門科目[栄養の指導]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:栄養士・栄養教諭		

授業の概要	<p>栄養指導論Ⅰで学んだ基礎知識・技法をもとに、ライフステージ・ライフスタイル別の生活習慣の実態と問題点を把握し、対象者の状況に応じた具体的な栄養指導の手法について講義する。栄養指導の目的を達成するために、健康増進につながる望ましい食習慣の確立や、適切な食事療法の実践などによるQOL(生活の質)の向上を目指して、食行動変容の実現を促す方法を講義する。また、望ましい食生活を実践するための食事計画の立案を通して、食に関する自己管理能力を育成する方法を講義する。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者に対して計画的に問題を解決することができる 2. 対象者に応じた栄養教育を媒体を使用して実施することができる 3. 行動変容の評価ができ、改善点を見出すことができる

授業計画		担当者
第1回	栄養指導に必要な基礎知識(食事摂取基準等)	改元
第2回	妊娠・授乳期の栄養指導	改元
第3回	乳児期の栄養指導	改元
第4回	幼児期の栄養指導	改元
第5回	学童期および思春期の栄養指導	改元
第6回	成人期の栄養指導	改元
第7回	高齢期、傷病者および障がい者の栄養指導	改元
第8回	スポーツ選手に対する栄養指導	改元
第9回	糖尿病療養指導のための食品交換表の使い方(糖尿病の食事療法等)	改元
第10回	糖尿病療養指導のための食品交換表の使い方(表1～6、調味料について)	改元
第11回	糖尿病療養指導のための食品交換表の使い方(確認演習)	改元
第12回	糖尿病療養指導のための食品交換表の使い方(まとめ)	改元
第13回	腎臓病食品交換表の基礎	改元
第14回	腎臓病食品交換表の応用	改元
第15回	栄養指導関連の諸施策 食生活指針/休養指針/運動指針	改元

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○			
担当教員の実務経験と授業の関連	病院管理栄養士の実務経験を活かして、栄養指導について教授する。				
事前学習	テキストを読み、わからない語句を事前に調べておく			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	理解できなかったところは質問し、課された課題は必ず取り組む			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題(定期試験を含む)を課した場合は、評価に対する改善点を個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後、およびオフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	金曜日 13:00~14:00 研究室(本館 504号室)

テキスト	『イラスト栄養教育・栄養指導論 第5版』 城田 知子他 東京教学社 2019年 2,200円(税抜) (ISBN978-4-8082-6063-7) 『日本人の食事摂取基準(2020年版)』 菱田明・佐々木敏監修 第一出版株式会社 2020年 2,700円(税抜) (ISBN978-4-8041-1312-8) 『糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版』 一般社団法人日本糖尿病学会編著 株式会社文光堂 2013年 900円(税抜) (ISBN978-4-8306-6046-7) 『腎臓病食品交換表 第9版-治療食の基準-』 黒川清監修 医歯薬出版株式会社 2016年 1,500円(税抜) (ISBN978-4-263-70674-9)
参考文献等	『ライフステージ実習栄養学 第6版』 内田和宏他 医歯薬出版株式会社 2019年 2,400円(税抜き) (ISBN978-4-263-70660-2)
成績評価基準	対象者の状況に応じた栄養指導の知識や技法の理解、および習得が達成されたものは合格とする。
成績評価の方法	定期試験の成績(100%)で成績を評価する。
GPA基準	
備考	他学科開放科目

科目名	公衆栄養学	科目ナンバー	S21224
担当者	改元 香		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目[栄養の指導]
開講期	後期	卒業の選択・必修	必修
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:栄養士・栄養教諭		

授業の概要	<p>集団の健康問題が栄養管理上どのような因子に基づくのか、そしてその問題解決に栄養はどうあるべきなのかについて学ぶ。わが国の栄養摂取の変遷と国民の健康と栄養状態の関連性について学び、これからの公衆栄養活動について講義する。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆栄養学の概念を理解し、説明できる 2. わが国の栄養政策を理解し、説明できる 3. 栄養疫学を理解し、図表が示していることを説明できる

授業計画		担当者
第1回	公衆栄養学の概念(公衆栄養の意義と目的)	改元
第2回	公衆栄養活動(公衆栄養活動とその歴史)	改元
第3回	わが国の健康/栄養問題の現状と課題(環境と健康の変化)	改元
第4回	わが国の健康/栄養問題の現状と課題(食生活の変化)	改元
第5回	栄養政策(地域保健法、健康増進法、食育基本法)	改元
第6回	栄養政策(管理栄養士、栄養士養成制度)	改元
第7回	栄養政策(国民健康・栄養調査)	改元
第8回	栄養政策(健康日本21、食生活指針、食事バランスガイド、他)	改元
第9回	栄養政策(諸外国の健康・栄養政策)	改元
第10回	栄養疫学(諸外国の健康・栄養政策)	改元
第11回	栄養疫学(食事調査法の種類)	改元
第12回	日本人の食事摂取基準	改元
第13回	公衆栄養マネジメント(マネジメントサイクル)	改元
第14回	公衆栄養マネジメント(公衆栄養プログラム)	改元
第15回	公衆栄養マネジメント(公衆栄養プログラムの展開)	改元

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○				
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	テキストを読み、わからない語句を事前に調べておく			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	理解できなかったところは質問する			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題(定期試験を含む)を課した場合は、評価に対する改善点を個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後、およびオフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	金曜日 13:00~14:00 研究室(本館 504号室)

テキスト	『エスカペーシク 公衆栄養学概論 2018/2019』古畑公・田中弘之編著 同文書院 2012年 1,905円(税抜) (ISBN978-4-8103-1478-6)
参考文献等	特になし
成績評価基準	集団の健康問題を把握し、問題解決に栄養はどうあるべきなのか理解することができたものは合格とする。
成績評価の方法	定期試験の成績(100%)で成績を評価する。
GPA基準	
備考	他学科開放科目

科目名	給食管理	科目ナンバー	S21225
担当者	児玉 むつみ		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目[給食の運営]
開講期	後期	卒業の選択・必修	必修
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:栄養士・栄養教諭		

授業の概要	給食の概念および意義を説明し、栄養・食事管理に関する基礎的知識を講義する。更に特定給食施設で給食を運営するために必要な献立計画・献立作成、調理技術・衛生管理・発注・在庫管理・給食施設の経営管理等に関する基礎的知識を習得させることを目的とする。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 給食の意義および給食管理の概要について理解できる 2. 給食運営に必要な大量調理、衛生管理について理解できる 3. 次年度の給食管理実習の運営計画が概ね立案できる

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション(授業の進め方、給食管理の概要)	児玉
第2回	栄養士の職務と給食管理	児玉
第3回	特定給食施設の定義と目的	児玉
第4回	衛生管理	児玉
第5回	食中毒の特徴・症状・予防策	児玉
第6回	大量調理のポイントと生産管理	児玉
第7回	発注と在庫管理	児玉
第8回	栄養・食事管理と食事摂取基準、調味の標準化	児玉
第9回	給食のシステムと組織・人事管理	児玉
第10回	会計・原価管理、品質管理	児玉
第11回	学校における給食管理	児玉
第12回	保育所・高齢者福祉施設・病院における給食管理	児玉
第13回	栄養評価・まとめと確認(第2回から第7回までの授業)	児玉
第14回	まとめと確認(第8回から第12回までの授業)	児玉
第15回	給食管理実習の運営管理計画	児玉

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○				
担当教員の実務経験と授業の関連	栄養教諭の実務経験を活かして、給食管理について教授する。				
事前学習	教科書を使って予習する 予習プリントを配布するので、事前学習を行う			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	授業ではその日の学習内容について小テストを実施する 2年生の給食管理実習 I およびIVにおける大量調理を喫食し、授業の予備知識を得る			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合は求めに応じ個別に対応し、次回授業時に全員に解説する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する。
オフィスアワー	木曜日 12:00～15:00 研究室(南館104号室)

テキスト	『栄養士・管理栄養士のためのなぜどうして?⑥給食経営管理論』医療情報化学研究所 メディックメディア 2018年 1500円(税抜き)(978-4-89632-729-8) 七訂食品成分表2018 香川明夫監修 女子栄養大学 2019年 1400円(税抜き)(978-4-7895-1019-6)
参考文献等	特になし
成績評価基準	給食の意義目的や特徴、給食運営に必要な大量調理・衛生管理について理解でき、次年度の給食管理実習の運営計画が概ね立案できること。
成績評価の方法	定期試験 (100%)
GPA基準	
備考	他学科開放科目

科目名	調理学	科目ナンバー	S21107
担当者	山崎 歌織		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目[給食の運営]
開講期	前期	卒業の選択・必修	必修
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:栄養士・栄養教諭・フードスペシャリスト		

授業の概要	<p>食べることは栄養摂取のためだけでなく生活に潤いやリズムを作り、食事を共に摂ることで人間関係を良好にしたり精神的安定を得られるなど人間生活全体を豊かにするものである。また、調理は食材を料理にかえる最終段階を担う。よってその操作の適否が食べ物の美味しさに影響するところは極めて大きい。調理学ではその概要を知り、調理操作や食品の調理特性を中心に学ばせる。これらの理論を基に調理技術の向上や食生活の実践に役立つ理論を修得させる。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 調理学の意義や役割を理解する 2. 調理操作全般について知る 3. 食品素材別の調理法について知る

授業計画		担当者
第1回	調理学の基本:食文化と調理の意義	山崎
第2回	調理操作と調理器具:非加熱調理操作	山崎
第3回	調理操作と調理器具:非加熱調理器具	山崎
第4回	調理操作と調理器具:加熱調理操作	山崎
第5回	調理操作と調理器具:加熱調理器具	山崎
第6回	調理操作と栄養:植物性食品の特性;穀類	山崎
第7回	調理操作と栄養:植物性食品の特性;イモ類	山崎
第8回	調理操作と栄養:植物性食品の特性;豆類	山崎
第9回	調理操作と栄養:植物性食品の特性;野菜類	山崎
第10回	調理操作と栄養:動物性食品の特性;食肉類	山崎
第11回	調理操作と栄養:動物性食品の特性;魚介類	山崎
第12回	調理操作と栄養:動物性食品の特性;卵類	山崎
第13回	調理操作と栄養:動物性食品の特性;牛乳・乳製品	山崎
第14回	成分抽出素材の特性;でん粉・油脂類・ゲル化素材	山崎
第15回	総まとめ・補足説明等	山崎

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
			○		
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	次回の授業範囲についてテキストを読む			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	復習として、専門用語の意味を理解する日頃から調理操作を実行する			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	提出した課題は、次回の授業で返却し質問にはその用紙にて回答し、必要な場合は解説を行う。
質問・相談方法	毎時授業時に質問票を配布し、その用紙に記入してもらおう。相談は、オフィスアワー等で対応する。
オフィスアワー	水曜日 15:00～17:00 研究室(西館 308号室)

テキスト	『調理学の基本』 中嶋加代子編著 同文書院 2020年 2,400円(税抜き) (ISBN:978-4-8103-1482-3) 『原色食品図鑑』 菅原、井上編集 建帛社 1974年 2,900円(税抜き) (ISBN:978-4-7679-6120-0)
参考文献等	『食品成分表』 香川明夫監修 女子栄養大学出版部 1,400円(税抜き) (ISBN:978-4-7895-1018-9)
成績評価基準	調理学の意義や役割を理解し、基本的な調理操作について理解できていると判断された場合は、合格とする。
成績評価の方法	期末試験(85%)や課題レポート(10%)、受講態度(5%)により総合的に判定する。
GPA基準	
備考	

科目名	調理学実習基礎	科目ナンバー	S21108
担当者	堂園 直子		
授業形式	実験・実習	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目[給食の運営]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:栄養士・栄養教諭		

授業の概要	食に関する初歩的な調理操作を用いて、調理に必要な基礎知識や技術を指導する。講義では、栄養士業務の基本となる献立作成について指導し、実際自ら献立を作成することで基本操作(食事の組み立て方・食品の選択のしかた・食品成分表の見方・栄養計算の方法など)や調理まで、一連の作業の流れを習得させる。調理実習後には学習したことをレポートにまとめ、提出を求める。レポートのまとめ方を指導し、作成・提出・添削を通して書類のまとめかたの基本を身につけられるよう導く。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 調理学実習を通して基礎となる理論や技術を学ぶ 2. 作業効率を考えて調理操作を計画的に実践できる力を身につける 3. 自ら献立を作成することで栄養士業務の基礎技能を習得する

授業計画		担当者
第1回	講義①オリエンテーション・調理学実習とは…調理の意義・目的	堂園
第2回	講義②日常食献立の立案のしかた(1)・食品構成について	堂園
第3回	講義③日常食献立の立案のしかた(2)・食品成分表の使い方・課題提出について	堂園
第4回	講義④提出課題(日常食献立)の確認・訂正・栄養計算の方法(1)	堂園
第5回	実習1 基本的な作業・計量・切断(1) おにぎり・味噌汁(簡便法)・漬物	堂園
第6回	実習2 計量・切断(2) オレンジソースのクレープ・フレッシュサラダ	堂園
第7回	実習3 (日本料理1) 白飯・味噌汁・魚の幽庵焼き・青菜のお浸し	堂園
第8回	実習4 (日本料理2) 芋ご飯・吉野鶏の清汁・煮魚・オレンジ羹・緑茶	堂園
第9回	講義⑤中間テスト・栄養計算の方法(2)・調理工程フローチャートの作成方法・課題の確認	堂園
第10回	実習5 (西洋料理) ピラフ・鶏のクリーム煮・アスパラサラダ・ブラマンジェ・コーヒー	堂園
第11回	実習6 (中国料理) 鍋炊き白飯・八宝菜・肉団子のスープ・マンゴープリン・烏龍茶	堂園
第12回	講義⑥調理額実習基礎のまとめ・夏季休暇課題にむけて・中間テストの解説	堂園
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○		○	
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	調理実習には料理ごとのフローチャートをレポートに記入しておく。また、その流れを予習し、当日の調理実習がスムーズに行えるようイメージトレーニングをする。			学習合計時間(h)	15時間
事後学習	調理実習終了後には学習した内容をまとめ、自己学習を含めたレポートを作成する。作成したレポートは次週の授業後に必ず提出する。調理技術は授業だけでは向上しないので、各自自宅等で練習し、次回の実習に生かす。			学習合計時間(h)	15時間

課題に対するフィードバックの方法	レポート課題については、添削・返却し、訂正を各自行う。(必要に応じて再提出を行う) なお、添削内容に関して分からないことについては個別に対応する。レポート課題での不備が多い内容については、授業中にクラス全体に再指導する。プリント課題(献立作成)については、第9回(講義⑤)で確認したり、個別に対応する。小テストについても理解できなかった内容については第12回(講義⑥)で解説し、個別に対応する。
質問・相談方法	授業日(金曜日)、授業開始前・終了後などに対応する。栄養士の基本となる授業ですので、分からないことはそのままにせず、気軽に質問して下さい。その他、授業の内容や学習のしかたなど不安なこと・悩みなどありましたら相談して下さい。可能な限り、オフィスアワー時間以外でも対応します。
オフィスアワー	金曜日 8:40~12:40 (調理学実習室・講義室)
テキスト	調理学実習献立表プリント(毎回配布) 『七訂食品成分表2019』香川明夫監修 女子栄養大出版部 2020年 1400円(税抜き) (ISBN13:9784789510196) 『NEW調理と理論』山崎清子ほか共著 同文書院 2011年 2600円(税抜き) (ISBN13:9784810313956) 『給食施設のための献立作成マニュアル』富田教代ほか 医歯薬出版株式会社 2600円(税抜き) (ISBN:978-4-263-70659-6) 『調理のためのベーシックデータ第5版』松本仲子著 女子栄養大学出版部 1800円(税抜き) (ISBN:978-4-7895-0323-5)
参考文献等	『調理学の基本』中嶋加代子編著 同文書院 ※講義や実習で配布するプリントも活用すること。
成績評価基準	課題プリント(献立作成など)は提出され、作成内容が基準に満たしており、調理学実習6回のレポートが全て提出済でかつ、筆記試験・実技試験の合格点に達した場合、合格とする。
成績評価の方法	調理学実習・実験レポート(30%)、筆記試験(小テスト・期末テスト:40%)、実技試験(10%)、講義時課題(献立に係わる課題全て:15%)、受講態度(身だしなみ・授業中の姿勢:5%)で総合的に判定する。
GPA基準	
備考	※教育効果を向上させるため、2コマ(180分)×12回で実施する。 ※授業が実習や実験の場合で、地震や台風などの自然災害や交通の影響で通学できない学生が少数いた場合、通常の班編成を一部変更して実施する。多数の場合は休講し、補講を行う。 ※病欠や公欠等でやむなく授業に参加できない場合でも学習内容を理解するためにレポートは必ず提出すること。

科目名	調理学実習 I	科目ナンバー	S22231
担当者	山崎 歌織		
授業形式	実習	関連するDPの番号	②
配当年次	1	科目群	専門科目[給食の運営]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:栄養士・栄養教諭・フードスペシャリスト		

授業の概要	食生活を健康に営むために、科学的・合理的な調理法や調理技術を学ばせる。内容は、日本料理、西洋料理、中国料理を中心にそれぞれの料理様式の特徴を学び実習を実施することでより理解を深めさせる。また、郷土料理や行事食を体験し日本の食文化を継承する意義について学ばせる。さらに、健康で楽しく適切な食生活のあり方について、常に季節を意識し一汁三菜を基本とした日常食の献立立案と実践力を育成する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 調理学実習の心得を意識して実習に臨むことができる 2. 基本的な調理の知識・技術を身につけて調理ができる 3. 献立を立案しバランスを考えた食事を提供できる

授業計画		担当者
第1回	調理学実習の心得と実習実施のための諸注意と基本調理の確認	山崎
第2回	日本料理の特徴と調理①(親子丼、鮭のホイル焼き他)	山崎
第3回	日本料理の特徴と調理②(赤飯、天ぷら他)	山崎
第4回	西洋料理の特徴と調理①(コンソメスープ、魚のムニエル他)	山崎
第5回	西洋料理の特徴と調理②(えんどうのポターージュ、豚のカツレツ他)	山崎
第6回	中間まとめ(これまでの復習・確認)	山崎
第7回	中国料理の特徴と調理①(エビのチリソース煮他)	山崎
第8回	中国料理の特徴と調理②(五目焼きそば、水餃子他)	山崎
第9回	西洋料理の特徴と調理③(クリスマス料理)	山崎
第10回	日本料理の特徴と調理③(正月料理)	山崎
第11回	魚食普及と魚料理講習会(魚の卸し方と調理)	山崎
第12回	野菜切り試験(野菜の皮むき、切り方の確認)	山崎
第13回	実技・定期試験	山崎
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○		○	
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	毎時間の事前資料を基に、料理レシピをフローチャート化する			学習合計時間(h)	5時間
事後学習	毎時間ごとに学習した内容をレポートにまとめ提出する 日々調理に携わり、食材の切り方等に慣れ技術の向上に努める			学習合計時間(h)	10時間

課題に対するフィードバックの方法	提出された課題やレポートに対し、評価基準に従い評価し早めに学生に返却する。質問事項がある場合は、個別に回答する。
質問・相談方法	実習終了時やオフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	水曜日 15:00～17:00 研究室(西館308号室)

テキスト	『NEW調理と理論』 山崎清子ほか 同文書院 2011年 2,600円(税抜き) (ISBN:978-4-8103-1395-6) 『食品成分表』 香川明夫監修 女子栄養大学出版部 2019年 1,400円(税抜き) (ISBN:978-4-7895-1018-9) その他、実習レシピは毎時間配布する。
参考文献等	『調理学の基本』 中嶋加代子編著 同文書院 2020年 2,400円(税抜き) (ISBN:978-4-8103-1482-3) 『原色食品図鑑』 菅原、井上編集 建帛社 1974年 2,900円(税抜き) (ISBN:978-4-7679-6120-0)
成績評価基準	実習・課題レポートを全て提出し、調理学の知識や調理の要点を習得したと認められた者を合格とする。
成績評価の方法	実習・課題レポート(65%) 受講態度(20%) 実技・定期試験(15%) 以上により到達目標を達成しているか総合的に評価する。
GPA基準	
備考	教育効果向上のため、2コマ(180分)×12回で実施する。

科目名	化学	科目ナンバー	S21109
担当者	横峯 孝昭		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目[関連科目]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	選択: 栄養士・栄養教諭		

授業の概要	私たちの身の回りには多くの物質が存在している。私たちはこれらの物質を適切に用いたり、調理したりしているだろうか。そのためには、素材の成分や性質をよく知り、これにあった取り扱い方法を考えることが必要となる。そのための化学の基本を体得することが本講義の目標となる。また、生化学の高分子へその知識が接続できるようになることも目的の一つである。
授業の到達目標	1. 原子、分子について理解する 2. 化学反応について理解する 3. 有機化合物の基礎について理解する

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション	横峯
第2回	もしも原子が見えたなら (配布プリントp1-10)	横峯
第3回	もしも原子が見えたなら (配布プリントp11-20)	横峯
第4回	原子とその分類 (配布プリントp1-10)	横峯
第5回	原子とその分類 (配布プリントp11-20)	横峯
第6回	原子とその分類 (配布プリントp21-30)	横峯
第7回	物質の成り立ち (原子の中身、素粒子について)	横峯
第8回	物質の成り立ち (重さ、量についての考え方)	横峯
第9回	原子とその結合 (イオン結合)	横峯
第10回	原子とその結合 (共有結合)	横峯
第11回	物質の変化 (中和反応、酸化還元反応)	横峯
第12回	物質の状態と性質	横峯
第13回	身近な有機化合物	横峯
第14回	食品に見る生体物質	横峯
第15回	総括	横峯

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○				○
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	小・中の頃に勉強した関連の内容について復習してください			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	単元終了時の次回の講義の初めに確認テストを行います。それに向けて各自ノート、配布資料をもとに復習を重点的に行ってください			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題をクリアできなかった学生には個別に対応する
質問・相談方法	講義の前後、オフィスアワーに対応する
オフィスアワー	月曜日 16:30~18:00 研究室(西館401号)

テキスト	下記授業書を講義中に随時プリントとして配布する 『もしも原子が見えたなら』 仮説社 『原子とその分類』 仮説社
参考文献等	中学までの価格の内容を主に網羅した参考書であれば何でも良い 少々難しいが下記の参考書等を掲載しておく 『食を中心とした化学』 東京教学社 『これからはじめる化学』 三共出版 『基礎科学と生命科学』 光生館
成績評価基準	原子、分子についてのイメージが持て、かつそのイメージを持って化学反応式が説明できる。 調理に必要な濃度計算ができるようになる。
成績評価の方法	講義中に課す課題の達成(70%) 受講態度(30%)
GPA基準	
備考	他学科開放科目

科目名	学校栄養教育論	科目ナンバー	S21110
担当者	児玉 むつみ		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目[関連科目]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	選択:栄養士・栄養教諭		

授業の概要	<p>栄養教諭の役割・職務内容や「食に関する指導」の目標・内容をふまえ、学校給食を「生きた教材」として、学校全体で「食に関する指導」に取り組む重要性を講義する。また各教科や保護者・地域における連携や調整について解説し、さらに、現代の食環境の変化や日本の食文化について説明し、栄養教諭として必要な食に関する指導および管理について総合的に理解させることを目的とする。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養教諭の役割および職務内容について理解できる 2. 児童生徒の栄養に関する諸課題および食生活に関する歴史のおよび文化的事情を把握できる 3. 食に関する指導の方法を理解し実践力に繋げることができる

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション 栄養教諭の役割および職務内容	児玉
第2回	「食に関する指導」の目標と内容	児玉
第3回	学校給食の社会的意義と役割・位置付け	児玉
第4回	学校給食の歴史と変遷 子どもの心身の発達と食生活・食習慣の関連	児玉
第5回	学校給食における栄養管理	児玉
第6回	食に関する指導の全体計画の必要性と作成上の留意点 各教科における食に関する指導の展開	児玉
第7回	給食の時間における食に関する指導① 放送原稿作成	児玉
第8回	給食の時間における食に関する指導② 放送原稿発表 家庭科における食に関する指導①調理の基礎	児玉
第9回	家庭科における食に関する指導②食事の役割 栄養を考えた食事 郷土料理	児玉
第10回	体育科における食に関する指導	児玉・A
第11回	特別活動(学級活動)における食に関する指導	児玉
第12回	家庭・地域と連携した食に関する指導①食育だより作成	児玉
第13回	家庭・地域と連携した食に関する指導②食育だより発表・相互評価 食物アレルギー等食に関する個別対応の実際	児玉
第14回	現代の食環境の変化に対応した食に関する指導	児玉
第15回	日本の食文化と栄養教諭、総括「より良い栄養教諭をめざして」	児玉

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○	○	○	
担当教員の実務経験と授業の関連	栄養教諭の実務経験を活かして、学校栄養教育について教授する。				
事前学習	予習プリントを配布するので、事前学習を行う			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	観察参加実習への参加、模擬授業の実施			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合は求めに応じ個別に対応し、次回授業において全員に解説する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	木曜日 12:00～15:00 研究室(南館104号室)

テキスト	『四訂 栄養教諭論: 一理論と実際一』 金田 雅代編 建帛社 2019年 2800円(税抜き)(978-4-7679-2116-7)
参考文献等	季刊『栄養教諭一食育読本一』全国学校栄養士協議会
成績評価基準	栄養教諭の役割・職務内容、児童生徒の栄養に関する諸課題・食生活に関する歴史的・文化的事情、食に関する指導の方法を理解すること。
成績評価の方法	定期試験(100%)
GPA基準	
備考	A:大村

科目名	くらしとお茶A	科目ナンバー	S23115
担当者	山崎歌織、田中敏弘、中禮雅治、松崎康弘、住澤知之、木戸めぐみ、有馬恵子		
授業形式	講義	関連するDPの番号	③
配当年次	1	科目群	専門科目[関連科目]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	複数
免許・資格情報	選択: 栄養士 選択必修: 日本茶アドバイザー		

授業の概要	茶は2千年以上にわたり、人類に好まれてきた歴史のある飲み物である。多くの研究により、茶の効能・効果が明らかになり、健康飲料として認知される一方、茶の淹れ方や文化を知らない人も増えている。この授業では、茶の歴史や栽培法、機能性、性質や利用法に関する講義や、品質検査・鑑定法、お茶の淹れ方等の実習を行う。これらの学びを通して日本茶アドバイザーとして必要な知識を身につけ、茶文化の発展と普及に寄与する人材の育成を育成する。
授業の到達目標	1. 日本茶アドバイザーの意義、概要、役割を理解できるようになる 2. 茶に関する知識と理解を深める

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション(日本茶アドバイザーの説明)	山崎
第2回	歴史(日本茶、鹿児島茶の歴史を学ぶ)	松崎
第3回	茶の利用(茶を使った料理や活用法について学ぶ)	山崎
第4回	茶業のあらまし(茶の生産、消費、流通等を学ぶ)	田中
第5回	茶の栽培(種類別栽培・方法を学ぶ)	田中
第6回	茶の製造(製造方法を学ぶ)	田中
第7回	茶の化学(化学成分、品質等を学ぶ)	木戸
第8回	茶の健康科学(効能、効果等を学ぶ)	住澤
第9回	茶の品質検査と鑑定(官能検査法を学ぶ)	中禮
第10回	茶の品質検査と鑑定(鑑定技術を学ぶ)	中禮
第11回	インストラクション技術(服装、話し方、接客)	有馬
第12回	インストラクション技術(日本茶アドバイザーとして必要な項目)	中禮
第13回	インストラクション技術(日本茶アドバイザーとしての実技)	中禮
第14回	インストラクション技術(茶の淹れ方)	中禮
第15回	インストラクション技術(茶の鑑定の実際)	中禮

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○	○	○	
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	授業前にテキストを読んでおく			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	日常生活の中で、お茶の葉の種類、色や香り、味等を確認する			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題が課された場合は、担当者が個別に指導を行う。
質問・相談方法	基本的には、授業の前後で質問・相談に対応する。その他、オフィスアワーに対応する場合もある。
オフィスアワー	集中講義開講期間 8:40～16:20（各講義室）
テキスト	『日本茶アドバイザー講座Ⅰ、Ⅱ』NPO法人日本茶インストラクター協会（協会による実習費に含まれるため、テキスト代として単独販売は行わない）
参考文献等	『シリーズ《食品の科学》茶の科学』村松敬一郎編、朝倉書店
成績評価基準	日本茶アドバイザーの意義、概要、役割を理解し、茶に関する知識と理解が深められた者を合格とする。
成績評価の方法	定期試験60分(70%)と実技テスト(30%)で総合的に評価する。
GPA基準	
備考	夏季休暇集中講義

科目名	教育心理学	科目ナンバー	S21226
担当者	宮里 新之介		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目[関連科目]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	選択: 栄養士 必修: 栄養教諭・ピアヘルパー		

授業の概要	人がどのように発達するのか、どのように適応するのか、どのように学習するのかといったメカニズムに関する基礎的な心理学の用語及び代表的な理論について説明する。また、その知識を基に学習や人間関係における適応の支援について考える力を育成する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学習、適応、発達(知能、社会性、道徳性)に関する基礎的な概念を理解し、説明できる 2. 実証的なデータに基づき考えることができる 3. 学んだ理論と教育活動を関連させて考えることができる

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション / 教育心理学とは何か	宮里
第2回	発達とは何か	宮里
第3回	知能の発達について	宮里
第4回	社会性の発達について	宮里
第5回	道徳性の発達について	宮里
第6回	動機づけと学習	宮里
第7回	代表的な学習理論	宮里
第8回	個人差の理解	宮里
第9回	個人差への対応と特別支援教育	宮里
第10回	適応とカウンセリング	宮里
第11回	学力と教育評価	宮里
第12回	個に応じた学習指導	宮里
第13回	主体的学びの授業	宮里
第14回	人間関係の理解①(学習集団)	宮里
第15回	人間関係の理解②(教師-生徒関係)	宮里

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○			
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	意味のわからない用語は辞書等で調べておくこと			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	前授業の理解度を測るためのミニテストを実施する場合がありますので、復習をして授業に臨む			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合(定期試験を含む)求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー、また毎授業で実施する質問・感想記入シートへの回答で対応する。
オフィスアワー	木曜日 10:35~12:05 研究室(本館312号室)
テキスト	特になし
参考文献等	『教師教育テキストシリーズ 教育心理学』 杉江修治 学文社 2007年 1800円(税別) (ISBN978-4-7620-1654-7)
成績評価基準	学習、適応、発達(知能、社会性、道徳性)に関する基礎的な概念を理解し、実証的なデータに基づき考えることができること。
成績評価の方法	定期試験(80%)、講義時の受講態度及びミニテスト(20%)で総合的に判定する。
GPA基準	
備考	他学科開放科目

科目名	教職概論	科目ナンバー	S21112
担当者	山元 有一		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目[関連科目]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	選択: 栄養士 必修: 栄養教諭		

授業の概要	教員を社会的、歴史的、法的、倫理的に学ぶことを通して、教職を目指す者として知識面や人格面で今後何が必要であるのかを、自分自身を吟味しながら深めていく内容を提供する。
授業の到達目標	現代における教員の活動は多岐にわたり、しかも極めて重要である。本講義では、教職の意義、教員の役割、教員の資質について考え、学生自らが教員としての適性を吟味し、また深める機会とする。

授業計画		担当者
第1回	なぜ家庭でなく学校、親でなく教員なのか？—学校と教員の存在意義	山元
第2回	教職の職業的特徴と使命—教育の専門家にして全体的人間としての教員	山元
第3回	自分自身を知ること—「子どもは教員の鏡」	山元
第4回	現代の社会と教育の動き—『教育要領』、『指導要領』からの読解と教員に求められる事柄	山元
第5回	栄養教諭の職務内容と求められる資質	山元
第6回	幼稚園や小学校における教諭の職務内容と求められる資質	山元
第7回	学校内での連携—教員間の連携、養護教諭や栄養教諭との連携(学校等のチーム化)	山元
第8回	小幼連携、小中連携、小保連携、地域との連携—学校等のチーム化(その2)	山元
第9回	子どもの理解を深め、教育力を上げるにはどうするか？—職員研修、生涯に渡る学習の必要性	山元
第10回	教育法規①—教育基本法	山元
第11回	教育法規②—学校教育法、学校教育法施行規則等	山元
第12回	服務規律・守秘義務について	山元
第13回	教育観・教師観の歴史的変遷と現代	山元
第14回	どんな子どもを育てたいか、どんなクラスを作りたいか？	山元
第15回	自分自身に即した教師像を求めて—教育の目的と教員の資質	山元

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○				
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	各講義のの終わりに次回の内容についての事前学習について触れる			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	講義中に参考図書等の紹介で示すほか、オフィスパワー等で関連事項や発展的内容について伝える			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	各講義や定期試験の事後学習支援の一環として、オフィスアワーを利用して個別に対応する。
質問・相談方法	講義の終了後に来談学生に対してオフィスアワーの対応時間を調整する。
オフィスアワー	水曜日、木曜日を除く15:00～17:00(西館4階406号室)。要事前連絡(連絡方法は初回の講義で伝える)。

テキスト	『幼稚園教育要領』、『小学校学習指導要領』(文部科学省編)
参考文献等	特になし
成績評価基準	レポートが授業の到達目標を満たしていること。
成績評価の方法	最終レポート(100%)
GPA基準	
備考	

科目名	情報機器演習	科目ナンバー	S21113
担当者	渡邊 光浩		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	専門科目[関連科目]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	選択: 栄養士 必修: 栄養教諭		

授業の概要	コンピュータなどICT(情報通信技術)機器によるインターネット利用が広く普及している。さらに、モバイル機器やタブレットで写真を撮ったり、音楽や映像を楽しんだり、情報メディアも多様化している。このような現在において、コンピュータやその他のICT機器操作の基礎を身につけ、情報セキュリティに注意しながら、栄養士や栄養教諭の仕事でICT機器を活用できることを目指す。
授業の到達目標	1. コンピュータとネットワークの仕組みを理解する 2. セキュリティに配慮した電子情報の利用法を身につける 3. 代表的なアプリケーションの利用法を身につける

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション ～ 情報機器とは	渡邊
第2回	コンピュータとインターネットの歴史 / キーボード入力	渡邊
第3回	ブラウザを使おう ～ ネット検索のコツ	渡邊
第4回	短大のWi-Fiにつなごう / 情報セキュリティを学ぼう	渡邊
第5回	電子メールを使ってみよう	渡邊
第6回	Wordを使ってみよう(1) ～ 食育だよりを作ろう	渡邊
第7回	Wordを使ってみよう(2) ～ 指導案を作ろう 1	渡邊
第8回	Wordを使ってみよう(3) ～ 指導案を作ろう 2	渡邊
第9回	Excelを使ってみよう ～ 会計表を作ろう	渡邊
第10回	PowerPointを使ってみよう(1) ～ 自分をプレゼンテーションしよう	渡邊
第11回	PowerPointを使ってみよう(2) ～ 教材を作ってみよう	渡邊
第12回	実物投影機を使ってみよう	渡邊
第13回	著作権について考えよう / Webの記事を作成しよう	渡邊
第14回	タブレットPCを体験しよう	渡邊
第15回	最終課題(まとめ)	渡邊

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○	○	○	○

担当教員の実務経験と授業の関連	小学校教諭、宮崎県教育研修センター長期研究員としての実務経験を活かして教育現場でのICTの操作や活用法について教授する。		
事前学習	・各回の内容について、これまでに身につけている知識や操作を確認し、必要に応じて事前に調べたり、練習したりしておく。	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	・復習し、理解や操作の習得が十分でなかった場合、受講者相互で教え合ったり、教員へ質問したりする。 ・最終課題のために総復習をする。	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	・毎回のレポートについてのフィードバックは、次の時間に全体の場で行う。個別に対応が必要な場合、UNIVERSAL PASSPORTでの連絡やオフィスアワーの利用をする。
質問・相談方法	・授業の前後やオフィスアワー、UNIVERSAL PASSPORTの連絡機能で対応する。
オフィスアワー	火曜日・水曜日 16:25～17:55 研究室(西館417号室)
テキスト	特になし
参考文献等	『30時間でマスター Office2019』 実教出版企画開発部 実教出版 2019年 1000円(税抜き) (ISBN: 978-4-407-34835-4) 『学校教育と情報機器』 堀田博史・森田健宏 ミネルヴァ書房 2018年 2200円(税抜き) (ISBN: 978-4-623-081081-3)
成績評価基準	・コンピュータとネットワークの仕組みを知ること ・セキュリティに配慮した電子情報や代表的なアプリケーションの利用法を身につけること
成績評価の方法	毎回のレポート(70%)と最終課題レポート(30%)で総合的に判断する。
GPA基準	
備考	・レポートは、メール・Web を用いて提出すること(提出の仕方は授業で説明を行う)

科目名	教育原理	科目ナンバー	S21111
担当者	山元 有一		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	栄養教諭関連科目
開講期	前期	卒業の選択・必修	—
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:栄養教諭		

授業の概要	まず「教育とは何か？」を様々な観点から考え、ついで教育史から現代の教育の動向の必然性や課題を探る。同時に、過去の教育(学)者からもこの問いに向かうことになる。これらを通して、教育の理念、目的について学ぶ。
授業の到達目標	教育の基本的な考え方と目的について個人や集団・社会を視野に収めながら、教育史や教育思想に沿って教育と教育施設の理解を深めることができる。

授業計画		担当者
第1回	教育と個々人—成長の援助と覚醒としての教育	山元
第2回	教育と地域・社会—有意義な社会の再生産としての教育	山元
第3回	教育と文化あるいは異文化—文化の伝承と増殖としての教育	山元
第4回	児童中心主義の理念—その誕生の経緯と内容、課題	山元
第5回	近代家族の成立と学校—公教育制度の成立と世代の明確化	山元
第6回	ソクラテス・ルソー・フレーベル—産婆術、消極教育、「子どもから」	山元
第7回	ペスタロッチの「生活が陶冶する」—生活を前提とした合科教授の考え方	山元
第8回	デュロと「民主主義と教育」—現代日本の学校の理念と歴史	山元
第9回	現代教育の課題(その1)—少子化、遊び集団・学習集団の縮小化	山元
第10回	現代の教育課題(その2)—社会問題としてのいじめ(ネット化も含めて)	山元
第11回	現代の教育課題(その3)—家庭問題としての虐待(歴史的事例も含めて)	山元
第12回	子どもと教育目標としての自立・自律—物語等に見る成長課題としての自立	山元
第13回	子供の成長と教育計画—意図的教育と非意図的教育	山元
第14回	子どもの成長と教員の人格—「なるべきものになっていること」	山元
第15回	将来的にあるべき教育と学校の姿—国際化(社会化)と個性化	山元

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○				
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	各講義で次回の内容についての事前学習について触れる			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	講義中に参考図書等の紹介で示すほか、オフィスパワー等で関連事項や発展的内容について伝える			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	各講義や定期試験の事後学習支援の一環として、オフィスアワーを利用して個別に対応する。
質問・相談方法	講義の終了後に来談学生に対してオフィスアワーの対応時間を調整する。
オフィスアワー	水曜日、木曜日を除く15:00～17:00(西館4階406号室)。要事前連絡(連絡方法は初回の講義で伝える)。

テキスト	特に使用しない
参考文献等	『経験と教育』ジョン・デューイ 講談社『学術文庫、『学校と社会』 ジョン・デューイ 岩波文庫、そのほか、授業計画に挙げられている教育学者の著作(文庫で入手可能)。
成績評価基準	定期試験が上記の「授業の到達目標」を満たしていること。
成績評価の方法	定期試験(100%)
GPA基準	
備考	

科目名	教育制度論	科目ナンバー	S23114
担当者	池田 哲之		
授業形式	講義	関連するDPの番号	③
配当年次	1	科目群	栄養教諭関連科目
開講期	前期	卒業の選択・必修	—
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:栄養教諭		

授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・公教育の位相は時代・社会とともに変化するという事実を、戦前・戦後のわが国統治構造および公教育関係法令との対比において検証してゆく。 ・立憲主義理念に依拠した現代公教育の規範的特質を抽出するとともに、時事的教育問題を適宜取上げ、今日の公教育に求められる機能・役割を考察する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 近代公教育成立の社会背景を知り、その基本的枠組みについて理解している。 2. 現行日本国憲法下の公教育制度の特質を、関係主要法令に基づき説明することができる。 3. 公教育が直面する諸課題を認識し、課題解決に資する方策提示への視点がえられている。

授業計画		担当者
第1回	公教育の成立－諸外国の事例－	池田
第2回	わが国公教育の創出－明治前期の学校教育－	池田
第3回	教育勅語体制－戦前日本の公教育像－	池田
第4回	日本国憲法と教育基本法	池田
第5回	改正教育基本法(1)－改正の社会的・政治的背景－	池田
第6回	改正教育基本法(2)－その特徴と課題－	池田
第7回	学校制度の基本－学校教育法を軸に－	池田
第8回	教員養成および教員研修制度－教育職員免許法・教育公務員特例法を軸に－	池田
第9回	初等中等教育行政と教育委員会制度－地教行法を軸に－	池田
第10回	教育政策の決定過程－政党政治と文科省－	池田
第11回	学校と地域社会－近年の動静と連携制度－	池田
第12回	学校事故・事件の実相	池田
第13回	学校危機管理への視座－関連法制および取組の実際－	池田
第14回	現代公教育の課題(1)－「特別の教科」道徳の教授法・伝統日本文化教育私論－	池田
第15回	現代公教育の課題(2)－主権者教育の方向性－	池田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○				
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	テキストの授業予定箇所を読み込み、不明部分は資料等を検索し調べておく。			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	授業中・後に提示された課題研究に取り組む。			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題に対する参考答案例の配布・解説をとおし、知識・理解の整理を図る。
質問・相談方法	授業時間の前後またはオフィスアワーにおいて受付ける。
オフィスアワー	原則として 水曜日 16:30～17:30 研究室(西館414号室)
テキスト	『教育の本質と教師の学び』池田哲之ほか著 学文社 2019年 (ISBN 978-4-7620-2852-6)
参考文献等	・『教育から見る日本の社会と歴史』八千代出版 2010年 ・『日本人のしつけは衰退したか』講談社 2008年
成績評価基準	公教育の本質を的確に理解し、今日の学校教育をめぐる諸課題解決の方策を提示することができる。
成績評価の方法	定期試験(90%)、受講意欲・態度等(10%)。なお再試は1回にかぎり実施する。
GPA基準	
備考	単位互換[KRICE]提供科目 上記記載の各内容は、受講生数・受講生の理解度により変更となる場合があります。 学生証不携帯の出席確認未了者は欠席扱いとします。

科目名	特別支援教育	科目ナンバー	S23232
担当者	谷川 知士		
授業形式	講義	関連するDPの番号	③
配当年次	1	科目群	栄養教諭関連科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	—
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:栄養教諭		

授業の概要	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する
授業の到達目標	通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、いきる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、保護者や教員及び関係機関や地域と連携しながら、組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。

授業計画		担当者
第1回	インクルージブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解する	谷川
第2回	発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とするこどもについて理解する	谷川
第3回	視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、病弱、難病等のこどもについて理解する	谷川
第4回	特別の支援を必要とするそれぞれのこどもについて、心身の発達を理解する	谷川
第5回	特別の支援を必要とするそれぞれのこどもについて、心理的特性や学習過程を理解する	谷川
第6回	特別の支援を必要とするそれぞれのこどもについて、学習上の困難について理解する	谷川
第7回	特別の支援を必要とするそれぞれのこどもについて、生活上の困難について理解する	谷川
第8回	「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を理解する	谷川
第9回	特別支援教育に関する教育課程の枠組みを理解する	谷川
第10回	個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を理解する	谷川
第11回	特別支援教育コーディネーターの役割を理解する	谷川
第12回	関係機関や地域及び家庭との連携について、支援体制の構築と必要性を理解する	谷川
第13回	障害はないが、特別の教育的ニーズのあるこどもの対応について理解する	谷川
第14回	母国語や言語障害等の問題により、特別の教育的ニーズのあるこどもへの支援について理解する	谷川
第15回	貧困、家庭環境等の問題により特別の教育的ニーズのあるこどもへの支援について理解する	谷川

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○				
担当教員の実務経験と授業の関連	相談支援コーディネーターの実務経験を活かし、特別支援教育全般を教授する。				
事前学習	教科書の指定されたページまでを熟読し、分からない用語は辞書等で調べておく			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	毎回の小まとめ用紙を半期(7回)終了後に持ち帰らせ、振り返りの時間を持たせ、最終日には全まとめを持ち帰らせて定期試験に臨む			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	授業終了時に毎回提出する授業のまとめ用紙に課題等の回答を促し、次回の授業で回答する。
質問・相談方法	授業中での質問時間を設定する。また気軽に質問し易いように、毎回提出する授業のまとめ用紙に質問事項を自由に記入させ、コメントを添えて次回の授業始めに返却する。
オフィスアワー	第1・第3水曜日 14:40～17:55 谷川研究室(西館316号室)
テキスト	『教員になりたい学生のためのテキスト特別支援教育』 京都教育大学教育創生リージョナルセンター機構 総合教育臨床センター 相澤雅文 編集 クリエイツかもがわ 1,800円(税別)(ISBN:978-4-86342-257-5)
参考文献等	発達障害のある子へのサポート事例集 上野一彦 他著 ナツメ社、事例から学ぶ児童・生徒への指導と援助 庄司一子 監修 ナカニシヤ出版
成績評価基準	到達目標に掲げた項目を理解すること。
成績評価の方法	授業への参加態度(20%)と期末試験(80%)で総合的に評価する。
GPA基準	
備考	単位互換[KRICE]提供科目

科目名	教育の方法・技術	科目ナンバー	S21227
担当者	平野 拓朗		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	栄養教諭関連科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	—
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:栄養教諭		

授業の概要	「食に関する指導」の教育方法の観点から、学校教育における栄養教諭の役割と「食に関する指導」の目標・内容について理解する。また、「食に関する指導」の実践的展開(学習指導案の作成や情報機器・教材を効果的に活用した授業構成)に向けた栄養教諭としての指導力・実践力を身に付ける。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養教諭の役割及び「食に関する指導」の目標・内容学習評価を理解する 2. 「食に関する指導」の学習指導案を作成し、情報機器・教材を効果的に活用した模擬授業を行う 3. 栄養教諭としての専門的な指導力・実践力を身に付ける

授業計画		担当者
第1回	教育方法の基礎的理論	平野
第2回	主体的・対話的で深い学びを実現する「食に関する指導」	平野
第3回	「食に関する指導」の全体計画、学習評価	平野
第4回	「食に関する指導」と子ども・教師・教材	平野
第5回	「食に関する指導」の授業技術、情報機器の効果的な活用の仕方	平野
第6回	「食に関する指導」の学習指導案の作成	平野
第7回	「食に関する指導」の実践的展開1(情報機器・教材を効果的に活用した模擬授業)	平野
第8回	「食に関する指導」の実践的展開2(模擬授業についてのまとめ)	平野
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
			○		
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	参考図書を読む 学習指導案の計画・作成の準備 模擬授業の準備			学習合計時間(h)	15時間
事後学習	模擬授業の振り返り			学習合計時間(h)	15時間

課題に対するフィードバックの方法	必要に応じて個別に対応を行う。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	木曜日 16:10～16:25 講義室(本館404号室)

テキスト	食に関する指導の手引きー第1次改訂版ー(平成22年3月、文部科学省) 小学校学習指導要領(平成29年3月公示 文部科学省) 中学校学習指導要領(平成29年3月公示 文部科学省)
参考文献等	授業中に適宜配布
成績評価基準	到達目標に掲げた項目を理解すること。
成績評価の方法	受講態度(60%) 毎時間のレポート等の提出状況(40%)によって評価
GPA基準	
備考	

科目名	生徒指導	科目ナンバー	S21228
担当者	松元 理恵子		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	1	科目群	栄養教諭関連科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	—
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:栄養教諭		

授業の概要	「子どもの生きる力を育てる」という観点より、一人ひとりの子どもが自分の持ち味、個性をいかせる生徒指導の教育的意義と課題について説明する。そして、豊かな自己実現をはかることを支援するために学校内外で組織的に生徒指導をすすめていける必要な知識と実践力を身につけることを目指す。
授業の到達目標	1. 人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指した教育活動であると理解する 2. 学習指導と同様に重要な教育活動であることを理解し、実践するための流れを説明できる 3. 教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける

授業計画		担当者
第1回	生徒指導の意義と特質(生徒指導とは何かを学ぶ)	松元
第2回	学校内外の組織体制(校務分掌、チーム学校と運営及び関係法令を学ぶ)	松元
第3回	生徒指導の機能について(生徒指導の目標、集団指導及び個別指導を学ぶ)	松元
第4回	道徳教育・特別活動における生徒指導の意義と重要性(生活習慣の確立と規範意識)	松元
第5回	子どもの発達プロセス	松元
第6回	「いじめ」の理解と対応について	松元
第7回	特別な支援、配慮が必要な児童へのかかわりについて	松元
第8回	栄養教諭の生徒指導へのかかわりについて	松元
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○			
担当教員の実務経験と授業の関連	臨床心理士の実務経験を活かして、心理的援助について教授する。				
事前学習	次の授業でとりあげるテーマについて、授業で配布するレジュメをもとに予習をする			学習合計時間(h)	15時間
事後学習	レジュメを見ながら復習を行い、授業で配布した資料も参考にしながら自分なりにノートをまとめる			学習合計時間(h)	15時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した際に質問について受け付け、授業内でのフィードバック及び求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業前後やオフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	火曜日・木曜日 12:05～12:55 研究室(西館305号室)
テキスト	特になし
参考文献等	『はじめて学ぶ生徒指導・進路指導』 広岡義之編 ミネルヴァ書房 2016年 2,200円(税抜) (ISBN 9784623075607)
成績評価基準	生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養について理解すること。
成績評価の方法	定期試験(70%)、講義で出した課題(レポート等)の提出状況(30%)で総合的に判定する。
GPA基準	
備考	